

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	なし
※	所属なし
※	日本研究皮膚科学会など
※	Chinese Cancer Society
※	日本卵子学会、日本受精着床学会、日本臨床分子形態学会
※	日本動物学会
※	なし
※	日本蛋白質科学会、日本バーチャルリアリティ学会
※	日本進化学会
※	人工知能学会
※	日本小児血液・がん学会
※	糖尿病学会
※	現時点では学会には所属していない
※	なし
※	日本動物学会
※	日本薬学会
※	日本ウイルス学会、日本寄生虫学会
※	無所属
※	日本RNA学会
※	日本薬理学会、日本毒性学会
※	日本解剖学会
※	日本糖質学会
※	なし
※	英国発生物学会
※	日本内科学会、日本外科学会、日本運動生理がっかい、日本体力学会
※	ウイルス学会
※	日本ウイルス学会
※	日本糖質学会
※	糖質学会
※	日本細胞外小胞学会、日本DDS学会
※	日本骨代謝学会
※	なし
※	所属している学会はない
※	日本化学会
※	日本生理学会、日本循環器学会、日本獣医循環器学会
※	日本神経免疫学会
※	なし
※	日本人類遺伝学会
※	日本寄生虫学会
※	日本進化学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本化学会
※	所属学会なし
※	日本腎臓学会、日本補体学会、日本血栓止血学会
※	日本脂質生化学会、日本薬学会
※	特になし
※	日本再生医療学会
※	日本薬理学会、日本認知症学会、日本神経化学会
※	なし
※	日本微生物生態学会
※	未入会
※	日本歯科保存学会
※	日本宇宙生物科学会
※	日本脂質生化学会
※	日本繁殖生物学会、日本エピジェネティクス研究会、日本人類遺伝学会、日本ゲノム編集学会
※	なし
※	日本化学会
※	日本Cell Death学会
※	日本動物学会、日本解剖学会
※	学部生で学会に所属はしていません。
※	日本小児血液・がん学会
※	日本血液学会、日本小児科学会
※	日本ウイルス学会、日本薬学会
※	再生医療学会組織培養学会
※	未所属
※	日本動物学会
※	寄生虫学会、バイオインフォマティクス学会
※	日本ウイルス学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本人類遺伝学会
※	日本比較内分泌学会、日本内分泌学会
※	日本人類遺伝学会
※	なし
※	日本血管生物医学会
※	日本薬学会
※	日本フードファクター学会 (JSofF)
※	細菌学会、人類遺伝学会
※	生物工学再生医療
※	日本化学会 日本電気泳動学会 日本プロテオーム学会
※	日本薬理学会、日本腎臓学会、日本タンパク質学会
※	日本ウイルス学会、日本植物病理学会
※	園芸学会、育種学会、植物学会
※	日本放射線影響学会
※	日本血管生物医学会、日本病理学会
※	日本薬学会、日本糖尿病学会、日本酸化ストレス学会
※	日本獣医学会 日本細菌学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本薬学会、米国細胞生物学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本RNA学会、日本動物学会、極限環境生物学会、日本新か学会
※	日本細菌学会
※	日本蛋白質科学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本プロテオーム学会
※	日本がん転移学会
※	日本RNA学会
※	放射線影響学会宇宙生物科学会
※	日本再生医療学会、解剖学会、ISSCR
※	日本進化学会、日本獣医学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	日本ウイルス学会、日本エイズ学会
※	日本RNA学会、日本再生医療学会、日本神経化学会
※	日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会、ASBMB、米国癌学会、米国骨代謝学会等
※	日本RNA学会
※	日本応用動物昆虫学会、日本動物学会
※	骨代謝学会
※	日本植物病理学会 日本ウイルス学会
※	北米神経科学会、日本薬理学会
※	日本循環器学会、日本循環制御医学会、日本心不全学会
※	日本血管生物医学会
※	日本RNA学会
※	実験動物学会
※	日本RNA学会、The RNA Society
※	日本放射線生物学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	糖質学会・応用糖質学会
※	日本生理学会、日本病態生理学会、日本糖尿病学会、日本糖尿病合併症学会、日本糖尿病・肥満動物学会、日本神経学会、日本末梢神経学会
※	日本ウイルス学会、日本獣医学会
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本内分泌学会
※	RNA学会 無細胞研究会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本RNA学会
※	日本神経化学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本化学会 日本蛋白質科学会
※	日本人類遺伝学会 日本研究皮膚科学会
※	日本動物学会
※	日本神経化学学会
※	日本RNA学会
※	植物学会、育種学会
※	日本放射線影響学会
※	日本植物病理学会
※	日本水産学会、日本比較免疫学会
※	日本物理学会
※	日本蚕糸学会
※	日本化学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本ウイルス学会
※	日本臨床栄養代謝学会
※	日本時間生物学会日本動物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本糖質学会、日本寄生虫学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本臨床衛生検査技師会日本小児血液・がん学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	RNA学会
※	日本育種学会、日本ゲノム編集学会
※	日本育種学会、植物バイオテクノロジー学会
※	日本機械学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本植物バイオテクノロジー学会
※	日本植物学会
※	日本生物工学会、化学工学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本薬学会
※	日本動物学会
※	日本解剖学会
※	歯科基礎医学会、日本薬理学会、日本骨代謝学会、日本骨免疫学会、有病者歯科医療学会
※	日本動物学界
※	日本生体防御学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本薬学会
※	日本神経化学学会
※	日本生理学会
※	日本植物生理学会
※	日本cell death学会
※	日本化学会、CBI学会
※	日本解剖学会
※	日本ゲノム編集学会、日本生物工学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本動物学会
※	日本内分泌学会米国内分泌学会
※	日本外科学会 救急医学会 消化器外科学会 小児外科学会 など
※	実験動物学会
※	日本血液学会、日本検査血液学会、電気泳動学会など
※	アメリカ微生物学会
※	日本時間生物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本プロテオーム学会、HUPO
※	日本矯正歯科学会、日本小児歯科学会、日本口蓋裂学会、障害者歯科学会、日本歯科心身医学会、日本顎咬合学会
※	日本再生医療学会
※	味と匂学会、食品免疫学会
※	日本実験動物学会、日本ゲノム編集学会、モロシヌス研究会
※	日本薬理学会
※	日本薬学会
※	日本プロテオーム学会、日本植物バイオテクノロジー学会
※	日本獣医学会日本ウイルス学会
※	日本植物学会、日本育種学会、日本植物バイオテクノロジー学会、日本RNA学会、植物化学調節学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本がん転移学会、日本がん分子治療標的学会
※	日本放射線影響学会
※	日本物理学会
※	日本実験動物学会、日本動物遺伝育種学会、日本畜産学会、日本糖尿病学会、日本糖尿病・肥満動物学会
※	日本RNA学会、日本植物学会
※	実験動物学会
※	日本生物工学会
※	日本RNA学会、日本ケミカルバイオロジー学会
※	日本化学会
※	骨代謝学会
※	日本科学教育学会、日本医学教育学会
※	再生医療学会
※	日本細胞生粘菌学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本脂質生化学会
※	日本RNA学会、日本エピジェネティクス研究会
※	日本寄生虫学会

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	動物学会
※	日本薬学会
※	日本動脈硬化学会、中性脂肪学会
※	日本薬学会
※	日本植物学会
※	日本薬理学会アメリカ細胞生物学会
※	日本放射線影響学会米国放射線影響学会
※	日本畜産学会
※	日本動物学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本動物学会、日本農薬学会
※	日本化学会
※	日本ウイルス学会、日本獣医学会
※	日本結合組織学会
※	日本筋学会
※	蛋白質科学会
※	日本畜産学会日本家禽学会
※	薬学会
※	日本放射線影響学会
※	日本薬学会、核酸医薬学会
※	人類遺伝学会
※	再生医療、神経化学
※	日本臨床ストレス応答学会
※	日本RNA学会
※	日本実験動物学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本栄養・食糧学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本細菌学会
※	日本進化学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、
※	日本バイオイメージング学会

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	同じタイミングで似たワークショップやシンポジウムがある。
※	偏っている、というか、ミトコンドリアに関するテーマがいくつもあったりして、重複はあると感じた
※	ワクチンに関して、テーマ内容がずれていて、結局聞かなかった。
※	シンポジウムでやるには、偏り過ぎていて、気軽に聴きに行ける内容っぽくない。どちらかというワークショップというような感じでは。内容をもう少し、広範なものを含めるようにして、発表者に多様性を持たせると良いような。
※	偏っているとは思わないが、毎年同じようなメンツ・同じようなテーマのシンポジウムがあるように思った。また、分子生物学会は、「ウケれば勝ち」「面白いこと言ったもん勝ち」「意外な言葉を使えばウケる」のようなノリが行き過ぎではないかと危惧している。真面目な研究、わかりにくい重要な研究をさげすむような雰囲気は少なからず感じる。ウケ狙いの研究はあっても良いし、面白い視点や言葉を提供するのも重要だが、節度やバランスも考えるべきではないか。また、主催者やオーガナイザーが「〇〇な学会にしたい！」「自分の色を出したい！」という考えが強すぎるのときに辟易する(多少は多い、一部被っている)
※	多い、一部被っている
※	プロジェクト研究グループの発表会のような印象が強い。学会の色がない
※	in vivo系のテーマをもっと増やした方が良い
※	RNAなど同じようなセッションが多かった。もうすこし病態に関係するようなシンポジウムを増やしてほしい。生化学会と連携してほしい。
※	植物に関するテーマが少なかった。
※	もうすこしバクテリアのテーマがほしかった
※	免疫系が老化との関連でしかシンポジウムが組まれていなかった
※	脳のテーマが多かったです
※	やや偏ってはいるが、トレンドが分かりやすい
※	オンライン発表の時代では、他の追随を許さないスピードのある大手の研究室ばかりが発表し、逆にユニークだがローカルな研究者の存在感が非常に希薄になってしまっている。非常に良くない状況である。
※	研究不正問題には今後眼をつむるのですか？
※	毎回どこかの分野に偏っているのは流行りなのか、たまたまそうなのか分からないが、今年はミトコンドリアがやけに多
※	耳ざわりの良いトレンドの企画・大型研究費バックボーンのものばかりで魅力が薄かった。
※	テーマが狭すぎると思いました。分子生物学会という多分野のヒトが集まる学会ですので、もっと多くの人が聞きに来るテーマがベターに思います。
※	情報解析系の発表が昨年と比べて減少したように感じた。(特にポスター)
※	疾患に関するものが多かったように感じる。以前のように分野の幅の広さを楽しみたい。
※	医学系が多すぎる。
※	近年は研究テーマが多岐にわたるようになってきているため、テーマが偏るというよりはテーマとして分類するのが難しくなっていると感じた。
※	微生物分野がない
※	神経科学分野が少なく感じました。
※	液液相分離に帰着するテーマが多かった。
※	個体全体を扱うシンポジウムが少なかったような印象があります。
※	毎年同じような座長(いつも出たい人だけ)
※	細胞極性関連が少なかった
※	分子生物学会という名ですが、組織や個体レベルに着目したテーマが多いように感じました。
※	免疫が無いのはおかしい。
※	基礎的なものが多い
※	偏っているかどうかは別として、あまり聴きたいと思うものではありませんでした。
※	RNAのテーマが多かったと感じました。

質問5-10. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	発表の質問時間内に間に合わなかった質問を、演題のサイトを通してメールで発表者に送れるので、より有意義な情報収集ができたと思う。
※	English is recommended for all
※	進行がグタグタの印象でした。
※	シンポジウムの質疑応答時間が全体的に短いと思います。
※	オンラインはリアルタイムだけでなくアーカイブを一定期間閲覧できるようにしてほしい
※	今回も非常に勉強になっています。自分は臨床医ですが、最新の基礎を学ぶことで、平時の診療に還元できています。感謝しかありません！
※	オンラインでの参加者としては、現地で発表している先生がQ&Aを活用できていないことが残念だった。
※	シンポジウムとワークショップの数が多すぎる。整理できると思う。
※	ときどき(マイクが遠く)質問内容が聞こえなかったため、発表者あるいは座長が質問を要約してから質問に回答する形式がよいと思う。
※	オンライン参加です。ライブしかない(オンデマンドがない)ので、職場からの接続で仕事が休めないことで、聞けない時間があったことが残念だった。逆に、現地だと人気があるセッションは部屋がいっぱいになり参加できないものが多かったが、オンラインならしっかりと講演が聞けるので、よかった。
※	口頭発表は特に問題はありませんでした。ポスター発表は、数が多いこともあり、発表者が不在だったりで必ずしも視聴や議論はうまくできていないように感じました。参考まで。
※	オンラインで参加したのですが、はじめの方はONLINE CONFサイトの方に質問を書き込んだのですが気づいてもらえず、結局Zoomの方に同じ質問を書き直しました。どちらに質問を受け付けるか、統一していただけるとわかりやすいと思います。(多分Zoomに統一したほうが会議を見ながら質問を書けるので分かりやすいと思います。)
※	マイクを使わない質問者がいる。その質問をマイクでリポートする配慮のない座長がいる。現地でもオンラインでも質疑内容がわからない。
※	今後もハイブリッド開催に賛成である。運営が大変であることはよくわかります。★国内外を問わず、演者や参加者が出張時間・経費の確保をせずに気軽に参加できることは、議論の活性化に寄与すると思われる。★聴講する視点では、数週間程度(演者の許可があるものだけ)オンデマンド配信してもらえると助かる。同時刻に参加したいセッションがあるときにあてもう一方を聴くことができる。今後の年会のあり方として議論いただければ幸いです。
※	ハイブリッドは時短にもなるので、今後も可能であれば希望したい
※	音量をもう少し大きくしてもらえるとありがたかった。
※	シンポジウムで、発表は英語でやっているのに、質疑応答を日本語でやるならば、初めから発表言語は日本語で良いと思う。発表者にネイティブスピーカーもしくは外国人がいなければ、発表を英語でやる必要がないかも。スライドが英語であれば講演自体は問題ないが、コミュニケーションは圧倒的に現地の人たちがとれた。
※	一人あたりの持ち時間が少なく、発表の途中で時間を知らせる音がうるさかった。一セッションの中に詰め込みすぎだと感
※	「8.(参加者として)ハイブリッド年会での質疑に難しさを感じた」について会場では、マイクを使わず演者の先生に質問される方が稀にいらっしゃいました。そのような場合は、演者の先生のご回答から質問内容を推測するほかなく、すこし残念で
※	レコーディングして後日見れるようにしてもらえると有難かった。
※	海外からのシンポジストは、目標人数を決めるのではなく、テーマに応じてふさわしい方を国内外問わず招けばそれで良いのでは？
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	質疑は問題なく行えると思うが、オーガナイザーによって差があった
※	オーガナイザーの裁量によるが、オンラインの意見を見る先生と、全く見ない先生がいた。基本、オンラインの質問は後回しになっていた。
※	一般演題からシンポジストを募ることになってましたが、一人もおりませんでした。運営サイドから、もう少し強力に一般演題の方々にはプッシュしてほしいです。ポスター見ていると、カテゴリーに入りそうな方が何にかいらっしゃいました。口頭発表は、学生の方々でも全く恥ずかしくなく、遠慮は無用であることをお伝えください。
※	現地(会場内)で、現地・オンラインの発表を聞いたが、どちらも違和感なく聞くことができ、とても良かった。
※	オンラインでの発表も会場と一体感をもって視聴することができた。
※	中国からのオンライン発表中に3度ほど接続が切れて進行が滞った。
※	・遠隔で行われた発表で、会場での質問に対して、解答中にネットがフリーズした
※	ポスターに関しては現地開催はオンラインを見る余裕がなく、オンラインで参加したメンバーは現地開催はPDFを眺めているだけ、という感じで分断されてしまった感じがしました。口頭発表は現地・オンラインの参加形態で特に差がないように思
※	事務局の方がzoom権限と現地からの画像配信をハンドルしているせいか、演者が最後の謝辞をしゃべっている途中でzoomを切ってしまったたり、座長をしていても事務局の方がzoomの権限をもっているため、zoom視聴者からのQAの応答が遅く、タイミングをとるのが難しかった。また演者がしゃべっている途中で切れてしまい、現地側はトラブルと認識できても、オンライン側の演者はそれに気がつかずずっとしゃべっているつもりだったそうです。ハイブリッドのトラブル対応の難しさを感じました。座長席においてあったiPadにはQALかみえなかったので、zoom権限は座長にも回した方がよいと思いました。
※	オンライン発表の時代では、他の追従を許さないスピード感のある研究室ばかりが発表し、逆にスローでローカルな研究者の存在感が非常に希薄になってしまった。
※	アーカイブを残して欲しかった
※	分子生物学的、疫学的なコロナウイルスの流行を統括するようなセッションが聞きたかった。(発表者はなかなか大変だと思いますが。)
※	オンライン参加者がどのように質問すればよいのかを説明されない座長の先生や、シンポジウム・ワークショップでの質疑応答のときに時間が余っているにもかかわらずオンラインからの質問をまったく見ない座長の先生方がちらほらいらっしゃる印象を受けました。
※	正直、ハイブリッドではオーガナイザーの能力によってセッションのレベルが変わる。全体的には、うまくできたと思うが、オーガナイザーがダメにしているセッションがあった。
※	単にシンポジウム、ワークショップを聞くだけならばネット配信はとても良いと思いました。
※	会場が満杯で入れないセッションに関しては、オンラインが利用できることで視聴でき助かりました。

質問5-10. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	口頭発表については現地で聞くよりもオンラインで聞く方が音が聞きやすく感じた。
※	最近では物理学的なテーマが多いが、来年の共催を考えるとこの傾向が進むと思う。しかし、より生物学的なテーマに対して分子生物学が挑むという姿勢が欲しい。
※	オンラインの発表者の通信が不安定であった。
※	現地での質問が優先され、オンラインからの質問はほとんど受け付けられなかったように感じた。
※	やはり、回線が途中で途切れるのがいくつもあったので、オンラインの難しさを思ったが、海外の発表者が気軽に発表できるので、海外の研究者に限っては、このハイブリッド形式を継続したほうが良い。
※	学会中に予定がぎっしり入ってしまい、オンラインで参加することさえできなかった。オンデマンド配信があると有難い。見たかったです。
※	人気の演題にもオンラインで質問できたので良かった。今後も何らかの形でこのようなやりとりをしやすいように欲しい。
※	オンサイトの演者にQ and Aが見えないため、「後で回答お願いします」がうまくできなかった。オンサイトの参加者がすべてオンラインでも画面を見ていれば共有できるが、WiFiや電源の問題があると思った。
※	今年はさすがに難しかったですが、またオンサイトで参加される海外からの参加者が増えれば良いなと思いました。
※	全てオンラインで良い
※	オンライン参加者が会場の様子を見ることができればよかった。
※	オンラインでは、好きな時に質問を投げることが出来るので、便利でした。
※	この1年での経験値の蓄積は大きく、オンラインでの参加もスムーズでした。拝見した限りでは座長の切り盛りもお見事でハイブリッド開催は大変画期的で、これからも続けて欲しいと思いました。先駆的な年会となったと感じます。年会自体も大変スムーズに進んでいました。
※	横浜会場でのシンポジウム参加者が少なく、オーガナイザー(発表無し)が少々困惑気味な表情だったのはかわいそうだった。ただし非常にエキサイティングなシンポジウムだったので感謝したい。またオンライン・現地どちらもメリット・デメリットがあるので、共存してもらえると助かるし、やはりいつかはすべて現地開催に戻ってほしいと改めて思った。
※	会場にいるとオンラインでどれくらいの方が参加しているのかわからなかったのも、それぞれのセッションで会場とオンラインでどれくらい参加しているか、座長が報告してくれると、規模がわかっていいと思いました。
※	zoomのチャットやQ&Aを介した質問がスルーされる事が少ないがあった。
※	参加者に実際に医療に携わっている方がどれ位いらっしゃるかわからないが、トランスレーショナルリサーチの分野のセッションがもう少しあっても良いかと思いました。基礎研究の学会ではありますが、社会還元することも国民の期待に応えることになるのみで無く研究者にとっても新たな視点を獲得の機会になるのでは無いかと思っています。
※	年会長の挨拶が最低だった。政府や官庁の人達が寝ないでコロナ対策をしているのに、3回目が遅いとかで、揶揄するような記載があり、驚いた。そもそも、海外のワクチンに頼らざるおえなかった責任の一旦は我々研究者にもある。国の責任ばかり言っていてはダメだ。良い結果を積み重ね、国にも働きかけて、対処できるよう頑張っていくべき時に、一生懸命やっている方々を小馬鹿にする様な発言があってはならない。
※	英語でのシンポジウムが多すぎた。議論が限られると感じるので、もう少し減らしていかかがでしょうか。
※	生化学会との重複が多い
※	今後はオンラインも併用して行う形式を希望しています
※	ハイブリッドでの発表は問題なく進行していると感じたが、質疑応答は改善すべきだと思った。
※	評価できるほど参加できていない。
※	ハイブリッドの場合、座長がオンラインと会場両方に注意を払って、質問をさばく作業が困難にみえたケースがある。
※	会場からの質疑応答が、オンライン視聴者には、表情などリアリティが感じられない問題があると思った。
※	オンラインでの発表をオンサイトで聴く場合に、スライドの文字が小さ過ぎて見えないことや、会場の音響の質が十分でなく聴き取りづらいことなど、発表内容の理解に困難を伴うことが多々あった。
※	全てのシンポジウムを英語で行う理由について、過去のアンケート結果や海外からの参加者数などを考慮したうえで、十分な説明が必要であると思われる。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	聴講したい演題が重なることが多いため、残念でした
※	同じタイミングで似たワークショップやシンポジウムがある。
※	English is recommended for all
※	現地参加した際、一部立ち見が出るほど密になるWSが見られました(特に3階のRoom 6,7,8など)。アンケートなどで現地参加者を事前に予測して部屋割を変更する、部屋の外にモニターを設置するなど、今後対策していただけるとより良いと思
※	ワークショップとシンポジウムの違いがわかりませんでした。
※	ワークショップの質疑応答時間が全体的に短いと思います。
※	90分枠はちょっと短いと感じた
※	シンポジウムと同。
※	シンポジウムとワークショップの数が多すぎる。整理できると思う。
※	日によってテーマに偏りがあり、面白いと感じる分野において時間の被りで見られない箇所が多かったのが残念だった。
※	発表者の人数を絞って選ばれた研究を背景からしっかり聴きたい。一般の口頭発表との違いがあって欲しい。
※	学会企画やグラント関連企画は、主催側の意図で動かし登壇者だけが満足している印象。学会とは、新しい分野を学びたい意欲でセッション参加する会員も充足感を得られるために、分野の研究背景、科学的知見はもちろん、最新情報を得る場であってほしい。
※	もう少し話題のバリエーションが欲しい。似たような話題は開催日を分散して欲しい。
※	大型プロジェクトの報告会のようなものが多い気がする
※	LLPSについて、統合的に知りたかったが、テーマが乱立していた。このため何をポイントにしているのか、WSごとにもう少し整理して欲しかった。
※	タイトルが端的でないものが多く、主としてどの分野・細目のものであるか分かっておなおいと思いました。そのために要旨もあるのだと思いますが、それも分かりにくいように感じます。
※	質疑応答の時間が短いものがあつた。長くても良いので、ディスカッションの時間が多いものがあつても良いかと思う。
※	コロナの中で来日する方が少ない中、英語の発表はもっと減らしても良いのではと思った。
※	「9. (参加者として)ハイブリッド年会での質疑に難しさを感じた」について同上
※	会場の参加者の映像も流していただいた方が、質疑応答を行いやすいと思いました。顔が見えなかったので、どんな方が分からず、緊張していたので、お名前なども覚えられませんでした。
※	レコーディングして後日見れるようにしてもらえると有難かった。
※	Q&Aで質問を書くのが難しい。言い直せないのが適切に伝わりにくく、正確に書こうとすると時間がかかってしまう(自分が慣れていないだけかも)
※	テーマは良いが、同時に開催されるセッション数が多いため聞き逃しが生じた
※	参加していないので良く解りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	質疑は問題なく行えると思うが、オーガナイザーによって差があつた
※	セッションの中に、『未発表データが含まれるため、オンラインでの発表はしない』というものがあつた(オンラインの発表が切断された)。今回はハイブリッド開催が決まっていたはずであり、現地参加とハイブリッド参加で区別をするべきではない。問題なくハイブリッド開催できるようにオーガナイザーが事前に調整すべきである。
※	ワークショップの時間は135分枠と90分枠があり、不揃いだと移動等で不便を感じた
※	ポスター終了後から、ワークショップ開始までの時間が短く、discussionしているとワークショップ開始時間に間に合わなかった。次回は少しポスターフロアでの発表終了後のdiscussion時間に余裕を持たせてほしい。
※	現地(会場内)で、現地・オンラインの発表を聞いたが、どちらも違和感なく聞くことができ、とても良かった。
※	特定の大型研究費と紐づいたセッションは好ましくない
※	RNAなど同じようなセッションが多かった。もう少し病態に関係するようなシンポジウムを増やしてほしい。生化学会と連携してほしい。
※	似たテーマが同じ時間帯に設定されているとどちらかが聞けなくなってしまうので分散してほしい。
※	同上
※	セッション数が時間帯によって差が大きかったので、均等にしてほしい
※	オンライン発表の時代では、他の追従を許さないスピード感のある研究室ばかりが発表し、逆にスローでローカルな研究者の存在感が非常に希薄になってしまった。
※	要旨集は配布して欲しいと思います。タイトルと所属だけでも良いので、プログラムを配布して欲しい。
※	オーガナイザーがうまく機能していないワークショップがあつた。もう少し英語スキルの高い人をオーガナイザーとして選出したらどうか。またワークショップのスピーカーの選択はオーガナイザーの采配によるものと思いますが、英語でディスカッションのできない学生ばかりというのは如何なものかと思う。
※	アーカイブを残して欲しかった
※	テーマはLLPS、RNA、翻訳制御に関するものは多かつたように感じます。時間は全部90分の方が集中できて良いと思います。オンライン参加者がどのように質問すればよいのかを説明されない座長の先生や、シンポジウム・ワークショップでの質疑応答のときに時間が余っているにもかかわらずオンラインからの質問をまったく見ない座長の先生方がちらほらいらっしゃる印象を受けました。
※	オンライン発表者からは会場の様子や質問者を見ることができなかつたため苦労したと聞いています。会場を移すカメラも1つ追加すると良いと思います。
※	シンポジウムと同じでオーガナイザーによる。
※	発表時間が12分と短時間でした。演題を減らしてゆっくり話せるほうが伝わりやすいと思います。
※	どうしても会場での質疑応答が中心にならざるを得ないと思いました。ネットは聴講だけでも良いかもしれない。
※	会場が満杯で入れないセッションに関しては、オンラインが利用できることで視聴でき助かりました。
※	同上
※	オンライン参加者の質疑の時に、スライドかオンライン参加者かどちらかしか表示されないのは回答時に示したい情報を示せず、残念であった。また、オンライン参加者に対して、会場での参加者や質問者など、会場の様子がわからない状況であったことも改善点である。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンサイト参加者としては普通に質疑を行うことができた。人数が多くなった場合にオンライン参加になってしまうとオンサイト参加した意義が薄れてしまうので他のセッションに移動した。結果、参加をあきらめたワークショップが多くあった。
※	全体の発表時間は問題ないが、発表者一人当たりの時間を増やして欲しい。発表者の数が多すぎると思う。
※	時間(演題数)を少なくし、より多くのセッションを組んでいただけだったと思います。
※	オーガナイザーとしてオンラインで司会進行をしました(もう1人のオーガナイザーはオンサイト)。大方、問題なく行えましたが、現場の状況が分からないまま司会をするのがちょっと難しかったです。会場を映すPCを1台おき、それもzoomに入ってくれば、会場の様子を遠目ながらも掴むことができるので良いと思いました。
※	オンラインの発表者の通信が不安定であった。
※	前項目と同様
※	やはり、回線が途中で途切れるのがいくつもあったので、オンラインの難しさは思ったが、海外の発表者が気軽に発表できるので、海外の研究者に限っては、このハイブリッド形式を継続したほうが良い。
※	時間枠の異なるワークショップの開始時間にずれがあり、スケジュールの決定がやや難しかった
※	学会中に予定がぎっしり入ってしまい、オンラインで参加することさえできなかった。オンデマンド配信があると有難い。見たかったです。
※	オンライン発表では、質問者の顔が見えず答え難かった。
※	オンライン参加の場合、こちらの音声や画面のコントロールをどこで調節するのかわからなかった。そのため、手をあげて発言することもためらわれた(チャットに質問を書いた)。
※	過去の研究の流れを紹介する演題が多かったように感じる。1演題の時間はもう少し短くて良いので、最新の知見を集めたワークショップも開催してほしい。
※	シンポジウムとワークショップのテーマやセッション数を決めるのは、現在の研究状況から適切に決めるのは難しく思う。オーガナイザーを募る枠と執行委員が決めるテーマの枠の割合がどのくらいに設定するのが良いのかわからないが、1:3だといつも決まった枠のテーマの発表になり、3:1であると雑多な印象を受けて聞きに行きたいテーマが分散するような感を微生物分野が少ない
※	現地での質問よりもオンラインでの質問を優先する司会者がいたが、オンラインでの質問より現地での質問を優先してほしい。
※	もう少し、理論系、計算系のセッションがあっても良いのではないかな。
※	扱っている内容が重複しているように見えるセッションがいくつかあり、統合すると良いように思いました。あるいはセッションの色をもっと明確に打ち出す必要があると思います。
※	全てオンラインで良い
※	オンライン参加者が会場の様子を見ることができればよかった。
※	オンラインでは、好きな時に質問を投げることが出来るので、便利でした。
※	ワークショップが非常に多いのにも関わらず、進行中演題の案内表示が個別の部屋にしかなく、全体の見通しが悪かった。部屋割りの情報もPDFしかなく、ポータブルデバイスで見るのに不都合で不親切だった。
※	数が多すぎて、領域によっては同じようなオーガナイザーが毎年のように出ているような印象があります。
※	会場での音声が聞きにくかったため、シンポジウムはオンラインで聞いたほうがはっきり聞こえると思った。
※	全体的にとても工夫されていて、良かった。欲を言えば、オンラインからは会場での質問者の顔が分からないので、質問者の顔ができるモニターがあると、より臨場感があるといい。
※	全体に1つのワークショップの中に組み込まれる演題数が多すぎるため、早口になりフォローが困難であった。
※	テーマがよく似たワークショップとシンポジウムが同じ時間に行われていたので、聞きたいものが聞けずに残念だった。
※	聴きたいワークショップが重複していたため、オンデマンドがあるとよかった。
※	特にオンラインで視聴する際1セッション135分は長すぎると思います。人間の集中力の持続時間を考えると90分くらいにしたほうが良いと思います。
※	zoomのチャットやQ&Aを介した質問がスルーされる事が少ないがあった。
※	似たテーマのものが同じ時間枠で開催されていたように思う聞きたいものが複数あって困った日と、興味の薄いセッションしかなかった日があったもう少し散らしてほしい
※	英語でのシンポジウムが多すぎた。議論が限られると感じるので、もう少し減らしていかかでしょうか。また、演者によっては、声が小さすぎて、英語が聞き取れないこともしばしばあった。適宜、マイク音量を上げるなどの対応が欲しかった。
※	生化学会との重複が多い
※	今後はオンラインも併用して行う形式を希望しています
※	90分枠は短いと感じた。ディスカッションまで含めると余裕がなかった。
※	90分という長さは聴講する身としては適切であったが、限られた時間であり、オーガナイザーの先生方はもっとお話しされたかったのではないかと感じた。
※	オーガナイザーを務めました。質疑応答について、会場側のカメラがなく、フロアからの質問がオンラインでは状況がわかりにくいとの指摘をいただきました。また、多くのワークショップで時間を超過していたと思います。時間配分は余裕を持って組んだ方が良かったと思います。
※	iPS細胞等を利用した再生、分化、病態解明等に関するテーマがあってもよいのではないかな。
※	ワークショップの内容に偏りがあるように感じた。
※	ハイブリッドでの発表は問題なく進行していると感じたが、質疑応答は改善すべきだと思った。
※	評価できるほど参加できていない。
※	セッションタイトルとかなり内容がおおきことになっているワークショップがある。(演題がひとつづらならまだしも、半数がそのような状況なのはいいかな)
※	オンラインでの質問をちゃんと拾って後にもいいので解答してほしい。また、解答するとのことだったセッションを一度抜けて別のセッションに戻り、zoomで再度最初のセッションに入ると質疑応答が全て消えていて見られなかった。録画を配信して欲しかった
※	会場からの質疑応答が、オンライン視聴者には、表情などリアリティが感じられない問題があると思った。
※	オンラインでの発表をオンサイトで聴く場合に、スライドの文字が小さすぎて見えないことや、会場の音響の質が十分でなく聞き取りづらいことなど、発表内容の理解に困難を伴うことが多々あった。

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	学生さんと思しき方が頑張って英語で発表していましたが、質疑応答まで英語では難しそうだったので、日本語でのやり取りを提案して議論しました。この程度の融通はアリとして柔軟に対応しつつ、英語化を浸透していけばよいだろうと思いま
※	ワークショップの数は多過ぎると思います。そのため、相互に関係しそうなワークショップが同時帯に重なってしまい、どちらかを切り捨てるという選択を迫られました。これは、ユニークな企画が多いことの現れでもありますが、どこで線を引くか、バランスを取るのが難しいところです。また、旅程の都合で早めに帰られる参加者が多いため、最終日の夕方セッションへの現地参加が少なくなったのではないかと思います。そうするとどうしても会場のテンションが下がってしまい、演者の発表も質疑応答も勢いを失ってしまうようです。ワークショップの数と合わせて、この点についてもプログラム編成を見
※	時間帯が重複していて見たいテーマのものが見れないケースが実際にあったのだが、会期中オンデマンドでそれらの発表が視聴できないのはハイブリッド開催の良さを損なっているように感じた。
※	時間枠は100分前後くらいが良い。また、同じ時間帯のものは時間をそろえてもらった方が、続けて参加しやすい。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーがポスター発表時間にこなかった。そもそもくるものなのかわからなかった。
※	There are few discussions in the poster, and the query system is inconvenient.
※	オンライン参加でディスカッサー制が働いているか気づかなかった。
※	オンライン参加だったからか、ディスカッサー制があること自体知らなかった
※	時間の配分がどのようにされているのか不明。オンラインだと全体が見えないのでポスターの現地とオンラインの混在はあまりうまくいかないと思う。
※	ディスカッサーこなかったですが、何か登録が必要だったのでしょうか。
※	後で閲覧出来るように欲しい
※	わかりにくかったです。
※	ポスターディスカッサー制について理解していない
※	自身がお世話になることはなかったものの、制度としては良いと思う。
※	ディスカッサーによる関わりの差が大きいように思った。質疑応答を盛り上げて欲しい。その意味で、教授など座長を何度も経験した方だけでなく、助教クラスなどセッションリーダー経験の若い方を優先的にディスカッサーに置いて、ディスカッサーも担当発表について予習してのぞむような、両者がしっかり準備すれば、ディスカッサーが今より機能するかもしれない
※	オンラインでのシステムの使い方がよくわからなかった
※	意見交換会場のアナウンスが十分でなく(バツと見、全体の意見交換の場に見える)、ほとんど機能していなかった。名称を変えるか事前に詳細な説明が必要だったと思います。(当日ライブチャットで質問対応できるくらいしか説明なかった)
※	誰も来ませんでした。
※	ディスカッサーが設定されていたようですが、誰も来ませんでした。
※	年会のホームページを見てもディスカッサーの制度がどんなものかわかりませんでした。他学会にも参加しますが、ディスカッサーはポスター発表の良さ(自由さ、気軽さ)を減じてしまうので反対です。
※	オンラインで発表したが、ディスカッサーの存在がどれほど議論を活発にしていたのかが全く分からず、少なくともオンラインでの参加では存在意義がないように思えた。
※	なんだろう、発表を理解しようとして自分の知識だけで質問するのやめてもらっていいですか？と、議論を盛り上げるんじゃなくて論破するのが目的になっているクソみたいなディスカッサーに当たったおいらはおもいます。マジでディスカッサーが2年連続でゴミみたいなやつにしか当たってないから廃止でオナシヤス。こんなやつでも議論盛り上がらないよ。
※	現地からオンラインへの切り替えが遅かったせいか、オンライン発表にディスカッサーが現れなかった。
※	ディスカッサーについて十分周知されてなかった気がする
※	ディスカッサー制がよく理解できていなかった
※	オンライン発表にはディスカッサーが来なかったので残念だが、ハイブリッドでは難しいと想像する。
※	例年、口頭発表演題のポスターに人垣ができ、それ以外はスカスカな傾向が見られて正直嫌でしたが、今回の試みは大変よかったと思います。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	ディスカッサーは若手がいい
※	ディスカッサーは、ほぼオンラインの人は相手にしていないようだった。
※	ポスターディスカッサーがいたのかよくわからない。
※	ディスカッサーの方々がworkしているように見られなかった。今後はもう少しディスカッサーとしての役を果たせる方々を選ぶ努力が必要かもしれません。
※	意見交換場は、入りにくいと感じる人もいるようで、ディスカッサーが必ず一度は訪れることは良かったと思う。ただ、時間が結構限られているので、ディスカッサーも全員を回るのは難しかったのではないかと。
※	ディスカッサーがいらした形跡がないので、わかりません。いないも同然でした。
※	ディスカッサーごとに、参加する演題を決める根拠が異なっているようにも感じた(議論が盛り上がっているポスターに参加したディスカッサーもいた)が、結果的には有意義な議論につながり、とても良かったと思う。今後も、議論の盛り上がりの有無に関係なく、ディスカッサーの方には積極的に議論に加わって頂きたい。
※	シンプルに、ディスカッサー無しでポスター発表で構わないと思います。
※	オンラインだと、ディスカッサー制であったことがわからなかった。
※	ディスカッサーが来なかった
※	ディスカッサーが、オンラインでは来なかった。どうなっていたのか？
※	若い学生たちが生き生きとポスターの説明をしている姿が多く見られました。現地開催、対面発表のよさを感じてみたいと思いましたが、ディスカッサー制は、ディスカッサーとかがよくわからない和製英語を作ってまでやる意義のある制度ではない。そもそも今回オンラインポスターは1人も訪問者が来ないポスターが自分が共著のものでも少なくなく、そういったハイブリッドのデメリットを救うことさえできない制度ならやる必要がない。
※	ディスカッサー、いましたか？
※	ポスター発表をしておらず、ディスカッサーでもなかったのでは行われていることすら知らなかった
※	ディスカッサーが担当演題を回っていたか不明。発表者がオンラインの場合はどうしていたのか？
※	数人の学生に聞いてみましたが、ポスターにディスカッサーが来ることはなかったとのこと。ポスターを選んでいるのでしょうか？
※	ディスカッサーが来なかった
※	誰がディスカッサーかわからなかった。
※	ディスカッサーは適材な人を配置しないと、よくわかってない専門外の人が無理に質問してもかえってしらける感があると思いました。
※	時間が限られているときにはディスカッサーが邪魔。
※	ポスターを会期中公開するのはとても良いと思いました。
※	オンライン発表ではディスカッサー制が反映されずとても残念でした
※	あえてしなくてもいい。何か不自由。
※	ディスカッサーは来なかった。
※	ディスカッサーとのdiscussionで新たな視点からのものの見方を学ぶことができたため、とてもよかった。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーを見かけなかった。
※	これについては、どのやり方が良いのかは答えはないと思います。ただ、本来は自由に立っている人に話聞いて討論できるのが望ましいのですが、それも怪しいところがあるので、ある程度こういう場を設けるのは、意味があるかと思います。
※	ディスカッサーが機能していたとは全く思えなかった。(オンライン)
※	ポスターディスカッサー制があった事にすら気が付かなかった。
※	ポスター発表をさせていただきましたが、ディスカッサー制度の有無を感じることはありませんでした。
※	ほとんどのスライドが盛況で、discussorとしてすることがなかった。これでいいと思う。
※	ディスカッサーがきたのかどうかよくわからなかった
※	ディスカッサーの存在を知ったのは学会終了後だった。
※	ポスター賞を設ければディスカッサー制はいらないと思う。
※	今年はディスカッサーがいたのかどうか、よく分からなかった。
※	ポスターディスカッサー制を知らない。
※	オンライン発表だったが、ディスカッサーの方は来なかった。
※	実際にディスカッサーを担当して感じましたが、ポスター発表で発表を話す機会が無い発表者をゼロにするため、また、議論や聴衆を盛り上げるためにディスカッサーを配置することは良い対応だと思いました。
※	興味のあるポスターの発表者に質問できる時間が制約されるため、自由討論の方が良いと思う
※	オンラインでディスカッサーはまともに機能していなかった。
※	誰がディスカッサーなのか全くわからなかったので、自分のところにディスカッサーが来ているのか分からなかった。ディスカッサーがいるなら、全部を回り、ポスター賞を作って欲しかった。
※	ディスカッサー形式は必要ないと思う。
※	ディスカッサー制度がいまいちよくわからなかったです。
※	現地のポスターディスカッサーがいないように思われた。自分のポスターには誰もこなかった。
※	自分もディスカッサーだったが、自分自身が演者に話しかけるきっかけにもなり、なかなかよかった。
※	オンラインでのポスター発表および閲覧を行っていたが、自身の分野のディスカッサーが実際に発表に来訪することはなくあまり恩恵を感じられなかった。
※	私が見た範囲ではディスカッサーは見当たらなかった。わからなかっただけかも。
※	オンラインではポスターセッションが全体に不活発で、ディスカッサー1人で時間内に担当ポスター全体を回ることはできなかった。申し訳ない。
※	(オンライン参加)ディスカッサーに来ていただいたが、こちら側があちら側の通信環境が悪く、意思疎通がとれなかった。
※	大会のHPIにおいて、一般参加者や一般発表者に対してディスカッサーの記載がなく、
※	ディスカッサーが来てくださることがどこに書かれているのかわからなかった。周知の方法を考慮したほうが良いと思った。
※	オンサイトで発表したためか、ディスカッサーの存在に気がつかなかった。
※	ディスカッサー制度があまり機能していない感じがしました。
※	オンラインポスター発表では聴衆が一人もおらず、少なくともディスカッサーは来るかと思っていたが、結局来なかった。ディスカッサー制の意味がないと感じた。
※	Late breaking abstractにディスカッサーが居ないことに関して選択肢が設けられていないのが不満である
※	ディスカッサーの存在を感じませんでした。
※	ポスター総数に対してディスカッサーの人数が少なすぎ、ディスカッサーの負担になっているのではと感じる。
※	ディスカッサー制はとてもよい取組みだと思いますが、漏れなく回っていますか？あまりその活動が見えません。
※	ディスカッサーから専門性の高い質問、アドバイスを受けることができ大変勉強になった。ディスカッサー制度は、カジュアルな雰囲気でもやり取りできるポスター発表ならではの利点が最大限生かされていると思った。今後もディスカッサーの先生のご都合がつけば続けて欲しい。
※	ディスカッサーに出会わなかったので意義がわからなかった。オンラインとオンサイト、両方のディスカッサーをしていたのだろうか？なるべく全演題を回るのが理想だが、実際には人気の有無が顕著なので、お客が少ない演題のみ回るのが現実だと思う。特に若手発表者に対してはディスカッサーが付くといいい経験になるのではないか。
※	特にディスカッサーに出会わず、機能していたのかわかりません。
※	ポスターディスカッサー制があったことを知らなかった。当日も気がつかなかった。このアンケートで初めて知った。
※	ポスターディスカッサーがもう少し頑張った方が良いと思われる、特定のクッションが存在した(不在?)。
※	存在にまったく気づきませんでした。10時から17時半までポスター発表していましたが、わかりませんでした。お客様が優先でありますように。
※	ディスカッサー制というものがあることを知らなかった。
※	オンラインだとディスカッサーがいたことも分からない
※	オンラインで見たので、非該当
※	ディスカッサーがきたことに気付かなかった。
※	ディスカッサーシステムについて、あまりよく理解していないまま当日になってしまった。どなたがディスカッサーか分からなかった。
※	ディスカッサーを担当したが、例年以上にポスター会場が盛り上がり、あまりディスカッサーとしての仕事が無かつ
※	今回ディスカッサー制の説明が不足していたと思われます。
※	議論を盛り上げるどころか論破することが目的になっているオナニーディスカッサーにしか当たったことない。議論盛り上がったためしがない。こんなクソ制度廃止しちまえ。背景を説明しているときに論破のためのクソみたいな質問ばかりしてこっちの説明を妨げてきた挙句「研究目的はなんなの？」とかのたまうクソまでディスカッサーとして選ばれるとかマジで欠陥制度だろ。(まあこんなクソがPIやってる時点でアカデミアがそもそも構造的欠陥を抱えてるが)
※	現地に3日間参加しましたが、ディスカッサーがいるかどうか不明でした。
※	存在を知らなかった
※	ディスカッサーが機能しているのかがよくわからない。
※	ポスター発表で、多くの人と議論できたことは満足であった。しかし、誰がディスカッサーだったのかわからなかったのも、何とも言えない。もしかしたら、ディスカッサーさんのおかげで議論が盛り上がったのかもしれない。
※	いらっしゃるのか分からなかった。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ディスカッサーが来たかどうかわからなかった。
※	双方にとって必要ないと思う。
※	「ディスカッサー」なんていましたっけ？私の現地発表には現れませんでしたけど...
※	発表中ディスカッサーの姿を見かけなかった。また、友人がオンラインで発表したが、ディスカッサーからのコンタクトはなかったということ。役割を果たしていないディスカッサーが多いのではないかな？
※	判定不能。
※	来なかった。
※	ディスカッサーがいたことがわからなかった。
※	うまく機能しているとは思えなかった。今後はいらないのではないかな。
※	ディスカッサーは本当にいたのでしょうか。私のポスターには来ませんでした。
※	ディスカッサーから、「聞かないといけない感」がでていたので、正直盛り上がりませんでした。この制度に疑問を感じた
※	Web発表の場合のディスカッサーがどのようになっていたのかは、分かりませんでした。
※	特にオンラインでのポスター発表は、訪問者が非常に少なかったという意見を伺いました。少なくともディスカッサーと議論することは、若手発表者に有益であると思います。
※	ディスカッサーとして参加しました。ほとんどの演題は助けがなくても盛り上がりていましたが、1人、人が集まっていないポスターがあったので、ディスカッサー制度があつて良かったと思いました。特に初めての学会・初めての発表の学生だったので、研究内容だけでなく発表方法などのアドバイスもできたのでよかったです。
※	ディスカッサーを見かけなかったので、評価できない。
※	そもそもポスターディスカッサーが存在していないように感じた。現地では早くからポスターの前に立っているだけになっている発表者が自分含めて複数見受けられた。
※	ポスターディスカッサー制があつたことに気が付かなかった。
※	存在していることを知らなかった
※	ディスカッサーがポスターに来なかったように思います。
※	今回、ポスターディスカッサー制？だったのですか？
※	ポスターを見て回った時点には遭遇しなかったのでわからない
※	ポスター発表したがディスカッサーはお見掛けしなかった。
※	盛り上がりおらず、ディスカッサーが来ていないように見受けられる演題があつた
※	ディスカッサー制があることは承知していたが、私の発表についてディスカッサーは回って来なかった。全体の発表を自分が回っているときも、ディスカッサーらしき立ち回りをしている方は見られなかった。
※	時間の許す限りポスターを見て回りましたが、足を止めた発表でディスカッサーとは全く遭遇しませんでした。話をしてもらっている途中に時間だからとディスカッサーが割り込んできたり、自分が動ける時間にディスカッサーが陣取っていて結局聴けなかったりしたことがあります。かたやディスカッサーとなった場合には、ある程度の時間を喰われるため自分の興味のある演題に辿り着くことができなくなったりします。演題の内容により訪問者の数に差が出るのは仕方ないことであり、またディスカッサーの力量によっては全く議論が盛り上がりませんこともあるので、全く無駄な配慮だと感じています。
※	発表はオンラインで行ったのだが、ディスカッサー制が今年も採用されていることを知らなかった。
※	ディスカッサーの方が回るところに出会わなかった。この学会に関しては必要ないと感じている。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインの参加があるため、奇数のポスターが並んでいたりした。これによってすごく人が集まって見にくくなった。ポスターの並びに法則性が余りなく、見づらいと感じた。
※	現地発表は議論が盛り上がりすぎてとても良かったものの、しばしば密だったように思います。また、現地参加しながらオンライン発表を同時に見るのはかなり難しく感じました。
※	ポスター発表の時間がオンラインと現地で混ざっていてどちらなのか分かりづらかった。オンライン参加だと現地参加のポスター発表はほとんど聞けなくて残念だった。現地の人でもオンラインで発表する時間を別で作って欲しかった。ポスターがオンラインでいつでも見れるのはよかった。
※	ポスターでは、オンサイトとオンラインの間での会話が難しいと感じた。また、ポスター発表のときのPC画面が扱いにくい。ポインターが映るような設定が欲しい。
※	図や文字が小さくて見にくい
※	アップロードしたポスターの解像度が悪い。
※	チャット形式だと質問しにくい感じがありました。
※	オンラインでのポスターは奇数偶数で分けて番号順にした方がわかりやすかった。
※	私はオンラインでの参加だったため、オンサイトで発表している人とは、zoomで直接お話しできず、ただただポスターを眺めるだけで面白くなかった。
※	わかりにくかったです。音声があるのか(speakerがいらっしやるのか)ないのかのレベルで。(苦笑)
※	DashboardのFavorite項目は時間別に表示される方が良いと思います。
※	オンラインのポスターの一部で、解像度が不足しており文字が潰れているものが見受けられました。判読困難であったのが残念に思いました。
※	操作性が悪く、またサイトも重くて使いづらかった。
※	オンラインで、ポスターが発表日以外にも見られることで、十分時間をかけて見ることができる点は良い。しかし、データの漏洩等への配慮がないと感じた。オンサイトでも禁止していても写真を撮る人はいるが、オンラインではもっと危険で、未発表データなどは出せない。重いデータなのか、特定のポスターを閲覧しようとするのでフリーズしてサイト自体が動かなくなった。タイムテーブルが見にくい。
※	現地での発表についてですが、ポスターの発表分類(1-5の大項目とアルファベットの小項目)を示す大きめの標識が目立つところに立ててあったら助かるなと感じました。数多くのポスターが展示されている中で、どの辺りにどのような分類のポスターがあるのか少し分かり辛く、回って見るのに苦労しました。プログラムにもポスター番号と項目は載っていましたが、スマホ等で小さい文字を見ながらその場で照らし合わせるのは少し手間だったので、標識があったら助かりました。
※	オンサイト参加しましたが、オンラインのポスターは見れませんでした。おそらくその逆もあったと想像します、今後の課題かと思いました。
※	見てくれている人はいるものの(viewが複数人いる)、交流会に参加して下さる方は少なかったため、現地発表の方が気軽に話ができると思いました。
※	オンラインのポスターは、pdfの画質が荒く拡大しても読めない部分が多かった。
※	オンラインのみであり時間が取れず、ポスターまで見えなかった。
※	オンサイト会場に行けば、すべての発表が見られるかと思いき、向かったがオンライン発表のものは見られず、ガッカリした。
※	意見交換会場のアナウンスが十分でなく(パツと見、全体の意見交換の場に見える)、ほとんど機能していなかった。名称を変えるか事前に詳細な説明が必要だったと思います。(当日ライブチャットで質問対応できるくらいしか説明なかった)
※	オンラインだと、質疑応答が盛り上がらない。これは今回のポスターのやり方だと思う。参加人数が多いのはわかるがオンラインのポスターのやり方を検討した方がいい。ハイブリッドで行うのであれば、ポスターはZoomなどを使用した方が良かったと個人的に思う。
※	オンラインでの画質が荒く、拡大しても見にくいポスターがありました。もう少し改善していただくと非常にうれしいです。
※	オンラインで目的のポスターを探すのが難しかった。PDFのポスター発表者の一覧表が発表者の名前のみ記載されていたため、どこの研究室の発表かわからないことが多かった。
※	検索の仕方に問題があったのかもしれないが、控えていたポスター番号を一覧から探そうとすると番号が見つからないことがあった。番号だけで検索できるシステムがあると良かった。また、googleスケジュール等に移行する機能もあったが、気になった番号をクリックするだけで自分のスケジュールが作成できる機能(数年前はあったと記憶している)があればより便
※	オンサイトは例年のように行われたとは思いますがそれに終始し、オンラインは結局何も出来ていなかったと思う。pdfファイルでポスターをサイトに添付することになっていますが、それを覗きに来る人は多いのに、コメントを落とさない限り履歴が残らないので、情報だけ取られている不安に駆られます。自分の発表が終わったら直ぐにpdfファイルを見れないようにすることができるようになって欲しいですし、システムについてのアナウンスが足りないと思います。
※	職場にいながら、事前にポスター発表が見れたので、よかった。
※	オンラインの参加の場合、現地ではどのような表示のされ方になっているのか分からず、現地との温度差を感じた。オンサイトでの参加者が多かったためか、オンラインでポスターに訪れてくれる人が少ないように感じた。オンサイトよりも不利のように思われ、こんなことなら横浜に行けばよかったと思った。ハイブリット開催の難しい点かもしれないが、今後ハイブリット開催する時にはどうにかしてほしい。
※	現地開催の時よりはるかに発表を聞きに来た人間が少なかった。オンライン参加だと実質オンサイトでのポスター発表を一切聞けないような状況になっており(見た中では現地参加の人間が誰一人として交流場にいることがなかった)、オンラインで参加しなければよかったと感じた。
※	オンラインのポスター発表で意見交換しようにも、マイクとスピーカーが繋がらなかった。zoomや他のオーディオは大丈夫だったので、サイト特有の問題だと思われる。発表の機会を奪われ、残念だ。
※	オンサイトのポスター発表者がデータをアップデートしていない場合が多く、オンラインでの参加に不満がある。
※	オンラインからだ現地発表者とのリアルタイムの質疑応答ができない欠点があると思った。
※	オンラインのポスターは見えていません。
※	ポスターをオンサイトとオンラインの両方に対応するのは難しい
※	オンラインでも、オンサイトの発表者との議論の場を設けてほしかった。
※	ポスターをオンラインで確認することが、数が多くて難しかった。
※	ディスカッション制があまりよく理解できなかった。周知が足りない気がした。検索した演題に直接行けなかった気がするの

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターの説明が今回のように発表者と参加者が同じ画面を見れないと、なかなか難しい。オンラインで複数のポスターを複数のタブを開けてみていると、viewerとしてカウントされてしまうのは、発表者からすると紛らわしい。オンライン学会に限らないが、ちゃんとポスターのデータをuploadしてない参加者がいるのは困る。現地参加者のポスターは、説明が聞けないので残念。今後もハイブリッド開催をする場合は、ポスター発表動画の登録は希望者だけでなく、全員義務としてはどう
※	解像度が悪くてよく見えなかった
※	ハイブリッドのポスター発表は、オンサイトが優先されるのでオンラインでのコミュニケーションが取りにくい。
※	ポスターが発表時間外、事前に見ることができるのが良かった。(他学会では、各者のブースにアクセスするまで内容を確認できず、他のアクセス者がいないと演者の話を聞いて質問しないと失礼な感じがしてしまった。よってポスター内容を見つつ興味ある発表を見つけることがやりにくかったという経験があったため)
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	オンサイトで参加すると、オンラインのポスター発表を見ることができなかった。
※	今回の分子生物学会の方式ではオンラインとオンサイトの両立が難しい(ポスターのみ)
※	自分はオンラインで参加したのだが、オンサイトのポスターは見るだけで直接会話ができず、またオンラインのポスターの数はとても少なく見るポスターがなかった。
※	オンラインだと聞けないものがあったり、どれがオンラインか等もわかりにくかった。
※	オンラインポスターもオンサイトに張り出してほしい。
※	オンラインのポスター発表者とオンサイトのポスター発表者・閲覧者の交流がほとんどなかったのが残念だった。オンラインポスター参加者のために、それぞれの時間を分けるなど、もう少し工夫があっても良いと思った。
※	例年よりポスター数が少なかったせいか、スペースに十分な余裕があったのがよかった。
※	横浜会場で自分のポスターを発表したり、他の現地ポスターの演者とディスカッションをしているうちにセッションの時間が終わってしまい、オンラインのポスターセッションに参加する時間がまったく確保できなかった。可能であれば、現地とオンラインのポスターセッションの時間帯をずらしてほしい。
※	オンサイトとオンラインを同時に見るのは難しい。オンラインでは時間外にポスターを掲示していないものがそこそこあり、オンラインのメリットが感じられなかった。
※	オンサイトでのポスター発表は良かったが、人が密になっているのではないかと心配だった。
※	オンサイトとオンラインは完全に分断されていた。
※	オンラインでのポスター閲覧が非常に画質が悪く、グラフや図の文字が見えないものが多かった。
※	オンラインのポスター発表ではスライドの共有ができない点で大変不自由だった。そもそも(インターフェイスの不自由さゆえか)viewingに来てくれるひとはいてもディスカッションするには至らなかった。
※	スペースの問題かもしれないが、一部のオンサイトでのポスター発表において奇数番号同士、偶数番号同士のポスターが隣り合ってしまったのは問題だと思う。またオンサイトで参加していた場合、オンラインでのポスター発表者と討論することが困難に感じられた。
※	ハイブリッドの発表形式は、再考して欲しいです。現地参加だとオンライン発表を聞く時間の確保が難しい。どうしてもハイブリッド開催にこだわるのなら、例えば、ポスターのオンライン発表時間帯と現地発表時間帯を分割出来ないでしょうか？
※	ポスターを見るwebシステムは良いと思います。オンライン発表で複数ページのポスターにしましたが、これで良かったのか？オンサイトの発表者のようなポスターを作った方がよかったのか？と思いました。ディスカッションのスペースの使い方も、案内は分かりにくかったと思います。(オーラル向けの、発表時間後に入れという案内しかなかったのでは？)ポスター発表はオンラインでは難しいです。
※	オンサイトとオンラインの同時実施は無理でした。オンライン参加は別の専用時間帯で実施すべきでした。
※	オンサイトのポスター会場は、隣り合ったポスターとの間隔をもっととるべきであったと思う。ポスター前の混雑度はコロナ禍前と変わらなかった。
※	ハイブリッドでの大会運営は大変努力され、また、大変運が良かったこともあり、オンサイトでの久しぶりの参加は楽しめたが、その分オンラインはおきざりになっており、特にオンラインポスターの扱いは酷かった。そもそもシステムからポスターの一覧からどれがオンラインでどれがオンサイトかわかりにくく、オンサイトと違いオンラインのポスター発表の閑散ぶりは
※	今回のオンラインのポスターセッションは割合も少なくディスカッションもしにくい形式だったと思う。ポスターセッションに限ってはどちらかに限定するべきと考える。日ごと、時間ごとでオンラインとオンサイトの発表時間を分けたらまだやりやす
※	オンラインからポスターを閲覧しようとしたが、エラー表示が出て閲覧できなかった。
※	オンラインの学会サイトに非常に問題があり、大幅な改善を望む。
※	盛り上がらないし、プレゼンターがいないケースが多い。
※	・現地参加しないポスター発表は、実際上ほとんどフィードバックが得られない・急遽、現地に共著者がポスターを掲示したが、掲示場所が最後尾になり、訪問者が少ない印象であった
※	ポスター発表中、オンラインで視聴している人にも対応しようとしたができなかった。
※	オンラインでポスター発表を見ていたが、オンサイトの発表者がオンラインに参加していないので、リアルタイムの質問はできなかった。
※	オンサイトの質疑応答は盛り上がっていたが、オンラインでは質疑応答がほほないものが多かった。同時進行では、熱心な質問者はオンサイトにいるような印象がある。ポスターをハイブリッドでやるのは、良いと思えない。
※	オンラインでポスターで質問しているひとが誰もおらず、とても質問しづらかった。
※	分生のような大きな学会では、会場でのポスター供覧が必須であると感じた。オンラインでは同じ早さで情報をチェックしきれない。
※	現地にきてしまうと、現地からパソコン出してからであえてオンラインのポスターをみようという感じになれないので、ポスターは現地のみでよいと思った。
※	オンラインのポスターセッションは本当にダメだ。本屋で本を買うこととネットで本を買うことの違いに匹敵する。見たい発表しか見なくなってしまう、ワクワクするようなポスターやプレゼンターとの偶然の出会いが全く無い。
※	オンサイトでは会場の発表に注力してしまい、オンサイトの発表にはほとんど参加できなかった。オンサイト用のブースなどがあると良かった。
※	オンラインでは現地でポスター発表されている方とディスカッションができず、残念でした

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	奇数偶数で発表を分けても、オンラインで番号が飛んでいるところが多いため、ポスター発表の際に、発表するポスターが真横にあり、スペース的に気を使わざるを得なかった。分けた意味が半減してる気がする。オンラインでいなくても空間あいていて助かった。それか、発表制度を偶数奇数じゃなくするか。
※	偶奇番号でスピーカーが入れ替わるはずがそれが守られていないため、非常に狭い場所で発表しなければならず、感染対策という意味ではよくなかった。また、会場に居ながらオンラインで他の発表を聞く時間はなく、ハイブリッドはうまく機能していたとは言い難かった。オンラインで質問したが、返信がないものもあった。
※	2年ぶりのオンサイトポスター発表は活気があってよかった。一方で、ポスター発表をハイブリッド形式で行うことの難しさも感じた。実質的にはオンサイト(オンライン)参加者はオンサイト(オンライン)のポスター発表だけを見ることになってしまい、オンサイト組とオンライン組が別の学会に参加しているような感覚になっていた。オンサイトとオンラインでは発表時間を分けるなど、もうひと工夫必要かもしれません。
※	オンラインの人もポスターだけ現地に貼るようにしてほしい
※	オンサイトのポスター発表とオンラインのポスター発表は事実上分断されていたと思う。
※	本来、ポスター発表は、少なくとも演者として立っている時間に、自由な討論ができる場所にあると思います。しかしながら実際に体験したことを書きますと、そもそもポスターの説明を嫌がる人がいるので、そのような態度には違和感を感じる(たぶん、これは所属研究室の指導の問題もあると思う)。もしそうであるならば、演題などを出さなければ良いと思うが、いか
※	オンサイトとオンラインのポスター発表が全く別物になっており、それぞれの交流がまったくなかった。オンライン参加者は人数が少なく、誰も聞きに来ていないポスターが結構あっていただけに不満だった。オンラインのツールも使いにくく、とても重く、ポスターをざざっと見るという機能がなかったのが残念だった。既にアップロードしたポスター画像を見ながら発表をしたり発表を聞くのは難しいと感じた。zoomで画像をシェアしたほうがポインタで指したりできるので便利だと思う。さらに、検索システムがイマイチで、タイトルと発表者名でしか検索できなかったのは残念だった(アプストも検索対象に入れてほしい)
※	オンラインとオンサイトが完全に断絶しており、同じ時間帯に開催する意義があるのか疑問に思った。
※	オンサイトで参加していると、オンラインのポスター発表にリアルタイムで参加できなかったことが残念だった。オンラインでは、ポスターの読み込み速度が遅いor解像度が悪く、オンラインのポスター閲覧ではストレスが溜まった。
※	現地参加の場合、オンラインのポスターを見る余裕はほとんど無い。来年にはコロナが収束して、今年だけのイレギュラーな形式と信じたい。
※	ポスター件数が例年より少ないのだから、密集を避けるためにも、もっと間隔を空けて配置すべきだった。またリモート発表のポスターでディスカッションに参加するのが面倒。PCを広げる場所も少なく、会場にいる人には、非常に参加しづらかった
※	ポスターの間隔が狭すぎる。ハイブリッドというが、オンラインと現地で完全に隔離されている。
※	ポスタープログラムの発表が、もう少し早くして欲しかった。もしくは、事前に具体的な日程を示してほしい。直前にポスタープログラムを確認することになった。
※	オンサイトで参加している場合、オンラインをチェックする気にならない。基本、オンサイトがいい。
※	オンラインとオフラインのポスター発表が完全に分断されてしまって、ポスターに関して言えば両方選択できる状況はあまり良くなかったように思った。口頭発表は両立できていたように思うが、ポスター発表の形式はかなり不満だった。
※	ポスター発表はハイブリッドでは完全に成立しないことが分かりました。オンサイト⇄オンサイト、オンライン⇄オンラインのみのやり取りであったと思います。
※	オンサイトでポスターを見て、説明してもらったり議論していると、オンラインでのポスター発表に直接参加することが出来ず、かなり残念である。
※	オンサイト(会場)に参加している場合、オンラインポスターを見る時間は無いです。また、オンサイト会場のネットワーク接続はかなり悪かったです。
※	広い会場を使用しているのだから、掲示をもっと間隔を空けたほうが良いと思った。ディスカッション中は例年の密な状態のままであった。
※	現地参加するとオンラインのみのポスターを見る余裕がない。現地かオンライン、どちらか一方を見るという形式になってしまった。さらにオンラインサイトが使いづらくまた動作も重いので、ポスターをまともに見れていない。オンラインポスターは全く機能していないという認識。
※	オンサイト参加者がオンラインのポスターの発表を見る際パソコン等を広げて議論を行うための場所が少なかった
※	ハイブリッド形式では現地でのポスター発表時にウェブからオンタイムで質問がしにくい(演者が現地で発表しているため)。ウェブでの視聴とポスターでの発表(特に一時間など長時間の発表時間設定)は難しいのではないかと。ポスターをやめて短い時間のトーク形式にした方が良かった。
※	オンラインでは気軽にディスカッションすることができなかった。ハイブリッド開催の場合でもポスター発表は全てオンラインに統一した方が盛り上がると思う。
※	ポスター会場でのネット環境が良くないこともあり、ポスター発表しながらオンラインからの反応を見ているのは不可能だった
※	オンラインでの質問がやりやすかった。Remoを使ったポスター発表だと、オンラインでディスカッションしやすいと思います。
※	オンラインがあることで、ポスターの内容をじっくり見ることが可能となる点良かった。
※	ポスター発表者同士の間隔が狭く、聴衆がかなり密な状態になっていた。ポスター板の配置をもう少し離すなどの配慮があると良かった。
※	開催者側の問題ではありませんが、オンラインのポスター発表の資料が非常に見づらいものが多かったと感じました。
※	オンラインにポスターをアップロードせず、現地でのポスター発表のみの人がいた。ルールの遵守が徹底されておらず、アンフェアだと感じた。非常に残念でした。
※	現地で、取り下げ等で当日、発表時間が同じポスターが並んでしまっていたため、自分のポスターに辿り着けなかった。オンラインとオンサイトの両方のポスターを同じ時間で行うとどちらか一方しか対応できない。
※	オンサイト参加者からするとオンラインポスターはいないのも同然だと感じた。オンライン発表者はディスカッサーが来なかった人も聞いて聞き、暇だったのではないかと感じる。
※	・オンラインでポスター発表に参加した際に感じたこと意見交流所での発表ではスライドの共有などが行うことができなかった。互いにポスターのみを見ながらの発表となるが、ポインタ等も表示できないためどこを説明しているのかが相手からわかりづらい。これならばzoom等を用いる方が良かった。またポスター発表においては現地とオンラインでは完全に分断されており、ハイブリッドと呼べるものではないと感じた。現地とオンラインで発表日時が異なっているのならまだしも、同時開催で行われており、少なくとも現地参加をしている人がわざわざPCを取り出してオンライン発表を閲覧することはないと思わ

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表で、せっかくなのでオンラインだけの時間を別に用意しておくよかったと思います。私は現地で参加したので、時間内にオンラインの方との交流をするのは難しかったです。またポスターの偶数番どうし、奇数番どうしがくっついてしまっていて、密になってしまいうことが多かったので、次回はそこを変えてほしいです。
※	オンラインの発表は会場で見られないのはおかしい。せめてスマホで見られなければ困る。
※	オンラインとオンサイトを同時刻に発表しているため、オンラインの方には、ほとんどポスターを聞きに来る人がいなかった
※	現地参加したが、オンライン発表の存在感がかなり薄くポスターのハイブリット形式は無理があると感じた。想像以上に会場が広く歩き疲れたが、間隔を開けることを考えると良いと思った。
※	オンラインでの発表者が少なく、コメント欄での議論はほぼ出来なかった。オンサイトとは別にオンライン専用の時間を用意して、オンサイト参加者にもアクセスを促すようにすると良かったと思う。
※	ポスター発表者として、Wifiに接続できず、オンラインの質問を受けることができなかったのが良くなかった。
※	オンラインの場合、あらかじめ各発表者に5分程度の説明動画(mp4などで)とポスター(PDFなどで)をアップロードしてもらい、それをオンライン参加者が視聴する方がスムーズだと思います。そして、それに対してコメントなり質問を随時書ける場所があれば、双方向的な議論ができると思います。
※	オンライン用のインターフェイスが使いにくくポスターが見づらかった
※	オンラインのポスター発表はメリット・デメリットがあると思った。メリット: 現地に行かなくても参加できる。デメリット: 現地参加の人は現地参加の人どうし、オンライン参加の人はオンライン参加の人どうしでしか交流がないような印象だった。事前に質問を送れるようには対策としてよかったと思うが、あまり活用されていなかった印象。
※	オンサイトだとオンラインのポスターを見るのが難しかった。
※	オンサイトの参加者は、オンラインの発表を聞くことは難しかった。
※	奇数番号が連番であったため、隣のポスター発表者との間隔がほぼなく、発表スペースが狭かった
※	ポスターをアップロードしたが、システムが重かった。元のPDFの解像度は良いのに、システムにあげるときれいにみえず、どうすればよいのかわからなかった。
※	オンサイトについて: 抜け番が出るのはやむをえないが奇数・偶数でわけているせいで隣り合うポスター両方で発表するのは感染対策の意味からもいただけないのでは。オンラインについて: コメントでの質疑が回答に再度リプライができないようになっていて非常に使いづらかった。また、意見交流場は使用している人が少ないようであまり意味を感じなかった。
※	リアル学会をよくぞやってくれました。運営された皆様にただ感謝しかありません。やっぱりポスターを前にして議論すると話の盛り上がり全然違います。
※	ポスターの発表時間が75分と以前よりも長めにとって頂いてありがとうございました。多くの方と十分に発表・議論を行うことができました。ポスターに関しては、現地の方とオンラインの方が完全に分離してしまったと思うので、別日にオンライン上で、現地・オンラインの方ともに発表する時間があつたほうが良かったと思いました。(今回の形であれば、発表動画の提出を必須にした方が良かったと思いました。)
※	誰も来てくれず、隣のポスターの人に営業して来てもらった。初日は発表者だけでなく参加者のほとんどがサイトの使い方をわかっておらず、見には来てくれるものの、交流場へ入ってくれないので活発な議論ができなかった。運営側の事前周知が足りなかったように思う。また、オンラインの人が現地の発表を聞けないというのも事前を知って、不公平感があつた。ポスター発表の場合も去年と同じくzoomが良かった。
※	視聴サイトONLINE CONFでは、画面共有ができない、pdfの解像度が低い、重い、などの理由から、オンラインポスター討論の環境は非常に悪かった。また、ハイブリッドの場合、オンラインでは現地のポスター発表は聞けないので、現地発表の人は動画をアップロードした方がよいと思った。動画を公開していた人は少なかったと思う。
※	オンラインのポスター発表にたどり着くのが難しい。従前の分子生物学会であれば演題検索アプリなどが用意されていたものが今年はなくなくなり、改悪と考えられた。また、オンラインのポスター発表者と意見を交わすのも不便を感じた
※	ポスター会場の混雑が通常よりかなり解消されていたのはよかったオンラインでのポスター視聴は難しいと感じた。会場だと一巡して発表を見渡すことができるがオンラインだと時間がかかって困難。掲載期間を長くしてほしいと思った。スクリーンショットによるコピー対策も必要に思う。
※	オンサイトでの発表中は、オンラインの参加者を気にかける余裕が全くありませんでした。なので、オンラインの意見交流場は使えませんでした。
※	奇数・偶数番号同士のポスターが隣接する場合があります、発表時にスペースが狭くなり困った。演題番号をオンラインと現地で個別に振るなどして配慮すると、より快適になると感じた。オンライン参加者のディスカッション時間は、現地発表者の発表時間とずらした方が、より議論を深めることができるのではないかと。
※	オンサイトで発表している間、オンラインのことを気に掛ける余裕がなかった。
※	ポスター発表の良さは、ポスターの前でFace-to-Faceの議論ができるという点だと思うので、ポスターセッションは現地での発表を基本とした方が良いと感じました。
※	ポスター発表はよかったし、個々のポスターについては、ドームのような広い会場独特の雑音がなく集中してディスカッションができました。ただ、プログラムが重く、すごく見にくかったです。タイトル一覧だけでも、印刷したものがあるとよい
※	毎年発表時間が重なるポスター(=全体の1/2)は発表を見られないのですが、もう少し多くのポスター発表を聞けるようにならないでしょうか?
※	オンサイトに参加した場合、オンラインポスターを見る事は不可能では無いかもしれないが、時間的にもかなり困難であると感じた。私はオンラインのポスターは見なかった。
※	オンサイトで見ようとするとオンラインの演題があるのが困った。オンサイトでオンラインのポスターを見るのが難しかった。WiFiが弱く電源がない。本体は持ち込みで良いが、インフラはもっと整えないと両方の演題を見るができない。
※	オンラインと、オンサイトがハイブリットとして機能しておらず、どちらかしか参加できなかったのもつたいないように感じ
※	オンラインとオンサイトの両方の参加が難しい。予算の関係もあるかと思うが、オンラインのwebサイトが非常に使いにくかった。またオンラインのポスターの画面共有がないことも良くなかった。
※	オンサイトでのポスター発表は、偶数・奇数で発表時間が分けてあることが周知されていなかったのか、時間に関係なく発表している方が多く、そのため非常に混雑してしまい、議論がしにくいことがありました。
※	オンラインで参加して、オンラインでポスター発表したが、現地発表の人と全く交流できなかった。
※	現地参加していると、オンラインでのポスター発表をいつ聴けばよいのかわからなかった。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	・ポスター発表のハイブリッド形式は難しいと感じた。現地発表会場にしながら発表時間中にオンライン発表サイトにアクセスすることは実質難しかった。・オンライン発表演題の掲示場所がスキップされたことで、偶数あるいは奇数番号のポスターが並んだ場所が多く、同じ時間帯に並んで発表をすることになり、ポスター前が混雑して密になりがちだった。発表者も隣を意識しながらの発表でやりにくかった。
※	オンラインのポスターには参加できなかった。オンサイトで参加している場合は、オンラインポスターに参加するのは難しいかもしれない。
※	当日は色々な発表を見て回るので精一杯だったため、オンラインでの閲覧が学会終了後も(1週間程度など)可能だと嬉し
※	端っこに当たりますが、ポスターの列に微妙に角度がつかっており、認識されやすくなっていました。多くのお客様に来ていただけました、ありがとうございました。
※	不参加
※	オンサイトで、オンラインのポスターが見れると良いと思いました。
※	オンサイトとオンラインの討論の時間帯をずらした方がよい
※	オンサイトでの発表は初めてであり緊張もした(聞きに来る人がいなくなったらどうしようという不安)が活発に議論ができ非常に有意義な時間であった。しかしながら一部ではあるが「そんな言い方する?」というような発言もあり、学会参加者には発表者へのリスペクトの姿勢を欠いてほしくないと思った。
※	ポスターセッションを1日に3つ設ければ、より多くの発表者とスカッション出来ると思う。
※	オンラインとの併用は難しいと思った。
※	ZOOMが良い今回のオンライン形式は不便
※	ただし、奇数偶数の発表時間分けて、現地参加とオンラインが混ざっていたため、密になる現場があったのは、議論を円滑に進める目的では上手くないと思った。
※	オンサイトのポスターは、間隔が空いているところと密のところがあった。均等にすることはできませんか。
※	オンサイトとオンラインを同時に開催したため、現地参加者はオンラインポスター発表に満足に参加できなかった。オンライン発表者とオンサイト発表者が通し番号で割り振られたため、オンサイト発表では偶数または奇数番号のポスターが連続して並ぶ状況が多く見られた。ただでさえ、ポスターサイズ(幅)が狭くなっている上に、隣り合っている発表者が同時に発表を行ったため、大変発表し辛かったし、非常に密になっており、感染症対策の面からも最悪であった。また、会場では(発表者は覗き除いて)パシフィコのフリーWi-Fiがなく、オンラインプログラムへ満足に安心して参加することができなかつ
※	オンラインだと発表者とのやり取りはできず、サイトのUIも酷すぎて最悪でした
※	「ハイブリッドでのポスター発表はよくなかった」オンラインで参加したので、オンサイトの発表に対して、肉声での質疑応答ができませんでした。オンサイトの発表が多かったので、「肉声での質疑応答」ができる演題が限られ、オンラインは不利だと感じました。
※	オンラインでもポスターが見ることができたので、あとで、見辛かった部分を拡大して見ることができ良かった。
※	オンサイト・オンライン間でのディスカッションができればよりよかったと思う。オンサイトで発表している人とオンライン参加者がディスカッションすることは質疑応答中にすることは実際難しかったので、オンライン参加者向けの質疑応答時間を設けてもよかったのかもしれない。
※	オンサイトの発表者が発表時間中にオンライン側の質問に対応することは難しいと思います。
※	オンラインでポスター発表を行ったが、私の分野ではオンラインの参加者が少なかつたようで、オンライン交流場まで入って議論してくれた人が一人しかいなかった。ポスター発表に関してはオンラインとオンサイトの交流がなく、オンサイトの人とは違う学会に参加しているように感じられた。横浜会場に行けばよかつたと後悔している。
※	奇数同時、偶数同士が隣り合わせになっていたため、隣のポスターとの間隔がいつも以上に狭かつたように思います。
※	オンラインでのポスター発表で、メッセージへの応答に時間を要した。十分に考えてから返信できる利点があるが、現地参加の方が双方向の情報交換の効率をはるかに良いと思った。
※	オンサイトのポスターとオンラインのポスターを平行してみる事が難しいので、事実上、同じ時間帯に開催された別の学会という形になってしまつて残念だった。
※	オンラインとオンサイトを同じ時間にしたのは、オンサイトでオンラインの対応はできないし、オンラインのポスターにアクセスすることも難しい(通信速度とシステムの問題から会場設備からのアクセスはできなかった)
※	説明を聞きたいと思ったポスターの発表時間が自分の発表時間と被つていて残念だった。似たような内容のポスターが別の日程又は時間帯に配置されているとより良いと感じた。
※	密になる状況が多かつたので、ポスターの間隔をあげると安全上よい。
※	ポスター発表はオンラインのセッションとオンサイトのセッションで分けるべきだつたと思う。そもそもオンラインのポスター発表はシステムがわからず全く発表を聞けなかつた。
※	ポスターがオンサイトとオンラインが混在しており、オンサイトで奇数番号が続くなどしてかなり人が密になっていたの、間隔をあげるなど配慮して欲しかった。
※	オンラインでポスター発表者に質問できなかった。オンラインでポスター内容が見えなかつた。
※	ポスターとコメント欄の事前公開は良かつたがほとんど機能していなかつた。コメントは匿名に(発表者に対しては分かるように)した方が良かつたのではないか?
※	オンサイトとオンラインを並行するのは無理があります。発表者が現地でオンラインに顔を出すのは不可能です。
※	若手優秀賞を設けて欲しい。
※	オンサイト参加したので、オンラインでのポスターは、結局見ていない。
※	偶数番号あるいは奇数番号同士が隣同士になっているところもあり、発表がやりづらかつた。
※	(1)オンライン発表を選択した人の番号がスキップされていたので、奇数と奇数が並んで相当に混みあっている場所があつた点は次回以降検討が必要そう。(2)ポスター-jpgが粗い画像で全く楽しめなかつたので、スクショ対策との兼ね合いを議論してほしい。(3)ポスタータイトルをクリックし、ポスター-jpgをクリックし、要旨PDFを見て、ポスター拡大ボタンを押して、といったように、オンラインポスターは相当に面倒なので、ポスター閲覧技術が今後発展することを期待したい。
※	見にくかつた。発表者が指している箇所が、オンライン参加者には分からなかつた。なので、説明が分かり難かつた。
※	多数が会場に参加しているのと、webのシステムが使いつらいのもあつて、少なくとも所属研究室のオンライン発表者の発表は低調だつたと聞いています。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	現地で参加しているとオンラインでのポスターにはまったく参加できませんでした。オンラインサイトが使いにくかったのと、会場のWifiが重く、オンラインのポスターはみるのを諦めました。また現地で話をしている場合、オンラインで参加する方の交流会場にはいけません。富澤の記念ポスターはいつがコアタイムなのか周知がなく、やりにくかった。会場ではオンラインのポスターが抜けていたので、同じ時間帯のポスターが隣同士になっている場合もあり、狭かった。
※	オンラインで発表する側は全くと言って良い程人が来なかったようなので、オンラインかオンサイトに絞って開催するべきだと思います。また、コロナの影響もあり、オンサイトよりオンラインで開催の方が安心できるのではないかと思います(オンラインの方が海外から参加しやすいですし、現地に来れない等の場合に対応しやすい等の理由もあります)。
※	オンラインポスターは見る機会がなかった
※	横浜会場でのポスター発表に関してオンラインの番号が飛んでいたため、奇数または偶数同士が隣になっているところが狭く、ポスターが見にくいかった。オンラインとオンサイトで番号を分けた方が良かったと感じた。
※	オンラインでのポスターの表示画面が小さく、見にくい。大きさを自由に变化させられた方がよい。(シ)スプレイの大きさや見やすさの基準はヒトによって異なっている。
※	奇数同士、偶数同士が隣になっているところがあった。
※	オンサイトとオンラインの併用は無理があると感じた。現地発表参加だったので、極めて関心が高い演題で無い限り、オンラインの発表を聴くのは物理的にも厳しいと感じた(個別のPC設置スペースなどがあれば別かも知れませんが)。
※	意見交流場の場所が分かりにくい見たいだけの人と議論したい人で分けられるのは良かったと思うが、議論しようと思っても、やり方が分かりにくかった
※	オンラインのみでポスター発表をしていたが、現地が盛況なのか、オンラインでの閲覧はほぼなかった。あと、ディスカッサーが来るのかと思って待機していたが、来ませんでした。
※	会場での発表も後日ポスター形式で見られると良かった。
※	2020年度はオンライン参加者は多かったので、ポスター発表の時、見に来た方やディスカッションして頂いた方は数人いましたが、今年は現地参加の方は多かったので、オンラインでディスカッションしてくる方はいなくなりました。みんなはほとんど現地に行っているの、仕方がないと思いますが、なんかもつといい案があれば良いと思います。オンライ参加システムはとても便利で、助かりました。心より感謝申し上げます。
※	Wi-Fiの貸し出しがあったが、オンラインに対応している暇はなかった。現在のシステムでは、ポスター発表でハイブリッドに対応するのはかなり難しいのではないかと。
※	オンサイトのポスターに人が集まっていたらしく、オンラインのポスターまで対応できなかったとオンサイトの知人から聞きました。また、スマートフォンやタブレット端末がオンラインに対応していなくて、議論ができなかった参加者が数名いて、せっかくポスターを訪れてくれたのに大変残念でした。ONLINE CONFの欠陥だと思います。次回は別の視聴システムに変えてください。他のシステムではこのような欠陥を経験したことはありません。
※	学会は未発表データをもとに議論することができる良い機会であると思っているが、未発表データをオンラインで発表することに若干の抵抗がある。簡易版の資料をアップロードして、詳細は発表者にメール等で聞く形式はどうか？
※	ポスター発表時間内では、オンサイト参加者とオンライン参加者はポスター発表での交流がほぼできなかったのは課題で
※	オンサイトの改善点としては、会場にポスター発表分野のマップが示されていると、興味のある分野について、周りやすかったと思います。オンラインは、訪問者が少ないことが問題かと思えます。
※	オンサイト参加で、オンライン発表を見逃し、会期終了後は見られなくなってしまったので、オンラインで一定期間見られるようにするか、会場にポスター展示だけでも(質疑はオンラインで)あるとよかった。
※	現地とオンラインのポスター参加者は、ほとんど交流がなく、あたかも別々の2つの学会で行われている感があった。オーラルの講演ではもう裾し一体感があった気がするが。
※	例年通り偶数奇数で時間を分けての発表でしたが、オンサイトとオンラインの通し番号だったため、隣のポスターの人と密になる時間があり、少し抵抗があった。
※	感染対策の面からは、ポスター会場に人が多すぎる状態になってしまっているように感じました。
※	物凄く近づいてポスター発表を聞いてくる人がいたため、感染症対策の面で不安を感じた。発表者と質問者の距離を保つためのテープや目張りなどが必要と感じました。
※	システムが難しく、オンラインで尋ねてもいないポスターの人が多かった
※	ポスター発表は発表者とのディスカッションが有意義なので現地開催のみにした方が良いと思います。
※	オンラインのポスターは全く機能していなかったように思う。
※	横浜会場にて参加させていただきましたが、ポスター発表の際は横浜会場の発表を拝見するので時間がかかり、オンラインでの発表を見る時間がありませんでした。今後、ハイブリッドで行うならば、現地とオンラインの発表時間を少しずらしていただけたら良いと感じました。
※	oralとは違い、ポスター発表はオンサイトに勝るものではなく、ハイブリッドで行うのは難しいと思った。遠隔の参加者は、現地で説明する場には参加できなかったのではないかと。学会の案内でも、最後まで、ハイブリッドでどのようにポスター発表をするのか、説明がなく、発表者は端末を持参すべきなのかどうかも不明で、非常に不親切と感じた。
※	コロナ禍で対応が難しいことはあるが、偶数、奇数番でポスターセッションを行った場合に、オンライン発表が間に入ると偶数-偶数や奇数-奇数の並びになり、ソーシャルディスタンスをとることが難しかった。
※	オンサイト参加したがオンラインポスターはいっさい見ることができなかった
※	ポスターのオンライン発表者と現地の発表者の時間をずらしてもらえると有り難かったです。同じ時間帯だと話を聞きたくてもオンラインにつなぐことが出来なかった(オンライン発表をゆっくり聞く場所がなかった)ので残念でした。また、年会期間が終わった後も少しだけポスターを見ることが出来ると有り難かったです。
※	オンサイトにいるとオンラインのことを気にする余裕がない。オンライン参加者もオンライン内でしか交流がなかったそう。この分断は解消できないと思うのでオンラインとオンサイトで時間や日にちを完全に分けるべき。
※	会場にいたが、オンサイトとオンライン同時にポスターセッションに参加することは難しかった。
※	ポスターの配置や発表順に改善の余地がある。オンサイトの発表とオンラインの発表が混在していたため、偶数番号と偶数番号のポスター、奇数番号と奇数番号のポスターがそれぞれ隣り合っていることが多々あった。単純にスペースが不足して発表しづらい上に、三密の回避の観点から極めて不適切であった。また、オンサイトとオンラインの発表の間に交流がほとんどなかったことは残念である。オンラインとオンサイトが分断されるようでは、ハイブリッド開催の意味は薄いと考えてオンラインで質問をいただいたが、ポスター表示画面に行かなければ返事ができなかった。サイトを立ち上げたところに質問が来ていれば表示されると思っていたので、メールに気づいてからも返事の返し方がよくわからなかった。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインでもポスター発表ができる機会があったことはよかったが、オンサイトとオンラインのポスターセッションを行き来するのには困難を感じた。
※	オンサイトとオンラインに分けたため聞きたい発表が聞けないことが多かった。
※	演題数が多いので、事前にキーワード検索で必聴演題を絞り込みますが、それ以外にも時間が許す限りポスター会場全体を回るようにしていると、思いがけず面白い演題に出会うことがあります。これがオンサイトのポスターセッションの醍醐味と言えます。そうやって会場を回っていると、腰をおろしてオンラインの発表を聴く時間がなくなりました。自分の責任ではありますが、見る・聴く立場としては両方に参加するのは困難だと思います。
※	オンラインのポスター発表はじっくりとポスターを読めるのはよいが、質疑はしづらい。
※	オンラインではポスター発表の視聴は不可能。発表者がログインしていません。オンラインでやるのであれば、オンラインだけの時間を設けるべきだと思います。もしくは初めから発表の視聴はオンサイトのミニする。
※	オンラインでのディスカッションはオンサイトよりもはるかに盛り上がっていなかったのは今後の検討課題であると思われ
※	オンラインでのポスター発表に関して、検索機能があったことは非常に助かりました。前回に比べて興味のある発表に容易にリンクすることが出来ました。ポスターの書式に関して、オンラインでも発表することを踏まえ、これまでのべた貼りを想定したデザイン性に優れた形式ではなく、もう少し見やすいと良いと感じました。
※	オンラインでのポスター発表が会期中だけの発表だったようで、そのことを知らずにオンサイト参加していて、オンラインのポスター発表は閲覧することもできなかった。一定期間公開しておくべきだと思った。
※	オンラインのポスターは、はじめてのことでいろいろな人がいろいろな形式でファイルをアップロードしており、どうやってみればよいのか、とまどった。さらにプレゼンターとのディスカッションの仕方(「いつ、どうやってやるべきかなど)がわかりにくかった。でも、オンラインのポスターの試み自体はよいと思った。
※	前半のセッション発表者が時間を超えて質疑応答をされるのは構わないが、後半発表の隣のポスターの前も使って行うことはやめてほしいと思った。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可>※今年の年会では2日目に一日通してほとんどの会場で一日中英語セッションが行われるようにし、その他の日程も常にどこかの会場で英語のシンポジウムが行われるようにプログラム編成しました(その他)

回答者番号	その他記述
※	同じ時間帯に発表が多く被っているため聞きたい中でも取捨選択が必要だった。時間帯がずれていればもう少し聞くことができたと思った。
※	時間が重なって視聴したいプログラムが複数あった場合に不便だ。
※	午後一番の時間にポスターセッションのみで時間を持て余した。オールセッションをこの時間にして、夕方ポスター→帰宅できるようにしてもらえた方が参加しやすい。
※	学生のために日本語でやった方が良かったのでは？
※	オンラインだと家庭事情もあり、夕方帰宅して晩御飯づくりや子供の世話があるため、夕方6時以降の講演は全くみれな
※	ポスターセッションの使い方が分からず、聴けていません。
※	シンポジウムやワークショップを整理して、一般的な就業時間にメインのイベントが収まるようにすべきと思う。
※	英語のシンポジウムを全日程に配置していただかないと、日本語を使わない留学生やポスドクを帯同しにくい。近年は大学や所属が、学会よりも大学行事優先に求められ、講義や会議が期間中に重なるためオンラインにする方も多いと思う。その結果、日中にしかセッションや発表がないと参加できるものが少ない。朝や夕方以降にもオンラインセッションを入れて欲しい。オンサイトの参加者も、宿やサイトで参加できるようにできる。
※	二日目には終日参加できたので、英語の講演が一日通ってあったことは良かったが、これが出席できない日であったら、残念だったと思う。音声の調整が悪く、マイクの声が入らない、声が小さい、音がハウリングして割れるなど、聞きにくいところがあったのが気になった。一々zoomに繋ぐ度にIDを記憶させるようにしていたがメールアドレスの入力を繰り返さなければならず、不便。タイムテーブルの詳細説明からすぐにzoomに飛べず、最上段の「ライブはこちら」へ行かないといけな
※	ポスター発表はやはり夕方の方が良い
※	同時刻に関連がある内容のセッションが重なっており、聞けない。
※	シンポジウムならびにワークショップの会場は入り口の戸は空いていましたが、人が非常に多かったです。立ち見も多かったです。また会場外の椅子が足りなくてそこにも座れず、諦めて帰りオンラインで発表を聞きました。
※	よかったが、質疑応答が日本語になるなら、あまり意味が。とは、感じます。やるなら、ネイティブスピーカーを入れてやるべき。また、発表がおわった瞬間、webから消えるなら、呼んでもしょうがないかも。
※	午前と午後間のポスター発表の時間が長いと感じた。
※	英語セッションはもっとあってもよかった
※	せっかくのハイブリッド形式ですので、オンデマンド配信があるとなお良かったと思います。聴講したい演題の時間が重なっており、どちらかを諦めざるを得ないことがたびたびありました。
※	英語での発表は個人差が大きいですが、日本人研究者間で言うと、一部の人はもう少しわかりやすい英語で話す努力が必要で、学会としての取り組みに限界はあるかもしれないが、発表内容は一度は英語を母国語とする人に聞いてもらってから発表するようにしないと海外の参加者は増えづらいのではないかと。論文と同じに通じにくい英語を話しても伝わらない。
※	関心のある3つのセッションが同時刻に重なったことがあった。
※	同時並行が多く聴きたい発表が重なることと、また夜遅い時間の講演等で都合つきにくい時用にも、オンデマンド式に後でも視聴できると、なおありがたかったです。
※	参加していないので良く解りません
※	参加していません。冊子がなかったので見ていませんでした。
※	夕方や夜遅くに設定するのは止めて欲しい。遅くとも午後7時には終わるようにして欲しい。午後8時台まであるセッションに参加する気はない。
※	オンライン参加を想定してなのか遅い時間のセッションが多かった。早めにオンサイトを切り上げて帰宅し、子供の世話をしてから再びオンラインで参加、という選択肢ができた点はよかったが、本当にこれが良いのかわからない
※	シンポジウム、ワークショップはすべてE/Jで良いと思います。
※	onlinecofシステムは良くなかったタイムテーブルは発表題名の表示が一部しか表示しない時点ですごくわかりにくかったです。アプリのままで良かったです。
※	セッションがすべて平行してあり、時間を分散してほしい
※	特になし
※	国際化という点で英語での発表は大事ですが、日本語で十分と思います。正しく伝わらなければ意味がないので。
※	英語の質疑応答で痛々しいセッションが多かったので、英日徹用で臨機応変の対応が良いと思います。
※	ポスター発表は最後の方の時間帯の方が、時間を気にせず議論が盛り上がりやすいと思う。今回はコロナ禍での開催だったので飲み会への流れを断ち切るという意図もあったのかもしれないが、ランチに外れてしまった場合、どこかに食べに行く時間も取りにくいので、夜の時間帯が良いと思う。
※	現地だったが忙しく自分の発表しか行けなかったもので、回答できず。すみません。
※	セッション間のインターバルがあったので、そこで帰宅してシンポジウムやワークショップを聞くことができたので良かった。
※	朝9時から始まり、(遅くとも)夕方6時までですべてのプログラムが終わるようにしてもらえるとありがたい。さまざまな理由で夜遅くまでで学会に参加できない人も少なくないと思われる。世代やジェンダーに関係なく多くの研究者が活動できるよう、また、それぞれの人のワークライフバランスが重要視されるよう、運営する側も参加する側もより一層の意識改革が必要だと感じました。今後に期待します。
※	ワークショップやシンポジウムに関しては、オンラインの方が席の位置を気にせず、同時進行中の別のセッションへの移動がスムーズに行えたため、今後も同じようになると快適さが増す。実際、全日程で現地参加したが幾つかのシンポジウム(時間帯)に関しては滞在先からオンラインで参加した。
※	国際化の方針も理解できるが、日本人同士でつたない英語でやりとりして議論が深まらないケースが多い。英語化を推し進めるならば、少なくとも発表者は英語で発表する練習をしっかりと、研究内容がきちんと伝わる様に努力すべきである点を学会側からもっと求めても良い。英語が得意ではないのに、準備をせずにダラダラと話されるくらいなら、日本語にするか英語セッションの演者から外れてもらった方が良い。英語化を目指すならば、学会側が演題募集の時点ではっきりと
※	ワークショップの終わりがちょっと遅いと思いました。
※	英語でやる意義は理解するが、同時に国内の学部生・院生などが英語では何もわからず時間の無駄に終わることもありうる。日本の学会であるということをもっと意識してほしいし、学生を置いてけぼりにしないよう配慮してほしい。母国語を大事にしない日本の学会の意義は理解できない。

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可>※今年の年会では2日目に一日通してほとんどの会場で一日中英語セッションが行われるようにし、その他の日程も常にどこかの会場で英語のシンポジウムが行われるようにプログラム編成しました(その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインであれば今の形でいいですが、現地参加では間の時間が長すぎる気がします。ポスター発表の時間を区切って自由討議は夕方に戻して午後のセッションを早めに始めてほしいです。
※	2日目の英語セッションに関する工夫に気が付かなかった
※	英語による講演とディスカッションを「学会」で行うことに意味を感じません。英語教育は、それ専門で行うべきもので、学会はもっと重要な科学の情報を広く伝えるべきだと思います。英語が伝わらないために、英語のハードルを作ることで英語が得意ではないヒトを排除しており、日本の将来の損失にも成ります。英語圏からの invited speaker は参加者の何%いるのでしょうか？参加している大多数の日本人研究者に、正しくたくさんの科学情報を伝えるのが、日本の学会としての役割ではないでしょうか。学会と英語教育と兼ねることは、むしろサポっているように思います。英語教育は学会とは別に機会を
※	午前中に英語の発表が、午後日本語の発表が固まっていたかと思えます。疲れた午後の時間帯に日本語の発表が多かったのはとてもありがたく感じました。
※	東京からの日帰りに参加の身としては毎日の9時開始はやや厳しかった(が、個人的な問題と思う)3日目午後英語のセッションが無いと留学生がぼやいていたので、英語セッションを固めるよりも、どの時間帯にもあるように配置する方が重要と
※	オンライン・オフラインに関係なく、インターバルが長い(ポスターの時間になっている)関係で、同時刻に多数のoral sessionが行われる形になっており、聞きたい発表・テーマの重複が多数で、タイムテーブルの作りに残念さを感じた。オンラインである強みを生かし、他の一部の学会で行っているようにon demand配信を会期以降も少しの期間もうけることで対応してくれるのであれば、現行のタイムテーブルでも問題は無いのかもしれない。現行の様なタイムテーブルである場合、もう少し分野と時間帯の構成を考えて、みたい演題のかぶりが少ない構成だと助かる。
※	ワークショップでの発表直前の時間帯にポスター発表があったため早く切り上げねばならず、別日に設定していただけると、ポスター発表も余裕を持って制限時間いっぱい議論することができたと思う。
※	諸事情あるのだと思うが、ポスター発表は夕方頃の時間帯にあるのが望ましいように思う。
※	特になし
※	聞きたい講演に偏りがあった。3日目に似たようなセッションが多く、行き来していた。またプログラムの時間を前倒して進めていたらしく、聞きたい講演が聞けなかったものがあつた。多少の時間の前後はあると思っているが、20分の講演だったので、タイムキーパーはしっかりしてほしいと思った。
※	ポスター発表が早めの時間だったこと自体は悪くないが、発表時間が終わると早々に回収している人も多く、ポスターが歯抜け状態になっていたのは残念だった。とはいえ、ワークショップを聞いてからポスター会場に戻って回収するのは実際手間だったのでそうなるのはやむを得ない気がする。また最終日はポスター終わってそのまま帰ってしまう人も多かったので、やっぱりポスターは夕方の方が良い(会場で集まってそのまま飲みに行けるからとは言っていない)
※	言語は特に気にならなかった。
※	積極的に英語のセッションを行うのは賛成。ただし、分野外の研究者や学生にもわかりやすいように特に単語に日本語訳を付けたり、日本語での質疑も可能とアナウンスしても良いと思う。座長や演者の裁量でよい範囲ではある。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	英語のシンポジウムやワークショップは、全体にちりばめたほうが英語しかわからない参加者は全く参加できない時間が生じず良いのではないかと思います。今後もハイブリッドを続けるのであれば、やはり録画は味気ないので、海外の演者にもリアルタイムで参加してもらえるようにうまく時間帯を分散して組んだほうが良いのではないかと思います。
※	不参加
※	もっと英語になれる必要があると感じた。
※	最終日のポスター発表では、偶数番の発表者は、発表終了とともに撤去作業を始めなければならない、来てくれた研究者と満足に話ができなかった。ポスター発表が午後一番であるのは良いが、その分終了を時間を早めたのでは意味が無い。ポスター発表終了後も1~2時間は余裕をもたせて欲しい。
※	なし
※	わかりません。
※	プログラム(一覧表)は、分かりにくいと感じました。
※	参加者から見れば、シンポジウムとワークショップの違いがよく分からない状況になりつつあると思う。
※	セッション数が多すぎて、セッション同士の間が短すぎる。前のセッションが押すと、次のセッションの準備が十分にできない。また、講演後に講演者と参加者の間でコミュニケーションを取る時間が欲しい。全体的にゆったりとしたスケジュールに
※	国際性は必要でも、納得いく講演・ディスカッションを聴きたいので、できるだけ日本語の発表を増やしていただきたい。
※	特になし
※	英語セッションに気を配る必要はないと思う。
※	日本語のセッションが少なすぎた。
※	オンラインの場合は、ポスター発表が昼にあっても問題はありませんでした。ただ、参加していた場合は、時間を持って余す可能性があったかなと想像します。
※	似たようなテーマのワークショップが同じ時間帯に重なることが多く、そのため自分の発表セッションのみしか見れないなどが今回特に多かった気がします。できればテーマごとにももっと3日間ばらけさせていただけるとありがたいです。
※	2日目にそういう状態であることは参加していても気づけなかったが、英語かどうかなどは全く不毛だと思う。意図がよくわからないし、誰のためでもないと思う。
※	評価できるほど参加できていない。
※	言語の違いは気にならなかったのに2日目に英語講演が集中していたことに気が付かなかった
※	オンラインで参加できたことで会場がいっぱいで入れず諦めることや、時間が遅いために参加を諦めるセッションがなく聞きたいものを聞けたことは良かった。ただOnline confが見づらかった。
※	2日目のシンポジウムには興味が湧きませんでした。申し訳ありません。
※	良かった点オンライン参加が可能だったことで、移動が必要な時間帯にも興味のある発表を聴講できた点は昨年に続き良かったです。残念だった点ただし、午後の発表で、夕方遅い時間帯に実施されたものに関しては、家庭のこともしなければならぬ時間帯で参加することができませんでした。昨年度はオンデマンド配信もあり今年も聴講できなかったものは期待しましたが、配信が無かったので非常に残念です。
※	総会は、他のものと重ならない形で開催して欲しかった。

質問10. フォーラムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述(参加されたフォーラムの感想を含めて)
※	AlphaFoldセッションが素晴らしかった。もっと時間を取って、早い時間に行くべきだった。
※	フォーラム、シンポジウム、ワークショップの違いが分かりません。
※	途中、小休憩が欲しかったです。
※	20:45終了だと現地参加の場合夕食をとれる場所が限られてしまうので参加しづらい。
※	ライフワークバランスの観点から、フォーラムの終了時間を早めてほしいと思っています。
※	開催意図が不明瞭なものもあった。時間帯は遅すぎるのではないかと。
※	オンサイトでは遅すぎる時間で出席したことはなかったが、意外と面白い話題があり、オンラインでは良かった。
※	AlfFold2のセッションは良かった。午後9時過ぎまでになるのは、ながいと思ったが、参考になった。
※	テーマについて:フォーラムは専門研究ばかりでなく、毎年サイエンスコミュニケーションや地域貢献、アウトリーチ活動や教育など社会との接点のテーマも取り上げられてきた。これからも、このようなテーマで開催して欲しい。開催時間帯:今回のフォーラムは、職場からオンラインのみで参加したため、時間帯は気にならなかった。しかし、次年度以降アフターコロナとなっからの会場(オンサイト)参加の場合、年會のもう一つの楽しみである夕食をしながらの交流の時間を考えると終了時間が20:00前が望ましい。
※	小さな子供がいると、参加しづらい時間帯だった
※	1, 2日目ともに夜9時まで開催されるのは辛かった。ポスター前の時間を削って、もっと前にずらしてほしい。
※	フォーラムは参加しなかった
※	時間帯が遅すぎて参加しにくい。
※	フォーラムは、とてもよかった。ただ、発表内容をレコーディングして後日見れるものもあったので、それ自体はよかったのだが、あらかじめ知らせてくれれば、同時進行の別のフォーラムに参加できたのが残念。どのフォーラムもとても興味をひ
※	参加していないので良く解りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	夜遅くのフォーラムにオンラインで参加できたのは、とてもよかった
※	オンラインで参加したので時間帯や長さは気にならなかったが、会場で聞く場合はもっと早い時間帯にしてほしい。実は時間帯が遅く感じたので、あえてオンラインで参加した。ハイブリッドだとこのような時に便利であると痛感した。
※	参加していないのでわかりません。
※	現地だったが忙しく自分の発表しか行けなかったため、回答できず。すみません。
※	フォーラムは中途半端な感じがしました。ディスカッションは深くなかった。
※	研究不正問題には今後眼をつむるのですか?
※	19:15~20:45という時間帯では参加できない人も多いと思われます。より一層の意識改革が必要だと感じる。
※	コロナと社会との関わりを扱ったフォーラムに少し出たが、コロナとはあまり関係のない各(宗教)団体の宣伝のように感じるところもあった。
※	時間帯が遅すぎる。
※	AlphaFoldのセッションは為になった。
※	オンラインだと時間を気にせずできるのでしょうが、オンサイトの場合、もう少し開始時間が早いとありがたいですが、他との調整で難しいでしょうか。今回オーガナイザーとして参加しましたが、ハイブリッドでも問題なく運営されていて、スタッフの皆さんには感謝しありません。オンライン参加者の人の顔が見えないのが残念ですが、質問も挙手形式で繋いでもらえて滞りなくできなと思います。また、パネルディスカッション形式の総合討論も可能で、とても良かったと思います。
※	会期を短縮する重要性は理解するが、近郊から通いで参加し家庭がある人などにとっては21時近くまでになるのは厳しいのでは、一方で、ハイブリッドであったので、この部分についてはオンサイトオンリーの時よりは改善しているように思っ
※	特になし
※	オンサイトだったのでフォーラムへの参加は現実的にはムリであった(片道1時間程度で通ったため)。また、オンラインのみであったとしても一日の拘束時間が長いのは参加意欲をそぐと思う。昔海外の学会は一日が長いと思っていたが、オンラインになったら逆に短くなり、日数が増えた。ハイブリッドでは難しい(会場代がかさむ)いかもしれないが、20:45終了は難しい。家族へのケアもある。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	不参加
※	参加したいものもあったが、次の日に影響が出ないように早めに休むことを考えると少し遅い時間帯であるように感じた。時間を気にすることなく普段関わりがないような人とも議論することができるのはオンサイトでの学会の魅力ではあると思うが、やはりしっかり休んで次の日の企画に参加する必要がありますので個人的な考えとしては19時頃までには全てのプログラムを終えるような日程を組むのが良いのではないかと思う。
※	内容を考えるとやむを得ないと思うが、夜遅い時間になってしまうため、参加者が少ない印象があった。
※	パネリストに偏りがあり、人数が多い割に議論が活性化しない。フォーラムのテーマもややマンネリ化している感があり、理事メンバーもやや偏り傾向があるのではないかと。まだまだ議論すべき課題は多いはずである。
※	AlphaFoldのフォーラムは初心者にも易しく解説してもらえて、非常に有益だった。
※	フォーラムの内容は良く興味するべきだと思う。
※	オンラインだから就業時間外に開催されると正直困りました。ワークライフバランスの観点から残念でした。
※	開始時間が遅いこともあり、長さが60分+ディスカッションが適切かと思った。オンラインで視聴できるのは時間帯を考えると参加者を増やすいい方法であると感じた。
※	例年に比べてテーマの多様性に欠けていたと感じた。今年は「ぜひ参加したい」と思うテーマがなかった。
※	フォーラムは良かったのですが、オンライン参加者が多く議論が盛り上がらなかったのが残念です。意見を出しやすい工夫が必要かもしれません。
※	評価できるほど参加できていない。
※	興味があったが子育て世代には参加しにくい時間帯で、実際参加できなかった。
※	時間が遅かったがオンラインで参加できたため聞くことができて良かった。
※	コロナ禍を扱うので参加したフォーラムが科学からかけ離れていて驚いて途中退出した。フォーラムの開催には審査があったらどうかと危惧した。
※	フォーラムのオンサイトでの参加は帰宅時間を考えると難しい。

質問10. フォーラムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述(参加されたフォーラムの感想を含めて)
※	Q9の回答と同様に、この時間帯は参加が難しいと感じました。興味深いとても残念です。最終日の市民講座だけはなんとかオンタイムで聴講できました。来年度もオンラインでの参加が可能な場合は、ぜひオンデマンド配信をお願いいたしま
※	今年は内容の幅広さが少なかったように感じた。日頃接する機会の少ないもの、荒削りな感じのものを楽しみにしている。

質問11. 年会・学会の企画や取り組みについて、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	すべて良かったです
※	学会のプログラムが紙ベースで欲しい、難しいようでしたら、またスマホ/タブレットアプリを復活させてほしい!!!
※	研究倫理はランチョンでない方がよかった
※	高校生の聴講が可能であった点。
※	EMBO 企画は本学会会員のために開催して欲しい。去年は企画内容・演者共にとても良かった。今年は年会長がオーガナイズするとは、いかがなものでしょうか。
※	分生の年会は、毎年様々なイベントが付随していて楽しめる。今年の「横浜ヒストリア企画」は、その時々エピソードを思い出して感動した。学会は、発表ばかりでなく参加するだけで様々なドラマがある。これからも楽しい企画をよろしくお願い会場には行きませんが、感染対策等様々な取り組みをされていることが良かったと思います。
※	昨年のようにオンデマンドで聞き逃した講演を聴講できるシステムが無いのと、オンラインでの参加が格段に不便になった。参加者の便利を考慮していない。ビジネスならば失敗の範囲。
※	富澤基金メモリアル企画;発表している人がほとんどいなかったような。横浜ヒストリア企画;内容はよかったが、インタビューに多様性が欲しかったような。
※	オンライン参加だったため、恩恵にあずかれない企画が多くて、とても残念だった。これほどまでにオンサイト参加者の割合が高いと知らなかった。
※	ワクチン接種が他者への感染拡大に与える影響については評価が十分とは言えず、「安心ステッカー」が誰に安心をもたらすためのものなのか不明瞭だった。幕張の魅力も伝えてもらえるのが良かった。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	新型コロナウイルス感染症の拡大の観点から、対面を実施すべきでなかった。全国から参加者が集まる大規模な学会として、いくら会場での感染対策を実施しても、学会会場での会話に伴う飛沫感染、マイクや設備を介した感染拡大、学会会場外での会食に制限ができないことから、対面開催は問題である。
※	オンサイトで(ハイブリッドで)開催できたことは、運の要素が強かったとはいえ、良かったと思います。企画で例年以上に優れたものがあつたかといえは、ちょっとわかりません。
※	ポスター会場に充電器がなく、PC絵のプレゼンの発信、受信に不便。
※	安心ステッカーの貼る位置がわからなかった。アクリル板+マスクを通しての口頭発表は聞き取りづらかった。キャリアパス委員会企画ランチタイムセミナーが盛り上がり欠けた。もっと本音を聞きたかった。
※	キャリアパスの議論がその場の思いつきで行き当たりばったりな印象を受けたので、事前アンケートをもっと充実させるべきだと思う。毎日がPCRがラボで流行っていました。
※	ウチダヒロコの年会ポスターデザイン
※	ポスター会場では板と板の間は広がっていたが、板上の隣同士は相変わらず狭かった。隣が偶奇時間関係なく居たので(こちらのスペースを取って発表していた)、自分がポスターの前で発表できなかった。その点、ポスター会場レイアウトはもう少し改善すべきだと思う。またシンポジウムやワークショップ会場が満席の場合の対策として、廊下にもっと椅子が欲しい。会場内どこでもwi-fiが使えるようにして欲しい。ポケットwi-fiはポスター発表の時間が終わったら直ぐに返却しないといけなかったのが、常に使えるわけではなかった。
※	おそらく会員がぶらぶらしているからだと思うが、共催をあまりしない方が望ましいと思います(それぞれの学会の自立につながるのでは?)また、会員数が膨張するので仕方ないと思いますが、20年前、10年前、現在と比較すると、明らかに取り上げる分野が散漫になっている印象を受けます。
※	高校生発表は、高校生の真摯な姿勢としっかりした発表に感銘を受けた。しかし、単に高校生と話したいだけ、と思われる人がポスターを占拠して「研究者を目指すならばもっと言い返すくらい気が強くなければダメ」などと偉そうに研究内容と無関係なことを説教している人がいて、高校生が困っていたのは少し残念。
※	学会方の学会に対する思が述べられた冊子を作るぐらいなら要旨集を作ってほしかった。
※	高校生発表を拝見し、一部のポスターで議論させてもらいました。高校生に研究発表の機会だけでなく、分子生物学的実験を可能にする資材を貸与したり研究費を公募できれば良いのではないかと思いました。そのために分子生物学会の会費を支払うことは有意義です。
※	歴代横浜年会長インタビュー冊子を配布するのならば、プログラム一覧を紙で配付して欲しかった。会場のネット環境が悪く、つながってもノートパソコンの狭い画面では見たいシンポジウム、ワークショップなどを探すことができなかった。何か分からず歴代横浜年会長インタビュー冊子を手にはしましたが、読むことはなかった。
※	Alphafold2.1のセッションを組まれたのは、秀逸。
※	オンライン参加が可能だったこと
※	市民公開講座がとても面白かったです。
※	隣のポスターとの距離が近く、かなり密な状態だと感じた。
※	専門学会としての在り方を考えた時、どのような感染対策をすればどのくらいの規模の集会が可能になるか、ということをもつて社会に示していくことは重要だと思います。適切な感染対策(実験的な取り組みも含めて)をとった上で、オンサイトも含めた学会を行おうとした今回の取り組みが良いものだったと思います。
※	せっかく分子生物学会なので、抗原検査、PCR検査はもっと大々的にやってもよかったですのでは?○○○グループをスポンサーにしてポスター会場にブースを作るとか?
※	オンライン参加で、自分の大学内から参加したため、通常の仕事にたびたば邪魔されて、ワークショップとポスター発表以外のイベントにはほとんど出られませんでした。ごんねん。
※	毎年キャリアパスについてのセミナーがありますが、どれくらい役立っているのでしょうか?
※	大会に参加していないのでわからない。
※	例年配布されていたスマホ用のアプリがなく、my scheduleの登録・確認などが出来ず、不便であった。オンライン抄録も読みにくく、検索しにくい。過去最低レベルであった。予算がなくてケチったのか?
※	不参加
※	安心ステッカーどこに貼れば良いのか分からなかった。文部科学省の方と議論するランチタイムセミナーに参加したが楽しかった。リアルタイムでアンケートをとったり、コメントできたりしてYoutubeのライブ配信に参加しているような感覚だった。様々な考えがあることを知り、非常に有意義であった。
※	オンサイトとオンラインのハイブリッド形式で開催したこと。

質問11. 年会・学会の企画や取り組みについて、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ポスター会場の状況を見れば、感染症対策など全く意味をなしていなかったのは明らかである。
※	全体のタイムテーブルを受付等に掲示してほしかった。見通しが悪くて今何が行われているかがわかりにくかった。
※	質問者毎にマイクを消毒する係員の姿に感動した。
※	応援ソング、さむいのでやめてほしかったです。
※	応援ソングは学会として奇異だと思う。次回から無くして欲しい。
※	AlphaFold2
※	富澤基金メモリアル企画は、とても良かったです。また同様の企画があったら伺いたいです。
※	市民公開講座がとても面白かったです。学会終了後数日間毎日がPCRが頭の中で流れていました笑
※	評価できるほど参加できていない。
※	高校生発表の質と熱気に感心した。無料抗原検査サービスは感染状況の把握の意義があると共に、検査方法への理解が深まり意義があった。
※	富澤基金受賞者ポスター楽しみにしていたのにほとんど発表者がいなかった
※	抗原検査サービスや安心ステッカーなど前もって知らされていたが、行ってみたら安心ステッカーを発行してくれる場所がどこなのかわからず利用できなかった。多分ステッカーを貼っている人が少なかったのはそのせいだと思う。対策としては良いと思うので、もう少しわかりやすく案内が欲しかった。
※	安心ステッカーが貼ってある貼っていないで対応が異なることはなかったのですが、不要だったと感じた。
※	市民公開講座は、本当に市民公開講座として意図した内容だったのか疑問でした。また、大学所属の教員ではない職位のものからすると、特権階級の人たちの話を聞かされている感じがしていました。
※	会場の座席が少ないこと以外は、良くも悪くも、コロナ前の年会と同じようだと感じました。

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナー(横浜会場・オンライン会場)について<複数回答可>
(要望・その他)

回答者 番号	要望・その他記述
※	オンデマンド配信を行って繰り返し視聴できるようにしてほしい
※	企業展示が閑散として寂しかった
※	企業の名前だけの一覧表を欲しいです。
※	もっと種類を増やして欲しい(オンライン)。企業展示はオンラインのみで良い。
※	仕事の都合で、ランチョンをオンラインで聴いてから、午後会場に行き展示ブースで実物を見ながら担当者に質問することができた。ハイブリッド開催は、メリットがあると思う。できれば、一か月くらいオンデマンドも準備してもらえると良い。ランチョンは企業情報を得るため役立つので、同時間の複数企業のセッションにも参加したい。
※	講演要旨が見にくい。
※	抽選から漏れても、オンラインで問題なく視聴できた。
※	わざわざ氏名、所属を追記しないと参加できないのは面倒だった
※	昼食時間帯など、企業のセミナーがあったのかもしれないが、オンラインだと参加できなかったように思う。企業側の要望もあるだろうが、オンライン参加者も聴けるとありがたい。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	試薬、機器を見せる写真がほとんどなく、企業名しかオンラインでは見られなかったので全く意味がなかった。
※	もう少しオンラインセミナーを増やしてほしい。
※	現地に居るとまったくオンラインの企画は気にしなくなりました
※	オンラインでの企業展示会は壊滅的にダメだ。ウィンドウショッピング的にブースを周るお楽しみ感が全く無い。新製品はやはり現物のデモ機を見たり触ったりしなければ全く感動を覚えない。
※	オンラインからの参加の方法がわからなかった。
※	コロナが完全に終息していない中で、感染に注意しながらバイオテクノロジーセミナーを開催してくれたのは英断。
※	オンサイトで参加していると、オンラインの方にはなかなか気が回らないのではないのでしょうか。少なくとも私はそうだった。会場のWi-Fi環境もひどいし。
※	起業展示のブースが例年よりも狭かった。オンラインの展示は興味なし。
※	事前予約なし(or 抽選漏れ)に当日に並ぶ人が多く見られた。せっかく事前予約の枠を設けているなら、その枠をもっと多くしても良いと思う。
※	来年もハイブリッド開催をお願いします
※	ランチのチケット予約が取れていたが、会場にギリギリにしかけず、目の前でランチがなくなった。余るのもよくないのはわかるが、もう少し工夫があればよいと思いました。また、マンモス学会のためにランチを抽選にするのは仕方がないと思いますが、できれば外の混んでいるお店でランチをとらなくてもよいように、不公平感がないように、配慮があるとよいと思います
※	感染対策の観点から企業からの昼食提供はすべきではなかったと思う
※	オンラインでわざわざ企業展示を見に行こうという気にならないし、見るとしても最初から興味があるところしか行かないので、気軽に見て回って実際の製品を見て回れるという点でも企業展示は現地開催でないと意味がないと思う。
※	プログラムの動作が重くて、見るのが大変でした。タイトル一覧だけでも、印刷したものとよいと思いました。
※	オンサイトのみ参加したのでオンラインの状況は分からない。今年は例年より参加企業が少ないように思った。少し残念。ただ、スタンプラリーなど、参加者が企業へ足を運ぶ仕組みは良かったと思う。出展企業の減少は学会の規模の縮小に直結するので、研究者が展示ブースへ行きやすいきっかけを作ることは大事だと思う。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	専門書は高額なものが多いので、書籍展示を充実してもらえると、実際に読んで内容確認できるので、購入がしやすくな
※	今年は仕方がないかもしれないがセミナーの選択肢が少なく、抽選にも漏れ少し残念だった。
※	オンライン会場があったことを認知していなかったため、会場でも案内しておくことでアクセス数が増えると思います。
※	最終日、ポスター発表直後に撤収作業が始まるのは残念だった。ポスター発表後にゆっくり回りたい人もそれなりにいると思う。せめて17時ぐらいまでは展示して欲しい。
※	オンサイトセミナーに企業の担当者がいないケースがあり、その場で話を聞けなかったのは残念だった。弁当に余裕があり、毎日どれかを聴けたのは良かった。
※	オンサイトではこれまで会場に入れなかったことがあったが、オンラインだと確実に聞いて良かった。企業から提供されるお弁当は必須ではない。
※	評価できるほど参加できていない。
※	オンサイトのランチョンセミナー、企業展示は有効だった。オンラインは聴講していない。
※	企業展示会が、単なる商談の場になっているように感じられた。実際に参加している企業としては商談の場なのであろうが、年会在学的な交流の場であるならば、より工夫した内容を示していただいても良いのではないかと感じた。
※	オンサイトで参加したが、参加企業が少なく直接話を聞きたいと思っていた企業がなかったのが残念だった。
※	バイオテクノロジーセミナーのみオンラインで参加。
※	オンライン企業展示は、せっかくのオンラインなのだから、会期期間中だけでなく、一定期間参加できるようにして欲しい

質問13. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	英語での発表内容についていけない学部生もいるかと思えます。日本の理系離れを考えるなら、日本語・英語併記や日本語セッション、英語セッションでの要旨を英語・日本語併記にするなど両方に配慮すべきかと思えます。
※	全部英語でいいと思う。学生の教育にもいいのではないかと？基本的に英語だからわからないということはないと思う。
※	学生の勉強のために日本語でやるべきだった。少し背伸び感あり。
※	特段問題を感じなかった
※	参加者に対する最低限の配慮は必要と思うが、言語の使用は自由であるべきと思う。
※	学部生から各専門分野の研究者まで、学会とは分野を問わず学ぶ場でもあることを考えれば、単なる英語での発表・質疑練習場とするべきではない。海外登壇者も英語で参加するセッションもある、多様なあり方に意味がある。
※	せめてアカデミアの間は、英語のリテラシーを上げるべく努力すべき。
※	言語については議論すべきところである。生命科学、医学分野の標準言語は英語であり、オリジナル論文は英文で投稿するのが自然である。また、英語ならばコミュニケーションが可能な中国、韓国、シンガポール、東南アジアからの参加者も留学生をふくめて漸増していると思う。日本癌学会などは、ほぼ英語セッションで行っている。できるだけ英語で議論ができるように、我々会員一人一人が、英語力向上に力を注ぐべきと考える。
※	言語は英語がいいと思います。その代わりに、発表をもう少しゆっくり行っていただきたいです。
※	字幕が入ると理解のあやふやな部分の助けになるので、より活発な議論になるのではないかと考えます。
※	オーガナイザーと演者の英語がオンラインで聴くに絶えない場合は、無理に英語でなく日本語でも良いようにしないと、ディスカッションは深まらないし、聴いていて非常にストレスが溜まります。皆さんデータは良いのだから、もっと英語とプレゼンテーションのクオリティをレベルアップしませんか？留学生の方の英語のプレゼンの方が大方の日本人のものよりも数段上であるという自覚を持って欲しい。
※	シンポジウムで、発表者にネイティブがいるならやるべきかも。コロナが終わり参加者に外国人が増えれば、積極的に英語化すべきか。ただ参加者の数%がネイティブと低い割合なら、スライド英語にしておけばシンポジウム、ワークショップは質疑応答完全英語は、半分か3割くらいで良いかも。
※	今回のバランスはよい。
※	日本人が英語で発表するときに、質疑まで英語でやる意味が理解不能。
※	英語に不慣れた日本人研究者がいるのは事実だと思うが、将来も見据えて積極的に英語での発表を推奨した方がいいと思います。
※	英語字幕をやるのはとても良い案だが、あくまで英語が正しい場合に限る
※	英語力が原因で研究の魅力を伝えきれないと思われる演題が、毎セッションのようにあり、残念に感じた。分生は国際学会でも英会話サークルでもないのだから、発表言語は、徹底的に議論できる場とすることを最優先に、スライドも含め発表者に一任してはいいかと思う。
※	オンライン化が進むなら、スライドから専門用語を学習させて自動英訳字幕を使用することも可能？
※	日本語圏参加者(特に初学者、専門外の人など向け)、英語圏参加者 双方がわかる形が理想ではあると思います。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	シンポジウム、ワークショップはすべてE/Jで良いと思います。学生が多いので。
※	英語の発表者がいるセッションであるのに、他の発表者がすべて日本語であるセッションに違和感を感じた。英語の発表者がいるセッションは少なくとも英語にしても良いのではないかと感じた。
※	今回の方法でも特に気にならなかった。
※	英語だけでよかったです。
※	すべて英語でもいい
※	ポスターも含めて全て英語化しても良いのではないかと。ポスターで日本人同士が議論するような場合には日本語を使えば良い。
※	特になし
※	分子生物学会は学生も多く参加することから無理に英語でやらなくてもよい。
※	日本語でも意図が伝わらない方もいるので、英語にしたらもっとわからなくなります。日本語で十分だと思います。
※	英語化をめざすべきなのだが、正直、全編英語だと専門用語がわからず理解できないとき、議論が盛り上がらないときが
※	異分野のを知るためにシンポジウム・ワークショップに参加したが、発表者・聴講者共に英語に不慣れで聞き取りが難しい、かつ普段聴き慣れていない専門用語は意味が通じないため、ほぼ理解できなかった。異分野との交流ができる数少ない機会なので、無理に英語にする必要があるのか再考いただきたい。
※	非常に中途半端。全て英語にするか、全て日本語にするか、どちらかであるべき。
※	現地だったが忙しく自分の発表しか行けなかったため、回答できず。すみません。
※	座長にはもう少し英語で場を制しディスカッション出来る人を選んで欲しい。自覚の無い人が目立った。
※	英語が原則であるものの、一部日本語による質疑応答も行われており、日本語による会話の方が理解につながるのであれば必要であると感じた。ただ、英語圏の人が理解できるように、英訳はどこかで必要である難しさもまた感じている。
※	英語のセッションが多すぎた。
※	日本で行っている学会なので、本来はすべて日本語で行うのが望ましいと思います(外国の方のために、スライドを英語表記にするくらいはわるくないと思いますが)。
※	英語で発表するならば、発表者はシンポジウム演者に選ばれたことの責任を感じ、しっかりと準備して発表すべきである。英語が上手である必要はないが、下手なのに準備不足だと内容が日本語の場合と比べて半分くらい伝わらないし頭にくる。準備して発表できないならば、演者を辞退すべきである旨、演題受付時に学会HPに明記した方がよい。全体として、若い発表者はもともと英語が上手であったり、準備をしっかりとってきた印象がある。
※	すべて英語というのは国際学会でやればよい。日本の学会であるという立ち位置を見失わないでほしい。
※	今の形がよい(シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任)
※	英語がまだまだ堪能ではない学生からしたら、専門用語も多い英語のシンポジウムはほとんど理解できず、勉強にならな
※	発表は英語で質疑応答は日本語のスタイルが良かった。外国人は英語で質問でも可とすればよい。

質問13. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Q9に記載済み。母国語でScienceのディスカッションができない中国などの国は英語使用が必須になります。日本語は新しい外国の言葉、概念を取り込むことができ日本語でScienceのディスカッションが十分に可能です。日本語を理解しないinvited speakerは先導者なのであえて日本で多くの情報を得ようとは思わないかと。数名しかいないその方々の為に英語を使用することは、その他多くの日本人研究者に損をさせています。英語のプレゼンを日本人研究者の何割が100%理解したのでしょうか？英語プレゼンを100%理解したヒト以外、日本の学会に出席しながら情報を逃していることになります。
※	発表は英語でもいいが、日本語字幕か自動翻訳機の貸し出しなどをしたい。
※	英語があまり得意ではないので、上記のような配慮があればうれしいと思いますが、本来英語でコミュニケーションが取れないといけなくて甘えてはいけなく感じます。英語で口頭発表する機会が少ないので、若手にとってはこのような場で積極的に機会を設ける方がよいのではないかと感じます。
※	一部の座長が、大体決まった普通の英語を話すだけなのに、まどろっこしいのは進行上問題である。英語がまともに話せなくても定型のセリフを事前に準備できるし、もしそれができないのであれば参加者全員の時間が無駄になるので英語講演での座長をしないほうが良い。
※	1つのセッションで英語・日本語どちらも可にすると結果的にほぼ日本語になるので、覚悟を決めて完全英語にしてしまうか、英語苦手な人に配慮して日本語にするかと思う。しかし外国人の参加をうながすならば最低半数程度のセッションは英語開催にすべきだと思う。Zoomでの自動書き起こし/翻訳が実装可能なのであれば、オンライン上でそれを行うのはよ
※	発表者の声小さかったり、聞き取りにくいことがあるので字幕があると良い。
※	専門用語の和訳程度は欲しい自分の研究分野でなかったら聞き取りが難しいです
※	無理に英語にすることで、議論になっていないことが散見された。
※	シンポジウムは全て英語で良いと思います。ワークショップも今のようにオーガナイザーに一任するのが良いと思います。確かに日本語の方がディスカッションが濃厚になるのかもしれませんが、学会員(学生も一般も)が海外でも活躍するために、英語での議論に慣れておくといいと思います。そのため、シンポジウムは英語のみ。ワークショップは異分野融合による新しい分野など、内容によっては日本語じゃないと分かりにくいものもあると思います。
※	口頭発表のいいところは臨機応変が多少はきくところなので、英語がつかないなら簡潔に日本語で質問を許可したり、座長が簡潔に英語の質問に言い換えたりすればいいと思う。別に何もかもを完璧にやったり一律で例外を認めないようなことをする必要はない。
※	発表時間が十分にあれば英語でもよいが、今回ワークショップで与えられた時間は7分。限られた時間に情報を詰め込むため、また一瞬でスライドを理解してもらうために、あえて日本語のスライドで実施しました。英語併記はどうしても文字が多くなり、フォントサイズも小さくなりがちです。
※	最低限、日本語を理解しない発表者がいる場合は英語で行うべきだと思う。一方で、英語が苦手な参加者も一定数いるので、(質問が少ない時など)あくまで座長の裁量で、日本語での質問も許可する、英語への翻訳を助けるなどしても良いのではとも思う。
※	日本の学会なのだから、日本語での議論、発表を優先すべき。英語でやると、議論、理解のレベルが下がる。
※	現状でよい
※	英語か日本語かはセッションごとに分かれていたほうが良い。英語セッションと日本語セッションがバランスよくあるとよい
※	国際化を進める上で当然英語の方が良いが、分生のようなマンモス学会だと全く知らない分野の話も聞くこともあり、その場合は日本語の方が頭に入りやすい。母国語で開催する学会というのは自国のサイエンスの発展にとっても意味があると思うので今のような折衷案が良いと思う。
※	現在のやり方でよいと思います。
※	留学生の参加者が目立ったため、シンポジウムが英語で行われたことは良かったと思う。
※	全て英語で良い。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	分子生物学会では異分野の内容を聴きたくります一それがこの学会の発足の主旨だったのでは？その場合に英語では理解が不十分です。英語での発表はもっと専門的な学会で行えば良い。
※	英語のセッションで、質疑応答のみは日本語と英語のどちらでも可としたものはより盛り上がり上がっていったように思いました。残念ながら、英語と日本語が同じレベルで議論できる人はとても少ないようなので、ある程度フレキシブルにするのがよい
※	英語にすることでディスカッションが盛り上がり上がらないという難点があった。
※	「英語で発表させて、質疑応答は日本語」という意味の分からないセッションがあった。英語でやるんなら全部英語ですべき。
※	不参加
※	全部英語でいい
※	ひどいものもあったので、ワークショップ開催前に内容をチェックすべき
※	なし
※	英語の発表は発表はなんとかあったが、質疑応答はおざなりで低調であったと思う。質問者も早口で前提なしにいきなり質問事項を並べ立て、配慮が足りないなと感じることもしばしばだった。ゆっくりはっきり話す。最初に相手の論点を確認し、どこに関する質問かをしっかりアドレスしておく。などの質問者の心得などもどこかに載せておけないかと思った。あるいは座長が積極的に介入するとか。
※	Q13は、英語にしないことに関する質問になっていませんか？
※	演者・聴衆のほとんどが日本語話者である以上、活発な議論のために、日本語の発表をメインにするべきではないか？国際学会と国内学会は、それぞれの別の役割があるはずである。
※	研究室の留学生が日本語なら理解できても英語の理解が難しいといていた。全般に英語の発表が多く、それはそれで良いと思うが、英語ゆえに議論が盛り上がり上がらないところもあったので、英語だけにこだわらない方がよいと思った。
※	基本は日本語が良い。英語は、より専門性の高い学会で行えば良い。日本分子生物学会の役割を考えると、無理に英語にすべきとは思えない。分子生物学会は、広く学問の裾野を広げる意味もあるので、様々な学力の学生にも門戸を開いてほしい。さらに、自分の専門分野以外を学ぶ機会でもあるので、その場合は、英語だとわかりづらい。
※	「シンポジウム・ワークショップのスライドは英語または日英併記など英語圏の参加者に配慮しつつ、発表言語は英語にこだわらず徹底的に議論できる場とすることを最優先すべき」徹底的に議論するのはその時間内では無理な注文でしょう。
※	英語発表にこだわりすぎている。日本国内の研究者が多く集まる会で、第二言語である英語を用いて議論するというのは適切ではないと思われる。

質問13. 年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	分生は分野外の発表を聞くいい機会なのに、英語だと分野外の仕事は理解ができない。分生のような他分野が集う学会こそ日本語でやるべきです。
※	どこかに日本語でやっているところがあれば学部生も参加しやすい
※	日本語発表の尊重をお願いします。図表が英語なのは賛同しますが、未熟な英語を媒体とする日本人のコミュニケーションは合理的でないと感じます。
※	学会でのシンポジウム等は、自分のフィールドとは異なる分野の研究をまとまった形できける場としても位置づけている。英語が不得意なモノとしては、スライドも説明もすべて英語だと理解がかなり厳しい。
※	特になし
※	スライドが日英併記であれば、発表言語は問わないというスタイルがベスト。発牛学会のように英語のみの学会であるなら、参加者も減少するし、研究室として以後参加しないと思う。
※	現状のものでよい
※	複数の会場での発表・議論を見ていて、日本語のセッションの方が明らかに議論も盛り上がり、大学院生ともしき若手研究者の議論参加率も高かったように思えます。徹底的に議論できる場を提供するのか、海外研究者による最新の知見を聴講する機会を提供するのか、あるいはその両方を目指すのか、学会の立場・役割をもう一度真剣に考える時期にあるの
※	国際化はもちろん重要ですが、多くの参加者と深く議論することの方が重要だと思います。英語のセッションが多すぎました。検討をお願いします。
※	分子生物学会は、専門外の分野の勉強にも利用していて、思いがけない発見やアイデアにつながることも多いのですが、英語ばかりになると、専門外の分野の理解ができず、興味が削がれてしまいます。実際、日本語のワークショップの多くはとて勉強になりましたし、逆に英語のつたないディスカッションを聞いても、あまり役に立ちませんでした。昔は著名な外国人による英語のシンポジウムは貴重でしたが、今は日本で英語の発表を無理に聞かなくても、英語圏のオンラインの国際学会に出ればたくさん聞けます。英語の得意な座長たちの自己満足の部分が大きいのではないかと感じました。
※	シンポジストや一般演題の発表者に英語圏参加者がいる場合は仕方ないですが、本来、日本の学会でしたら、日本語を使用して欲しいです。ポスターを読む速度なども、日本語の方が早く読めます。理解度も英語より日本語が高いです。学会員で、日本語と英語が同じレベルで使用できる人はどれだけおられるでしょうか。日本の学会で、そこまで、英語圏に付度する必要はないと思います。日本の学会に参加するならば、日本語で、より多くの情報を正確に収集したいです。
※	シンポは英語であるべきだと思うが、ワークショップは混在でもよい。ただ同じセッション内では言語は統一すべき(日本語と決めた?日本語と)。スライドの言語は英語発表の際には英語は当然だが、日本語セッションの際にはどちらでもよいと思
※	シンポジウムについては原則英語使用と定めても良いと思う。
※	日本の学会なので日本語でも良いと思いました。
※	全て英語でよいが、専門用語には日本語訳の註釈をつけてもらいたい。
※	国際化を進めるとはいえ、日本で開催されている学会です。特に学生にも教育的効果をとするなら日本語発表は多いほうが良いと思いました。私たちにとても、分野外のシンポジウムに参加すると英語ではよくわからないことが多いと思
※	評価できるほど参加できていない。
※	シンポジウム・ワークショップの言語は、英語字幕が入るなら発表はすべて日本語でも良い
※	英語字幕を利用していないのでその意義をまだ評価出来ない。しかし一般に字幕表示の性能は高くなっているため積極的に活用すべきだ。
※	英語だけの発表にするのは良いが、英語で発表者に質問しても通じないケースがあり、結局日本語で質問したりした。しかし、国際化を目指すなら、少々無理があっても英語にしていってほしいと思う。そうでないと、いつまで経っても若い人が英語に慣れないから。
※	国際化のために英語でというのはわかるが、質疑が盛り上がらないのが残念。また分生は大きいので専門外の分野に関する勉強や情報収集も目的なので、そういう異分野の内容を聞くには日本語の方がいいと感じる。
※	学生さん達も議論に参加できるように、オーガナイザーが積極的にサポートすることも必要だろうと思います。
※	英語での発表や質疑応答にはそれなりの価値を認めますが、果たして日本の学会で英語のみのセッションを行う意義があるのかどうかは疑問です。年会参加者のうち日本語が全くできない方の割合はどれくらいなのでしょう。せめてオンライン配信で世界中の研究者が参加できるのであれば英語の発表は大歓迎ですが、国内の会員限定にしているはその意味も全くないのではないのでしょうか。英語で行うメリットとデメリットをもっと議論すべきだと思います。
※	シンポジウム・ワークショップ共に英語で表記されたスライドが多かったため、発表言語を英語にすることで時間が超過してディスカッションの時間を削るくらいなら日本語で発表してもらって、ディスカッションに十分な時間を割けるようにした方が発表者・参加者共にメリットがあると思われる。
※	発表者が日本人のみの場合は日本語のセッションが好ましいと感じた。
※	私が参加したワークショップでは、オーガナイザー自らが複雑な質問を日本人の演者に対して日本語でしていましたが、正しい判断だと思いました。発表も質疑も英語に固定しない方が、互いにメリットが多いと感じます。

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	やや重いため使いにくい時間帯があった
※	ポスターのタイムテーブルのページが重く、特定のポスター閲覧後にブラウザの「戻る」でタイムテーブルに戻ると、一番上に戻されるなど、直感的に使いにくかった。
※	視聴サイトが重すぎてスマホで見にくかった。
※	スマートフォンで見るときにはやや動作が重いときがありましたが、それ以外は使いやすかったです。
※	ポスター発表一覧の発表タイトルの文字色が見にくかった。(https://mbsj.gakkai.online/poster_presentations)各発表のページに飛んだ際に、要旨を見るためにもうワンクリック必要なのは手間に感じた。
※	視聴予定の公演をウェブ上に保存できるシステムが欲しかった。Googleカレンダーに保存はできたが、時間がかかるため。また、ブラウザバックに読み取り時間がかかった。詳細を見る際に、新規のブラウザの立ち上げなどあれば嬉しいと思
※	シンポジウム等と、企業セミナーの入りが異なっており、わかりにくかった。
※	PDF日程表で探した希望のセッションを、視聴サイトで探すまで時間がかかった。日程表と縦横を合わせたり、検索(できたのかもしれませんが)がしやすいようになると見やすいかと思いました。
※	後日のオンデマンド配信がないことがとても残念です。オンラインでの学会参加をご準備いただいたなら、オンデマンド配信も行っていただけるとありがたかったです。特に分子生物学会は並列セッションが多いため、視聴したいセッション全てをカバーすることが困難に感じます。
※	今回の時間割表システムは使いづらいと思います。
※	視聴サイトの動作が重く、プログラムが表示されにくいことが何度もありました。講演のスケジュールはiCalやgoogleカレンダーに同期する仕組みになっていたが、視聴サイト内でのスケジュール一覧作成機能もあるとより使いやすくと感じました。AGRI SMILE社Online ConfはConfitに比べて使いにくいと感じました。
※	発表用のツールとしてポインターを使えるようにするべきと思う。
※	昨年の完全オンライン学会の時にあった、演題を選んで抄録集を作成する機能がなく、見逃した演題が多くなってしまっ
※	簡単にお気に入り登録やzoomアドレスのクリックができる仕組みがあればよりよかったです。
※	これから類似の開催形式が重なっても、毎年参加できるわけではないので、同様のサポートがありつづけて欲しい。
※	これまで参加したオンライン学会の中で、Webサイトが最も使いづかった。昨年の方が良かった。講演のZoomのシステムは良かった。
※	ポスターのディスカッサの時間や視聴仕方がわかりにくい
※	オール発表の各演題のzoomリンクページにも開始時間が記載されていると尚よかった。
※	ポスターセッションでは発表時間に交流会場にずっと待っていたらいいのかがわからなかった。pdfを閲覧している人が誰なのかわかるのは大変良かった。発表者から誘える機能が良かった。使い方は説明書や事前のテスト接続で十分
※	お気に入り登録したもののタイムスケジュールがばつと確認できるとよいと思いました。
※	演者・演題の検索がわかりにくい。また検索した結果を自分のタイムスケジュールに反映するシステムがないため使いにく
※	画面を縮小するとプログラムの左端のみしか見えなかったのは不便だった。
※	今回の年会のサイトは非常に使いづらい。これまでの年会で提供されていたアプリを使用したかった。
※	スマホで画面を見る際、プログラムの演題がリストの中から見にくい、選びにくかった。
※	オンラインでのポスターの検索はわかりにくかった。
※	スケジュール管理やアラートがない点、すぐにAbstractを見れないなどオンラインソフトが相当ひどく使いにくいと思った。
※	視聴サイト内で、会場が変わるたびに毎回Zoomに入りなおすのは少し手間に感じた。
※	タイムテーブル上にライブ配信サイトを埋め込み式にするなど、ここかしこでひねりが足りないと感じました。ポスタータイムテーブルはうまくワークしていませんでした。今だに偶数番号の演題がどこにあったのか不明です。ポスター演題だけはリストpdfをプリントアウトして、必要に応じて演題を検索して使用しました。pacificoのwi-fiは使えず、ポータブルwi-fiの貸し出しもありましたが、直ぐに返さないといけなくて移動もあったので使い勝手が悪かったです。web上でポスターを閲覧した人の足跡を残すようなシステムも欲しいです。
※	プログラムが見にくかった。探しにくかった。
※	解像度の足りないポスターが多かったのも、事前にもう少し資料があった方がよいかと思いました。
※	アブストラクトの検索ができないのが不便でした。
※	視聴プログラムであるポスター発表を見てから戻った時、いつもタイムテーブルの左上に戻ってしまい不便だった。
※	オンデマンドがあるほうが助かります
※	今回の学会はオンラインのみでオンデマンドではないとききました。オンデマンドも実施してほしいです。
※	共著者としてのエントリーが検索しにくかった。オンラインのポスター発表がわかりにくい。日数的に少し前もっての予行演習日程を過ぎたあとは、本番まで試す機会がない。パスワードを変更できるようにしてほしい。
※	・Googleカレンダー等へのスケジュールエクスポートも良いのですが、視聴サイト上でスケジュール管理ができると、より視聴しやすかったかと思います。また、各演題ページに飛ばないと、お気に入り済みか否か確認できなかったのは使いにくかったです。・Zoomを立ち上げた際に、メールアドレスの入力が必要になる場合、ならない場合があったのが不思議でした。
※	視聴サイトの使い勝手は、生化学会の方がよかった。特にポスター発表一覧の使い勝手が悪かった。検索機能も不十分
※	マウスオーバーで表示内容が変わる仕様が、ざっと一覧したいときに妨げになった。
※	異なるセッションを登録した際に、重なる場合があるが(結構あった)一覧表示ができなかったため、どれを聞くか判断する際に困った。もしかしらできたかも知れませんが、私にはどのようにしたらできるのかわかりませんでした。登録した発表の要旨も、一括でダウンロードでなかったように思います。
※	ポスターが重く表示できない、または動作が止まってしまうものが多くあった。ファイルサイズはもっと小さく規定したほうがよいかもしれない。
※	全体的に機能は良かったものの、お気に入り登録した発表について、お気に入り画面一覧を見た際にそれが何日の何時、何チャンネルでの発表なのかわかりにくく、聴講計画を考えるのが難しかったです。同じく、各発表をクリックした際の画面にも時間が表示されていなかったと思います。タイムテーブルで確認しました。
※	参加していないので良く知りません
※	参加していません。冊子がないので見ていませんでした。
※	例年あった紙の印刷物(本)が欲しい。タブレット、またはパソコンでは見にくい場合もある。

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	できればiOSからの利用も想定してほしかった(スクロールがほとんどできず固まった)
※	ポスターを一度みて戻ると最初の画面に戻って非常に使いにくいサイトであった。
※	視聴サイトがとにかく使いづらく、不便だった。
※	ポスター発表用のウェブサービスは、Macintosh使用者だとChromeでなければうまく動かないようだった。問合せには回答いただいたので、サポートは適切であった。昨年のようにZoomで行わなかった理由は分からないが、Zoomの方が使い慣れていたのでは、多少戸惑うことがあった。
※	オンサイトでのネット環境が貧弱すぎて、オンサイト・オンラインでもポスターを見るのが困難であった。また、アプリに使い勝手も悪く、改善を希望します。
※	オンラインポスターのサイトは少し使い勝手が悪いように感じた。
※	視聴サイト(Online Conf)については、スマートフォン対応をしてほしかった。
※	サポート以前に、感染対策の観点から、ハイブリッドではなく、完全オンラインで行うべきだったと思う。
※	普段問題なく使えるbluetoothのイヤホンが今回の視聴サイトでは接続切れが頻発した。結局PC内蔵のスピーカーを使用するしかなかった。
※	サイトが全体的に動作が重く感じられたので、今後は軽量化を目指してもらえるとより使いやすくなると思う。
※	オンラインプログラムは正直かなり酷かったと思います。・発表ページから会場位置がわからない・発表ページからセッションページに戻れない・参加者一覧で同じ人が2人出る・参加者一覧で発表を検索すると、共著発表がでてこない・ポスター一覧でどれがオンラインでどれがオンサイトなのかわからないなど、使い勝手をちゃんとテストしていると思えない出来でし
※	オンラインテーブルが横に広がりすぎ、検索しづらかった。
※	とにかく使いにくかった。演題や発表者を探すことが困難だった。以前の学会アプリの出来が良かっただけにストレスがた
※	視聴していないのでわかりません。
※	データ登録の仕方や締め切り日の告知方法、参加証の取得の仕方など、手続きの方法が、一貫しておらず、また、お知らせもバラバラに来て、大変わかりにくく逆に驚きました。
※	ビデオ体験では、当日どのように対応すべきか質問したがわからないと言われた。
※	視聴サイトのタイムテーブルが重かった。人数が多いとレスポンスが悪い。現地で見逃したセッション、現地、オンラインともに同時に行われていて参加できなかったセッションを聞くための見逃し配信を行ってほしかった。
※	口頭発表のプログラムが、Zoomとリンクしていなかったため、わかりにくかった
※	アプリがいい
※	HP上で毎回パスワード、IDの入力を求められるので不便だった
※	座長をしていると、セッションの進行に集中するので、トラブルの状況が運営事務局とリアルタイムで共有しづらい
※	ケータイで非常に使いにくい。検索機能がひどい。今までのアプリが良かった。zoomのURLを付けるだけでいいのでは？onlineポスター発表はディスカッサーが対象者全員を周り、ディスカッサーが聞いている発表がわかるようにしてほしい(オンラインでのポスター視聴者を増やすように)。
※	オンサイトだったので特に感想はない
※	オンライン視聴は利用していない
※	現地だったが忙しく自分の発表しか行けなかったため、回答できず。すみません。
※	シンポジウムやワークショップをオンラインで視聴することに問題はなく良かったと思う。その反面、ポスターのハイブリッドはうまくいっているとは言い難かった。
※	不参加です。
※	オンラインは見えていない。
※	現地発表のみで十分
※	参加していないので、これについては何ともいえません。
※	ポスター発表以外に関しては、視聴サイトはとも使えやすかった。
※	視聴サイトに関しては検索が非常に不便であり、ポスターの閲覧に関しても改善の余地が大きい。昨今の事情からオンラインとオフラインの二元化は良い方向だと思うので、閲覧サイトのユーザービリティの改善を期待したい。
※	視聴サイトの導線が悪く、ページを行ったり来たりする必要があり、その度の読み込みにストレスを感じた。パソコンからはそれなりに閲覧できたが、現地からスマホ等でアクセスしたい場合、使い勝手が悪く現地参加の際の演題確認に苦労し
※	オフラインとオンラインの両方に参加するのは繁雑で面倒。
※	アプリがあるとスケジュール管理がしやすいです。
※	ポスターは見づらく感じた。
※	特に無
※	オンラインは参加しなかったので分かりません。
※	年会の視聴サイトに、自分が参加したい発表を時系列順に並べて表示する「予定表」的な機能が必要だった。今回はプログラム冊子が無いため、オンライン視聴サイトは十分に準備されるべきだった。オンライン視聴サイトは十分に準備されていないと感じた。
※	視聴サイトはこれまでのWEBアプリなどと比較してかなり使いづらく、不便であった。冊子もない、サイトもまともに使えない(使いづらくてなくて一緒)ということから、プログラムも要旨もほとんどわからない状態で参加していた。
※	オンラインのシステムが全体的に使いにくかった。
※	ポスター発表は全例オンラインで見れるようにしてほしい。pdfをあげるだけなので可能なはず。
※	視聴サイトでは、要旨のキーワード検索などができず、聴きたい発表にたどり着きにくい、ポスターのページが重くて時間がかかる、などの問題があった。
※	ブックマーク機能があると嬉しい(あったのかもかもしれませんが使い方が分かりませんでした)。
※	音声付きの資料を必須にした方が良いのではないかと感じました。
※	事前のアナウンスがなかったため、どうやってやるのか不安でしたが、簡単に対応できて良かったです。
※	学会のWebサイトをみて、学会後しかすぐにポスターデータが削除されると思っていたが、実際は会期後の土日(12/4-5)もデータは削除されておらず、見られる状態であった。学会の意義を踏まえると、すぐに削除すべきであり、非常に残念で

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	昨年までのシステムと比較して、「お気に入り」にしたプログラムの扱いが小さくなり、タイムテーブル上に表示されない、お気に入り一覧が日程別にソートできないなどの不満は感じた。
※	現地の会場で、途中で別セッションに移動したところ、部屋に入らず、廊下でオンライン視聴を勧められました。運営の方が新たにWi-Fiを用意してくださり、なんとか見ることができました。次回やるときには、たくさんWi-Fiを用意しておくといいか
※	使用していない
※	検索の入力の際の反応が遅すぎる
※	ポスター発表中にオンラインの方を見ることはできないため、誰がポスターを閲覧しに来てくれたのかよく分からなかった。
※	サイト自体はよかったが、プログラムの冊子(タイトルだけでも)があったほうがよかった。
※	ポスター発表のビデオ通話機能は、Macの場合、最新版のsafariかChromeでないと使えなかったのが不便だった。最新版のsafariに変えるにはOSごとアップデートしなければならぬため利用できなかった。オンライン視聴時、一部のセッションでspeakerの映像が発表スライドと重なって表示されていたためスライドが観られないというトラブルがあったが、zoomのchat機能が参加者には許可されていなかったため指摘のしようがなかった。座長の一人はオンライン参加とするなど、チェックが機能する仕組みが欲しかった。
※	タイムテーブルが見にくかったです。
※	会場のWi-Fiの増設を希望
※	意見交流場について、事前の動作チェックの時は何の問題もなかったが発表当日はサイトが重く、ページの読み込みに都度時間がかかった。ビデオ通話機能も、途中映像が固まったり音が聞こえなかったり、不具合が発生した。
※	オンラインのサイトは、重くスムーズにみることができなかった。また、プログラムや要旨のキーワード検索がうまく機能していないようにおもえた。10数年前の検索機能のようだった。
※	視聴サイトは演題を見るとタイムテーブルの1番上に戻ってしまい、下の方に記載してある人の演題は見るまで非常に苦労
※	ポスターセッションのサイトは、応答が遅くストレスを感じました。
※	ウェブサイト自体が使いにくかった。特に、検索機能が貧弱(アブストラクト全文の検索ができない、複数条件検索ができない)、スケジュールを作成する機能がサイト内になく、いちいち使い方のポップアップが出てきてしまう、など。
※	発表の方法等に関して早めにご連絡頂き、しっかり準備することができました。ありがとうございました。また、体験会も開催して頂いたのがとても良かったです。
※	視聴サイトONLINE CONFは大変使いづらかった。理由としては、1)重い、2)ポスター発表時に画面共有ができない、3)ポスターpdfの解像度が低い、4)自分用のタイムテーブルが作れない、などがあげられる。
※	これまで分子生物学会年会ごとに配布していた演題検索、スケジュール作成アプリを拡張して演題視聴、ポスター視聴が可能なプラットフォームとなっていることが望ましいと感じた。今年会ではここが一気に今世紀初頭まで退化してしまった。10年前ならいざ知らず、現代においてスマホ表示に最適化できていない学会サイトというのは時代錯誤である。
※	オンサイト参加なので視聴はポスターを見るくらいですが特にトラブルは無し。ポスターの登録も問題なし
※	タイムテーブルのwebページが重く、スマートフォンでは操作しにくかった。また、お気に入り登録した演題を時間帯ごとに並べられたら、より便利だったと思います。口頭発表はオンライン、オンサイト関係なく視聴・質疑応答しやすかったと思いますが、ポスター発表に関してはオンラインとオンサイトの交流が困難だと感じました。
※	演題(ポスター)の投稿に関しては非常に分かりやすかったが、参加者として演題を検索するとき非常に不便だった。予算の問題が大きいと思うが、例年のようなスマートフォンアプリもしくはプログラム冊子の配布があっても良いかもしれない。
※	会場がオンラインの発表を視聴しましたが、接続に関しては大きな問題は感じませんでした。ただ、視聴サイトの使い勝手は良くなかった。画面の遷移が遅い・スマホ対応・進行中の講演を一覧で俯瞰しにくいオンライン学会が一般的になるにつれて、もっと良い視聴サイトが出てくるのを期待します。(YouTubeみたいに色々な講演を見れたらいいなあ...)
※	オンライン視聴サイトがとにかく使いにくかった。重い、見にくい、検索しにくい結局、ほぼPDFだけ使用したが、ポスターのプログラムは筆頭著者しか名前が載っておらず検索性が著しく低かった。
※	ポスター演題に移動の都度ポスターがDLされ、要旨を見るのに時間がかかった。視聴サイトは非常に使いやすかったため、維持し、ポスターの点を改善してほしい。
※	ウェブサイトがスケジュールが立てにくく、使いにくかった。
※	現地発表者がオンラインサイトを見に行く事は、時間的にほぼ不可能だと感じた。現地発表の数が減った為に、会場間の移動がなくて良かった。ポスター発表数は今回程度が適切だと感じた。
※	要旨閲覧システムがPC以外だと非常に使いづらい。生化学会大会の要旨閲覧システムが非常に良かったので、そちらを参考にした方がよい
※	シンポジウムのリハーサルはなかったが、希望すれば可能だったのだろうか？ただ、当日ぶっつけだったが運営側がちゃんとサポートしてくれたと思う。しかし、オンラインで会場がどのように見えるのかよくわからず、やりにくくもあった。一方でサイトが重く、サーチがしにくかった。iPhoneで見えていたためでもあるが、PC用レイアウトのため、やたらスクロールしないと現場で演題を探すのが難しかった。アプリにしてもらえるとありがたい。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	オンサイトで発表している場合、発表者はzoomサイトにはログインしていないため(且つ自身のPCを発表デスクに預けているため)、自身の発表に寄せられた質問を、見ることができないのが残念でした。せっかく頂いた質問ですが、座長に取り上げて頂かなかった分は、どのようなものがいくつあったのか全く把握できておらず、お答えすることもできず残念です。その場では厳しくとも、後日どのような質疑が寄せられていたかを教えて頂くことができたかと強く思いました。
※	視聴サイトの出来栄があまりにも悪すぎです。キーワードでの検索ができなかったり、反応が遅かったり、とても使う気にならないものでした。他の学会ではなかったくらいのレベルです。感染状況にかかわらず、ハイブリッド化は今後も進めてほしいですが、アプリのできに大きく左右されますので、よろしく願います。
※	特になし
※	オンライン視聴サイトは使いにくかった。プログラム検索、要旨閲覧など慣れるまでに時間がかかった。サイト内でスケジュール機能が欲しかった。
※	IT活用レベルが過去最低であった
※	不参加

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オンラインの容量が重く、PDFファイルが開きにくかった。また、ポスター発表において、会場にいる人とオンラインで参加している人とディスカッションできるシステムがあれば良いのと思った。
※	使いやすいが、会場で使うと言われると、使わないかなと感じた。
※	自分の要領が悪かったのがあるが、現地発表に力を入れていて、オンラインの方まで手が回らなかった。現地発表でも、オンラインで議論を望んでいただけるとも議論できるようにしたいと思った。
※	今回の「視聴サイト」は使いにくかった。特に会場で、プログラムやポスター内容を再確認したい時に、携帯(スマホ)では使えず、その都度、PCを用いて「視聴サイト」を確認をせざるを得ない状況だった。
※	上述した通りだが、非常に使いにくいサイトで満足に演題を探したりできなかった。オンライン要旨や視聴サイトは非常に使いにくく、アクセスが集中する時間には反応が遅くなり使い物にならなかった。これならまだ以前のアプリの方がマシだった。
※	去年の完全オンラインの時は良かったのに、今回の視聴サイトは重いし使いづらい見づらくてなんでこんなに劣化してしまったのか
※	事前の準備不足を強く感じた。
※	オンサイト参加だったのでほぼ使わなかった。プログラムはサイトだけでなくPDFで配布してもらえたらすごくありがたかったと感じた。
※	キーワードがなかったことから、演題の検索が過去一番役に立たなかった。また、お気に入りに入れても、時系列で並ばないため、意味がなかった。携帯からの視聴ではオンラインポスターが全く見れなかった。
※	サイトが重く、動きが鈍いと感じた。スマートフォンで見ると、よく画面が動かなくなり、見にくいと感じた。
※	プログラムPDFが極めて見づらかったです。
※	参加者としてオンラインは活用していない。
※	現地参加していると視聴サイトを見ている時間はなかった。
※	何を基準にしてこのクソ使いにくいシステムを選んだのか、理解できない。検討不足と言わざるを得ない。年会費を無駄遣いしないでいただきたい。
※	人名でに加えて用語の検索サイトを分かり易い場所に作って欲しい
※	大変良い。
※	現地発表の場合でも、オンライン上の人と質疑応答するためのサポートがあるものだと思っていた。(電子機器を全ポスターに手配するのは難しいが、各自のPCを置くためのサイドテーブル付椅子を置くなど)
※	サイトが見にくすぎた。重すぎた。ポスターは拡大しても画質的に見えない。どこで何がやっているのか検索しづらい。ポスターだけでpdfが150枚あり、印刷版もアプリもないのに、どう現地で調べればいいのか、対応が酷すぎると思いました。
※	オンサイトで参加したので、視聴サイトを(ポスター提出時以外は)見ていない。
※	分子生物学会は規模が大きいので、他の小規模学会ではあまり苦痛に感じなかったサイト閲覧が、今回非常にやりづらく感じた。昨年度のスタイルがあまり記憶にないのだが、要旨が印刷された冊子体の時代を懐かしくまた気軽であったと思
※	・発表者の名前でしか検索できなかったのは課題・キーワード検索や共同発表者名の検索ができると良かった
※	オンライン参加無し
※	サーバーが重いのか、ポスター発表のPDFの解像度が悪かった。
※	web上でのポスター登録が間際になる発表が多く、事前に発表内容を把握して臨む、という目的を達成できなかった。ㄨ切日を学会開催日5日前くらいに設定して欲しかった。
※	演題の検索機能を充実してほしい。
※	PCで使用する分には視聴サイトに不満はないが、スマートフォンではやや見づらい部分があった。
※	当日入室後の音声マイクテストは問題なかったが、実際にビデオ通話が機能せず、また当日のサポートも問い合わせ先が不明瞭で、問題解決できなかった。ディスカッサーが来室しても、音声が届かずポスター発表もディスカッションも行うことができなかった。
※	とにかくオンラインサイトが重くて、使いづらいと感じました。現地での会場探しに苦労しました。二日目から会場の前にセッション紹介が貼られたのは良かった。
※	見ていない。
※	オンラインとオンサイトでの解離が激しく、同様のポスター発表として扱うのは難しいと感じた。
※	学会終了後抄録などを見直し、知見を復習したかったが、学会終了後即サイトが利用できなくなり大変不便に感じた。事前にサイトの利用期間などを強くアナウンスしておくべきである。また、紙での配布も並行して行えば上記の問題が生じなかったと思われる。
※	視聴にトラブルがありましたが、サポートは受けなかったもので、良く分かりません。
※	マニュアルを見ていません。
※	問題なく使えたのですが、少し重たかったです。
※	ポスターが見難かった。視聴サイトは使いやすかった。
※	オンライン開催は会場の混雑に遭遇することがなくとても良いと思います。
※	oralのオンライン視聴にはなんの問題も感じなかったが、最後まで、ポスター発表へのオンライン参加というのがどういうことかわからなかった。
※	視聴サイトは会場内で少しだけ利用したが問題なく使う事ができた。
※	慣れると使いやすかったです。
※	分生年会最初のハイブリッド開催としては、スタッフはよく頑張ってサポートしてくれていたと思う。
※	発表者としてオンラインで受けた質問がトップページに表示されず、気づくのが随分と遅くなった。質問を確認するのも返事を返すのも登録データのところまで行かなければならずわかりにくかった。事前のリハーサルを受けていないので質疑への対応がサポートされていたのかは不明。
※	原因は不明であるが、Bluetoothのイヤホンを使用できなかったのは不便を感じた。
※	現地参加したのでオンライン視聴の準備を全くしておらず、ポスターのみオンラインで読み、それに関しては会期中読めたので良かった。
※	プログラムの検索機能がタイトルや発表者に限定されていたため検索から漏れるものが多かった。要旨全体を含めて検索できると嬉しい。

質問14. 年会の視聴サイトや、各種マニュアル・ビデオ通話機能を用いたポスター発表の体験会開催といった事前の対応、当日のトラブル対応など、ハイブリッド年会のオンラインサポート体制についてお聞きします
 <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ワークショップ企画者ですが、当日の発表直前まで海外演者(英国人)のアクセスがなく、リハーサルが行えなかったのですが、現場スタッフの対応で全く問題なく終えることができました。スキルの高い素晴らしい対応にあらためて感謝いたします。
※	視聴サイトは弊社のセキュリティにひっかかってしまい、少し扱いが大変だった。検索がさくさくできなかった。
※	オンサイトでポスターを発表する際に手持ちのパソコンやタブレットで補足資料を挙げながらディスカッションするといった行いが、オンライン発表用のツールでできなかったのは残念だった。
※	online confが重く、あまり使い易くなかった。来年は改善していただきたいです。
※	プログラムを一覧して、一日の予定(どのセッションに行くか、どの話を聞くか)を立てるのが不便に感じた。でも、オンラインのシンポジウムやワークショップは会場の移動が楽だし、立ち見や部屋に入れられないなどの問題もないので、悪くないと思っ

質問15. 年会オンライン視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きます <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	検索機能は使いづらい。途中で使うのをやめた。
※	プログラム検索がわかりづらい(いまだにどこに要旨があるかわからない。)
※	オンライン少しごちゃごちゃついていてみづらい入りづらかった。
※	Online Confの会議室入室の際、通常のin-personでの演者との会話と比較して、敷居が高く感じる。
※	少し本題とはズレるが、1日目のランチタイムセミナーで使用していた、リアルタイムの双方向コミュニケーションサービスがとても良かった。議論よりも対話が目的である場においては、かなり有用に感じた。
※	なんとか使えたが、使いにくさがあった
※	プログラム検索機能が少し使いにくかった。
※	Zoomはほとんどは聞けたので、許容範囲だ。時に音声の不調や止まるなどあったがオンラインならある程度は仕方なく、他の学会に比べると良い方だったと思う。
※	オンラインタイムテーブルのオーラル発表の項目で、発表者の分野が見えるようにしていただけると興味のある公園を探しやすくなると思いました(今回は講演者の名前にカーソルを合わせてスクロールしないと分野まで見られませんでした)。また、講演者の氏名や演題名、要旨は英語だけでなく日本語もあるとわかりやすいのではないかと個人的に思いました。ご検討のほどよろしくお願い致します。
※	技術的に可能であれば、Zoomでも部屋から部屋へ簡単に移動できるとより便利だと思いました。
※	とにかく使いづらい。
※	視聴サイトから、すぐ発表の要旨閲覧には飛ばず、全体の要旨のみしか見られず、二つのサイトを確認しなくてはいけなくて、見にくかった。せめてプログラムは、視聴サイトのタイムテーブルに乗せて欲しかった。
※	オンラインの要旨検索システム・スケジュール管理などが極めて使いにくかったです。あまりの使いにくさのため、興味のある演題を探すことを諦めました。検索がオーラルとポスターで完全に区別されており面倒くさい、そもそも要旨内を検索できない、みたい演題を一括してスケジュール登録できないなど、何故このようなシステムにしたのか疑問です。以前の分生アプリのシステムがとても使いやすかっただけに残念に思います。このようなシステムであることが事前にわかっていたら今回の年会には参加しませんでした。
※	検索してお気に入り登録できるのは良いが、それを日付順、発表時間順などでソートしなおせる機能があると、なお良いと思う。また、プログラムにマークできる機能があるとよい。
※	コメントに返事が来て討論できたので良かった。検索結果を出力できたらもっと良かった。
※	参加していないので良く解りません
※	参加していません。冊子がなかったので見ていませんでした。
※	ない。総じて、クオリティが低かった。
※	かなりダメだった
※	ポスターセッションをオンラインで視聴する方法がわからず視聴できなかった。
※	特に無し
※	視聴サイトの発表資料PDFに加えショートトーク動画も事前に登録できる機能、視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能については非常に使いづらい。例年のアプリのほうがまだ良かった。
※	重すぎる。不便すぎる。
※	ない
※	onlineconfは使いづらかったです。
※	視聴サイトのプログラムや要旨検索機能が使いにくく、非常に困難を感じました。
※	オンラインの視聴サイトの使いづらさが最悪だった。
※	Online Confがとにかく使いづらかった。動作が重く、正常に画面が表示されないことが何度もあり、検索結果の表示も不安定であった(iPad使用)。
※	受信側と発信側のどちらに問題があるのかは定かではないが、Zoomはしばしば接続不良となってしまう不満があった。
※	特になし
※	視聴していないのでわかりません。
※	使っていない
※	視聴サイトは使いこなせなかった
※	文字が薄い(背景に同化してしまっている)部分がありわかりにくかった。また非常に重くページの移動のたびにフリーズした。オンラインの視聴では音声途切れていた。お気に入りにした発表の時間が来ると通知されるシステム等があれば良い。プログラム検索については、タイトルだけでは興味のある発表に辿り着けないものも多々あったので、キーワードやアブストラクトの検索もできると良い。
※	プログラム検索に機能不足があった。検索ワードで出てくるはずの発表が出てこないなど。要旨、題名、英語、日本語すべてひとまとめにしたものに対して高度な検索ができるようにしてほしい。
※	とくになし
※	色々な機能が取り入れられていたが、それらに対する説明やサポートが足りなく、うまく使いこなせなかった。若手の発表者も、よく分からずに苦労していたようである。
※	オンサイトだったので特に感想はない
※	ほぼない。
※	オンライン視聴は利用していない
※	要旨に付箋などの機能をつけたら良かった。発表者と関連がある発表の検索がしにくかった。
※	視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能が使いにくかったので改善してほしい。希望の演題の情報を得るのに手間、時間がかかった。
※	現地だったが忙しく自分の発表しか行けなかったため、回答できず。すみません。
※	不参加です。
※	オンラインは見えていない。
※	プログラム閲覧機能が使いづらかった。
※	当日は全く使わなかった
※	これについても、参加していないので、何ともいえません。
※	なし

質問15. 年会オンライン視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きます <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	プログラム検索・要旨閲覧機能は最悪だった。
※	今回は不便さの方が目立った
※	とても使いずらかったです
※	特に無
※	プログラム検索・要旨閲覧機能は使いにくかった。
※	オンラインは参加しなかったので分かりません。
※	全般的に使いにくく、よかった点はない。
※	視聴サイトのプログラム検索で、ポスターと口頭発表を分離する理由がよく分かりません。ユーザーが任意でポスターと口頭発表を検索する・しないを選べるべきです。
※	使用しなかった
※	オンラインをあまり使っていない。
※	すべて他の学会のツールなどに劣る。良かった点はひとつもない。
※	無し
※	プログラム検索の際に、要旨の内容まで検索してくれないのが不便に感じた
※	今回の視聴システムは非常に使いにくかった。特に検索システムはほとんどワークしていなかった。
※	現地にいたためオンラインに参加していない
※	視聴サイトは兎に角わかりにくく使いにくかった。あれではダメだと思った。
※	コメント機能はほとんど機能していない。
※	要旨は講演タイトルと同じページに表示してほしい(発表ごとにページ遷移するのがわずらわしい)
※	使用していない
※	Zoom自体は安定していて良かった。視聴サイトは要旨を見るのにリンクを辿らないといけないのが不便だった。
※	1. 視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能が他学会に比較して、ひどすぎた。2. ハイブリッドで抄録集がなくなったのは仕方ないとして、WebでPDF媒体を見つけるのは極めて難しく、不親切極まりない。せめて学会員には、HPで配布できるようにすべきである。
※	特になし
※	タイムシフト再生や倍速再生など、オンライン参加ならではの視聴の仕方にも対処できればさらによい。
※	便利だと思うがもう少し軽いとよかった。検索プログラムは改善の余地あり
※	特になし
※	特に口頭発表について視聴サイトの検索が十分機能せず、主に要旨・プログラムのPDFを閲覧していた。
※	オンラインツールは使い勝手が良くなかった現地参加したので講演は視聴しなかったが、ポスターの表示が重すぎて検索性も悪く見る気がなくなった。
※	事前にポスターを見られる点は良かった。
※	もっと軽いアプリがあるとありがたいと思う。
※	大会に参加していないのでわからない。
※	上記に書いたように、視聴サイト全体の構成も反応性も悪く、改善を望みます。
※	プログラム検索・要旨閲覧がやや使いにくかった。
※	特になし
※	オンライン視聴サイトで、お気に入りした発表をリストとして表示できない点が、非常に使いにくかった。
※	Zoomによるハイブリッド形式のオーラルプレゼンテーションはとても良かった。音声もクリアに聞こえた。会場間の移動や席確保に労力を割かなく済むため、現地会場にいながら、会場外でスマホで視聴している時間が多かった。ポスター会場などにもっと椅子席を置いて欲しかった。
※	オンサイトで参加すると、オンラインの機能はほとんど使う機会がなかった。
※	現地参加のみで活用しなかった
※	表示がおそかった。
※	不参加
※	なし
※	サイトが重た過ぎてプログラムの閲覧に手間取った。自分の発表をお気に入り登録してくれている人の数が知りたかった。自分宛の質問が来ている通知がメールで送られてきたのに、視聴サイトではその質問を確認できなかった。
※	視聴サイトは使いにくかった。登録演題(ポスター)は速やかに見れなくするべきだと思う。3日までの公開となっていたはずだが、4日も視聴できる状況であり、自分で白紙のスライドへ入れ替えを行った。情報漏洩の点からもオンラインでのポスターには限界を感じる。
※	演題と参加者歯科検索できない機能はむしろいらぬ。そうと知らず検索してしまって、時間の無駄。
※	使っていません。
※	何も良くなかった。
※	会場参加ではオンライン質問の様子があまりわからなかったので、プロジェクターにも映してほしい。
※	使っていない。
※	現地参加していると視聴サイトを見ている時間はなかった。。
※	Confitについて、スマホ(iPhone)で演題検索する時、なぜか文字入力に非常に時間がかかりストレスでした。
※	いずれも使用していない。視聴サイトの検索機能はあまり良くなかった。
※	年会運営側ではなく、Online Confitシステムそのものに不満を多く感じた。
※	よかったところはないです。
※	良かったものがない
※	オンサイトで参加したので、視聴サイトを(ポスター提出時以外は)見ていない。
※	ポスター番号が飛び飛びになっていて、気になる発表の要旨を探すためには発表者名検索をしないと発見できない事例が散見された。ポスターからオーラルに採用されたからだろうか、とても探しにくかった。
※	プログラムや要旨の閲覧に関しては、以前のアプリ形式が使いやすかったです。

質問15. 年会オンライン視聴のためのツールのうち、よかったと思うものについてお聞きます <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	視聴サイトの検索機能が、以前のアプリケーションよりよくなかった。前のアプリに戻してほしい。スケジュールの管理も前のほうがよかった。現地で参加しているとオンラインのツールは使いづらくあまり使用しなかった。一覧になっていたPDFで演題やスケジュールを確認していた。視聴サイトには、富澤のポスターが一覧にのっておらず、検索しないと要旨にたどりつけなかった。また発表時間も周知されていなかったのも、あまり人も来なかったのも、残念。
※	一応チェックは入れてあるが、これはあくまでも「こういうツールはあると良いよね」という意味合いで、今回の年会で用いられたサイトにはたくさん問題があったと思います。
※	使用実績無し
※	お気に入りリスト作成機能がなかったと思うので、あったら良かった。スマホでもPC版を閲覧することになり、見にくかった。
※	無い
※	特になし
※	ワークショップの一般採択者としてポスター発表を義務付けられたが、ポスター一覧にも演題が表示されていない(該当番号は飛ばされていた)上オーラルのページからのリンクもなく、検索しないと見つけられない状態だった発表させておいて、わざわざ見つけられなくすることにどんな意図があったのか激しく疑問非常に失礼
※	見ていない。
※	ショートトーク動画機能は仕様している方はほぼいなかったと思われる。コメント機能もサイトの利用期間が学会終了後は利用できないことなど明記しておくべきである。また、3日目の講演後コメントを送付することを考慮すれば、利用期間が少し短いと感じた。
※	タイトルに検索用語をなるべく入れるようにするというのは難しい。検索機能は要旨にも対応する必要があると強く感じた。ポスターの閲覧表示が遅く、多くの発表を見ようとするとストレスを感じる。ポスター特有のコミュニケーションのしやすさが、オンラインでは失われているように感じられ少し残念だ。
※	ポスター発表でのビデオ通話時に画面(ポスター)の共有ができないのは決定的に不便であった。コメント機能は時間を問わず質問、回答できるのでよかった。
※	視聴サイトのコメントや質問機能は、ほとんど認知されていなかったように思います。特にオンサイトのみ参加者は、視聴サイトを訪問しないので、認識されていませんでした。
※	サイトをあまりみていないので、該当がない。
※	オンライン視聴しなかったため、評価できない。
※	ONLINE CONFでのポスター閲覧は、レイアウトが少々見づらかったり、ピンチ(iPadで使用しました)に対する挙動がうまくコントロールできず、快適な操作とは言い難い感じを持ちました。
※	よかったと思うものは無かった
※	なし
※	今回オンラインでは特に視聴しなかったものでわからない
※	Zoom Webinarが浸透していて利用に障害は減っている。会場でも小さいスクリーンを見ずにWebinarの画面を見る人がいたと思う。
※	検索機能が死んでいた全然ダメ
※	Online Confは使いにくかった。プログラムを見ただけで見たいものにチェックをして自分が選んだものについてのみプログラムを再編成したり、スケジュールをまとめて表示したり、要旨を確認できる方が良い。いちいちタイトルから要旨を開かないとお気に入り登録もスケジュール登録もできないのは不便。デザイン的にもお気に入りわかりにくかった。また前もってタブレット対応の動作確認をして欲しかった。遠方から行く場合や1日中持ち歩くことを考えるとPCを持ち歩く必要があるのか無いのかわからないのは結構負担が大きい。
※	視聴サイトはほぼ使いませんでした。申し訳ありません。
※	全体的に使いにくかった。特にスケジュール管理ができなくなったことに非常に不満を感じた。
※	オンサイトで参加していて、オンライン視聴は行っていません。
※	あ

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	Web siteからの日程表やプログラムが分かりやすくダウンロード出来るなら良いが、バラバラで分かりにくかった。
※	視聴サイトの検索機能がスマホでは重すぎた。あれが快適なら冊子がなくても問題なかった。
※	紙資源の削減につながり冊子等の廃止は望ましい
※	無くても問題ないが、アプリがあるとベター。
※	プログラム閲覧サイトが非常にみにくかったので苦労しました。冊子は必ずしも必要とは思いませんが、もう少し可読性を高めて欲しいです。
※	オンラインやPDFに換えられるが、今回のものは使い勝手が悪かった。
※	年会ホームページのプログラム簡易版PDFは便利だった。慣れれば使いやすいのかもしれないが、視聴サイトのプログラムは一覧性に乏しく、目当ての講演を探すのに苦労した。
※	特にポスター発表において、興味のある演題を見つけることが困難だった。要旨をPDF化するのであれば、自身の研究内容に対して自由に複数のタグを設定できるようにすることなどによって、検索を容易にする仕組みも作れるのではと思っ
※	全部の演題を見ているので一覧できる冊子体版が欲しい。不正対策なら参加者の名前が入るようにしてダウンロードされるのはどうか。検索用ではなく、冊子をPDF化したものがあれば、郵送されなくてもよい。
※	例年になく参加費が高い。特別な事情があるのか、趣味的無駄な要素も多い印象、それらを排除し十分検討すべき。
※	とにかくポスター発表の検索の動作が重く使い勝手がよくなかったと思います。また、演題登録時に発表者にキーワードを複数書いてもらい、キーワードで演題を検索できるようにするなどができるとより探しやすいかと思ひます。
※	一度ざっと見て興味ある演題に印をつけたり、後からより詳しく読もうとするときに、しおりなどで目印ができるとうい。紙だと書き込んだりおったりできて便利だが、全部持ち歩くには重いので、基本的にはオンラインでよいです。
※	全発表を1冊に載せた年会プログラムの冊子はある方が便利だったが、コスト削減のためには今後もオンライン閲覧にする方がよいのかもしれない。
※	抄録pdfへのアクセスが悪い。アクセスボタンからすぐpdfを表示して欲しい。会報はpdfやホームページでの参照で良い。その方が効率的で助かる。
※	アプリは便利だったので、コロナ禍が終わり、学会に活気と予算が復活したら、アプリも再度構築してほしい。本学会の視聴サイトのプログラムに不満はありません。
※	オンラインでは冊子は必要を感じませんでした。オンサイトは冊子があると便利に思ひます。
※	いまやデジタル化ペーパーレスは、常識となっている。今後も、本年度同様にペーパーレスが望ましいと考える。当方の保管スペースを考えてもPDF配布を望む。
※	サイト上で見たい発表をあらかじめ登録などできると良かったです
※	感染症の不便さは理解できるが、参加者に参加するための負担をかけることは、せつかくの広い窓口を狭めることになる。恵まれた環境の人だけのための年会ではない。SNSは使わない人もいるため、利用すべきではない。
※	特になし
※	会場で見たいセッションを検索するにはアプリが断然便利でした。
※	学会参加者の検索が若干よくなかった気がします。発表していない方の検索ももう少しやりやすいと良かったと思ひます。
※	PDFのポスター発表者の一覧表が発表者の名前のみ記載されていたため、どこの研究室の発表かわからないことが多かった。要旨集も見にくかった。
※	要旨のキーワード検索ができないのが、不便だった。せめて、演者、要旨の全てが一つに収まったPDFファイルなどを作成してほしい。
※	会報なんて誰も読んでないから廃止で。ゴミが増えるだけ。アプリを取りやめてクソオンライン要旨システムに一本化したのは害悪でしかなかった。
※	視聴予定機能をつけて下さい
※	どこから要旨を見たら良いのかわからなかったけど見れたのでしょうか。要旨を見なくてもタイトルだけわかれば良いと思ひているほうなので、調べる気がしなかったのもありますが。
※	アプリがないこと、自分でチェックした演題だけをまとめたスケジュール管理ができないこと、お気に入りした演題の発表時間が分かりづらく、どのワークショップ内の発表であるかが非常にわかりにくかったことなど、今年の年会はスケジュールの把握が困難を極めました。
※	検索で容易にその演者のセッションやポスターにたどり着けるのであれば、冊子はなくてもよいと思う(あったほうが便利ではあるが)。その分の予算をほかにも割くというのもありだと思ひます。
※	上記項目3. 4. にチェックをしましたが、良いアプリがあれば、全てPDF版でも良いと思ひます。何をどうすれば、経費をどれだけ削減できるのか、が明確になれば、参加者の理解も得やすいと思ひます。ただ、今回のオンライン参加した身では年会費が高いと感じました。
※	口頭発表に関しては、冊子版が無いことに問題は感じなかった。ポスター発表に関しては、視聴サイトのプログラムの一覧性・操作性に不便を感じた。
※	当初、発表を登録すれば後で騙取できるだろうと思ひて登録していきましたが、何にもできないことがわかってから、プログラム簡易版PDFを見た。登録した後に騙取できる機能をつけて欲しい。結局プログラム簡易版PDFからコピーで自分のプログラムを作った。
※	要旨のキーワード検索ができないのは非常に不便
※	オンラインで参加したので、プログラムは冊子ではなくても大丈夫であった。
※	参加していないので良く解りません
※	プログラムのサイトが充分に良いものであればそれで良いが、今回のものは最低に近かった。見にくいし、レスポンスが悪いし、検索も機能しないときがあった。
※	例年や他学会に比べても、今回の検索サイトがダメすぎて、アプリやプログラムの必要性を感じた。本来はなくてもいいかもだが・・。

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	視聴サイトがもう少しinformativeであれば紙は不要な気がするが、情報不足な上に必要な時に繋がりにくいことなどあって、今回のシステムでは、紙があった方がよかったと感じる
※	会場に入る前に、日程表のpdfファイルがダウンロードできればよかったなと思いました。視聴サイトだけでは、会期中の全日程を見通すのが難しかったです。
※	pdfプログラムは簡易版ではなく、完全版が欲しい
※	冊子体はなくても構いませんが、プログラム検索・要旨pdf保存機能を充実させていただきたいです。
※	オンラインでのプログラムの検索やお気に入り登録が不便で使いにくかった。
※	ハードの性能によるものかもしれませんが、プログラム検索・要旨閲覧が重すぎて十分な検索が行えなかった。よって、学会のMyスケジュールを決めるのが難しかった。オフラインでプログラム閲覧できる年会アプリが、今回は備えられなくて大変
※	簡易版PDFとオンラインサイトで良いが、それにしても上述の通りオンラインサイトが酷かった。
※	視聴サイトと要旨集をOnline Conf等の1つのシステムにまとめること自体は良いが、もっと使いやすく改善して欲しい。
※	紙媒体は必ずしも必要ではないが、視聴サイトが使いにくかった。
※	視聴サイトが使いこなせなかったことでもあります。以前のアプリで興味のあるセッション・トークをマイスケジュールとして登録できるのはとても便利だったので再導入してほしいです
※	希望の講演を調べるのに今回のホームページは非常に使いづらかったです。
※	紙媒体は要らない(荷物になる)。しかしアプリはないと不便(パソコンを持参しない人も多い)。とくに今年のオンラインUIはアプリ向けのものであったと思う。
※	全部オンラインで構わないが、交通費等の研究費支出のため、発表者のページには発表日時などを入れて欲しい。
※	参加登録しないとプログラムの詳細が確認できない、検索できないのはおかしい。なんのための年会費ですか? 今大会は非常に不満でした。プログラム、著者一覧を見て当日参加するかどうかを決めたかったが、Webで確認したポスターのプログラムは著者1名しか載っていない。特定の研究者が発表するシンポジウムやワークショップにのみに事務局の力が入っており、ポスター発表をあまりにないがしろにしていると思う。国際化を謳っているのに、全くあり得ない対応かと思えます。これまでの分子生物学会は、裾野が非常に広いと思っていたが、最近では、そうでもないようです。
※	不参加です。
※	なくてもよい
※	ブックマークが付けられないので気になった演題を見て回るのに苦労した。
※	ポケット版は欲しい。偉い先生方のインタビューの小冊子があったが、代わりにポケット版のプログラム集があった方が良く今回、アプリの有用性を再確認しました。是非、次回は復活してくれたら嬉しいです。参加費が少し高くなっても、必用だと感じました。
※	オンラインで見れるのは良いが、日程表、タイムテーブル、セッション・ポスターの内容を示すPDFファイルが、ホームページ内のそれぞれのページに分かれてしまっていて、探すのに毎回ページを切り替える煩雑さがあった。学会プログラムのPDFファイルを一括でダウンロード出来る様にして欲しい。
※	とにかくプログラム冊子がないことが本会の最大の欠点だと感じました。特に高齢者には不親切です。
※	発表要旨のオンライン化は賛成ですが、今回のウェブサイトは非常に使いにくかったです。例えば、スケジュール管理が他のカレンダーを使うこと、発表要旨を表示させるまでにいくつもの工程があること、など。個人的にはconfitの方が使いやすいと思いました。
※	プログラム検索・要旨閲覧機能がオンサイトでは役に立たなかった。
※	電子版に移行すること自体は理解でき、良いことだと思います。ただ、電子版だけで学会のプログラムを発行し、学会視聴サイトを運営するのだったら、使いやすい・見やすいWebサイトをもう少し追及するべきだと思います。今回のオンライン視聴サイトは、プロタイプだと理解していますので、今後に向けた改良を楽しみにしています。
※	プログラムがどこにあるのかわからない、という声が多数聞かれた。抄録を探しにくく、事前に目を通す気が無くなった。
※	充実したアプリがあるならば冊子がなくてもよいが、今回はまともなアプリもサイトもない、冊子もないとのことで、何もわからない状態だった。
※	紙は廃止の方向でよいと思うが、今回はオンラインのシステムが使いにくかったため、ポケット版プログラムやアプリがないことが不便だった。
※	とにかくウェブサイトが使いにくかった
※	会場でのネット環境が不十分なのにプログラム冊子配付がなかったため、見たいプログラムを探せなかった。このような体制なら次回の分子生物学会年会は無駄なので参加しないと思う。
※	SDGsの観点からも紙媒体を減らすのは良い取り組みだと思います。
※	プログラム冊子は以前より不要でアプリがあれば十分と考えていました。今回、アプリも冊子も無かったことで、自身のスケジュール管理を行う上で非常に不便を感じました。可能であれば、少なくともどちらかはあると良いかと思えます。学会会報はPDF等で良いのではないかと思います。
※	プログラム等が日別になっていたりも便利だったが、多くのpdfを行き来する必要になったのは手間だったので、ある程度まとまったpdfも用意しても良いと思う
※	難しい状況の中でオンサイトでも開催して下さったことに大変感謝しております。
※	後で見直しが必要ながあるため、プログラム冊子は必要である。実際に関心なかった分野であっても、しばらくたってから見直す機会がある時に、過去のプログラムを取り出してくることはある。従ってプログラム冊子(有料)という選択肢もあったかと思えます。簡易化や斬新な意見がいつも正しいわけではない。また多数派の意見が良いわけでもないことを、学会会長や学会委員の方々には考慮していただくと嬉しいです。
※	プログラム集が紙でないのは不便ではあるものの納得はできるが、せめてPDF版だけでもあると、他の発表の検索や当日までの準備など、分かりやすくなったと感じている。
※	スマホのアプリは必須である!是非復活して欲しい。
※	今回の対応でどの程度節約できたか不明だが、参加費をもう少し下げて欲しい。

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	なぜONLINE CONFクソシステム一本でいけると思ったのか謎。もしかして分生参加したことない？分生は演題数があまりにも膨大という性質上、参加者が効率的に情報を集めるにはどの演題をみるか事前にスケジュールを立てることは必須。その効率化のためのアプリだったのに。
※	紙媒体はこれからも必要だと思う。
※	プログラムがすごく見にくかった。ポスターなどは、オンサイト、オンラインごとにまとめて欲しかった。
※	不便ではあったが、予算の都合なので納得できる。しかし、肝心のオンラインツールが使いづらく、モバイルデバイスで見るとも全く想定されていない点に不満が残る。
※	ほとんど不便は感じなかったが、どのシンポジウム・ワークショップがどの会場で行われているか、もう少しわかりやすくしてほしい。特に、ポスター会場が、シンポジウム・ワークショップの会場と離れていたため、朝に張りに行くほどの余裕
※	選択肢にあってふと思いついたが、過去に採用されていたアプリは非常に使い勝手が良かったので、今年の年会は参加しづらく感じた。
※	要旨の検索が容易にできるPDF版を作成して欲しい。
※	会報の冊子版程度の量の紙媒体でプログラムの簡易版を配布いただけると助かります。
※	最低だった。
※	Web内で見ただけではなく、まとまった形でのプログラム・予稿集があった方がよい。予稿もWeb上で個別にダウンロードするのではなく、まとまった形でPDFで提供してほしい。
※	今回は、プログラムのアプリと情報が著しく悪かった。演者を検索できない、アブストラクトが見れないなど、学会として致命的だったと思う。
※	要旨のPDFが重すぎるのと、順序(シンポジウムやワークショップ)がよくないため、聴きながら発表者の要旨を見つけることができず、端末によっては途中で落ちることがあった。分割するなどの工夫が
※	お気に入り演題の登録と、スケジュールはアプリのほうが使いやすかった。
※	ONLINE CONFは動作も重いし、文字が切れたりして、使いにくいのでやめてほしい。事前のチェックが不十分だったと思います。プログラム閲覧は紙媒体に完敗しています。
※	会報の冊子版は希望者にものみ配送する形で良いと思う
※	アプリ・冊子がなごに不便は感じなかったが、年会のプログラムサイトの表示がスマホ対応しておらず、現地での検索が非常に困難で使い勝手が悪かった。
※	プログラムは電子版が良いと思うのですが、検索機能が充実しておらず、発表者や演題を探すのに手間がかかりました。できれば、名前やキーワードでの検索機能を希望します。
※	会期終了後に要旨閲覧ができなくなり困っている。一定期間見られるようにするか、要旨のみ学会HPIに移行するか、対策をお願いします。会報は、冊子版であれば目を通すが、PDF版などでは見なくなります。
※	印刷された要旨集や過去にあったアプリがあればそれに越したことはないのですが、経費削減のためとなると仕方ないのかもしれませんが。要旨がPDFでダウンロードできたのは良かった。有用でした。あとは、目次が充実していたり、しおりをつけられたりしたらもっと良いかと思います。ONLINE CONF だけでは要旨閲覧に不十分でした(挙動が遅いので)
※	来年はアプリを復活させてほしいです。
※	年会ホームページが軽く、かつ見やすくなればオンライン版だけで十分に思う
※	紙のプログラムは今後も不要で良いと思うが、アプリでスケジュールが見れないのは非常に使いづらかった。個々のポスターの要旨に発表時間が書かれていなかった。参加費をあげてもアプリは必須にしてほしい。
※	視聴サイトのプログラム検索は非常に不便でした。プログラム集がないのであれば、もう少し見やすいオンライン要旨集にしてください。
※	オンラインで検索することを前提に準備したのかも知れないが、そのわりにはインターネット環境の整備が不十分だったのではないかと？ポスター会場でのインターネット環境は悪かった。
※	今大会のHP版サイトは画面の大きいPCでないと操作が難しい。またカレンダー連携のスケジュール機能は使いにくかった。また無線LANが混雑してつながりにくい時間帯が多かった。オンサイト参加する上では携帯でプログラムを確認できるアプリは必要。併用・代替としてポケット版プログラムもほしかった。
※	アプリがないことに不満これまでで最も参加しにくい学会だった最低の評価をしている
※	子育て世代には朝と夕方以降のセッションへの参加は厳しい。朝と夕方以降のセッションはオンラインに加えて動画を一定期間公開あして欲しかった。オンラインになって帰宅ギリギリまで電車の中で聴けたのはよかったが、それでもまだフォーラムなど開催時刻が遅いと思う。
※	(若者世代ではないので)冊子集に慣れているので、それが無いと不便に感じるけれど、慣れてしまえば、ペーパーレスは、今後の経費節約のためにいいのかもしれない。提案ですが、冊子集の要旨集のPDF版を作ってほしい(希望者はそのまま両面印刷すればプログラム集、容姿集になるので)。
※	上記、Online Confの不便さが改善するならアプリがあった方が良く思う。
※	予算不足が如実に感じられたので数々の不都合は諦めましたが、特に以下の点に不便を感じました。・視聴サイトのプログラム検索・要旨閲覧機能が貧弱で使い物にならなかったこと。・必要な検索を行うにはPDF版では相当な時間がかかること(発表要旨のキーワード検索、共同発表者の検索など)・PDF版要旨集が中華系フォントで非常に読みづらかったこと。
※	プログラム集冊子版やポケットプログラムは、あればそれなりに重宝しますが、なければないで現地では対処できます。ただし、後日調べたり確認したりするための資料が手元に残らないという点ではやはり心細いように思います。一方、これまで使われていたアプリの出来が良かったので、これがないのには大変戸惑い、苦労しました。
※	オンラインツールにスケジュール管理できる機能がほしい。ポケット判プログラムが無くても良いが、pdfをもう少し分かりやすくしてほしい。

質問16. 本年会は、長引くコロナ禍で先の見通しが難しい中、オンサイト開催に基軸を置いたハイブリッド開催の準備を余儀なくされ大きな支出が見込まれる一方、協賛企業の出展が相当数減少しました。そこで本年会では経費節約のため年会プログラム集冊子や年会アプリ、オンサイト会場で配布していたポケット判プログラムを作成しませんでした。またそれに伴い、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	年会で催されている企画にオンサイトで開催する意義があると思われないものが多々あった。また、感染対策は重要であるが、オンサイトで参加する以上は参加者が意識することで、それに付随する特典や企画が本当に必要なものであったかは疑念が残る。年会が今後も開催されるのであれば、学会独自に発表用のアプリケーションやツールを保有しても良いのではないだろうか。また、このようなアンケートを取るのであれば、会費・参加費がどれにどのくらい充てられたのかを開示した方がアンケートに答えやすいと思われる。特に学生会員など運営に携わっていない立場からすると実情が分からな
※	2019年の年会時にはあった「My Schedule」を作成する機能が今回はなかった様なので、復活させて欲しい。
※	今回に限らず、プログラムは電子版でも良いので、完成した形として残すことができるものであって欲しい。これまでの横浜での年会のプログラムが展示されていたが、まとまった形があるからこそ、そのようなことができる。クリック、クリックで希望の項目を呼び出す形式だけでは、一覧もできず、記録にもならない。
※	視聴サイトに入らないとプログラム検索ができないのは不便だった

質問17. 今後の年会の開催形式についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	地方都市では宿泊施設に困ることが多いので、オンサイト会場に地方施設の選択は望ましくないと思う。
※	オンラインも併用した方が遠方の人参加しやすい。
※	オンラインプログラムはブレナリーレクチャーや市民公開講座などごく一部のものに限定し、原則対面にしたほうが、ポスターや企業ブースへの集客度を保てると思う。
※	オンラインの方が参加しやすいのではないかと。特に地方の学生
※	オンラインは、年会後も一定期間のオンデマンド配信してほしい
※	コロナ禍でなかったら、現地集合の方が良いと思いますが。。。
※	ハイブリッド開催の可能性を追求することを提案する。開催都市や会場の候補を見直し、それらの場所や規模に合わせて自由自在に学会の企画を工夫することを提案したい。
※	現地参加しましたが、会場に居られない時間帯でもホテルで視聴できたので、ハイブリッド開催は非常に便利でした。ただ、ハイブリッドはオンサイト・オンラインのみよりも経費がかかると聞いています。
※	やはり現地で実際に研究者同士で交流するという機会は貴重なので、今後もオンサイトで開催があった方が嬉しいと感じる。一方で、(現地までの距離や日程などの都合で)オンサイトで参加が難しい場合にも、オンラインでなら参加の機会を得やすいことも、嬉しいことだと感じる。
※	去年今年とオンラインを経験し、予想外にメリットが多いことがわかった。例えば①出張時間・経費の確保がいらぬ。②国内外を問わず、参加できる。③仕事と並行して参加できる。等々のメリットがある。一方、デメリットとして①論文掲載前データをキャプチャーされる可能性がある。②演者との講演後のやり取りがしにくい。③企業展示でのコミュニケーションができない。④終了後の食事等を通じた交流ができない。などコミュニケーションが難い問題がある。オンラインを中心にし、小規模な会場によるハイブリッドは、経費削減やパシフィコ横浜、神戸ポートピアなど巨大会場以外での開催も可能となる
※	会場に全国から大勢の人が集まっているのに、発表者や、座長までが、電車で1時間程度の移動もしないで、オンラインだけで済ますのは礼を欠くのでは。ハイブリッドでも、座長や発表者は現地に來るべきでは。
※	シンポジウムやワークショップはオンラインで良いですが、オンラインポスター発表は上手くいってないかと思えます。また、シンポ等オンラインにするからには廊下や別室にて座る椅子を増やし、wi-fi完備にし、個々のポスタースペースをもっと広くし、かつiPadを置きながらできる台や椅子があるとか、それなりの準備が必要であったと思えます。
※	原則オンサイト開催でよいと思うが、もしオンラインを取り入れるならば、オンラインでもそれほど支障がないシンポジウムやワークショップなどの口頭発表はオンラインにし、ポスター発表をオンサイトにするなど、発表形式で一律にする。ハイブリッド開催でのオンラインポスター発表は不利に感じる。
※	ハイブリッドにしたことでオンライン参加の人間がオンサイトの発表者の発表を聞けず、直接議論すらできなかった。現地で盛り上がりあってオンラインがおろそかになるのであればオンラインかオンサイトどちらかに絞るべきである。
※	シンポジウムなどはオンデマンドにして欲しいです
※	オンラインは、移動の手間がなく、必要なところを確実に視聴できることがよかった。例年、人気の高い話題は、会場に入ることさえも難しく、視聴を諦めていたのが、オンラインになることで、確実に視聴できたのは、大変ありがたかった。
※	コロナの感染状態に応じて、完全オンサイトにするか、完全オンラインのどちらかにし、ハイブリッド開催にしない方が良い。今回、オンラインの疎外感はずごく強かったです。質問の真意図を話すこともできず(それをQ and Aに書いていたら非常に長くなってしまいます)、ポスターも見てもらえず、またオンサイトのポスター発表の人に話しかけることもできず、と各形式のコストによる。
※	昨年は、今年はオンサイトでできるだろうと思いましたが、地方から大都市に行きづらい現状がありました。来年はオンサイトでできると思うが、確実ではない。したがって、しばらくはオンサイトとオンラインを併用することになると思えます。地方の人間からするとオンラインは旅費、宿泊費、時間がかからないというメリットがあることもお忘れなく。
※	口頭発表は問題ないが、ポスター発表のハイブリッド開催は発表と討議をオンサイトとオンラインで同時にできるようにしないと難しい。
※	ポスターと企業展示はオンサイト、口頭発表はオンラインの方が参加・視聴しやすかった。ポスター発表時間以外にPDFを閲覧できる機能は、議論や理解を深めるうえで役に立ったと思う。
※	オンサイトを充実する以外にないと思う。オンラインは、学生や若い研究者には向かない。
※	オンサイト、オンラインのどちらかにした方が、今回のようにオンラインで年會に参加して損することのないようにして欲しい。
※	ポスター発表は、オンサイトのみが混乱しないと思う。
※	ポスターセッションはオンサイトとオンラインの時間帯を分けてください。
※	基調講演などはオンライン配信も。基本がオンサイト
※	シンポジウムなど海外の人を招待するものはオンラインでやるのがよい。
※	ポスターに関しては、ハイブリッドとすると視聴者が二手にわかれてしまつて発表者の対応がほぼ不可能だと思うので、オンサイトに揃えた方がいいと思えます。WSやシンポのみのオンライン参加については参加料を安くすることも可能かと思いま
※	少なくともポスターはハイブリッドをやめるべきである。
※	日本と世界の状況にもよるが、本学会は規模が大きいので、オンサイト向けだと思う。
※	今回のハイブリッド開催は、うまく運営できれば、オンサイトとオンラインの両方の利点を取り入れた良い開催方式であるように思われた。そのためには、ハード面の環境整備(会場のWi-Fiのcapacity不足の解消)や、事前の各種案内の徹底が必要と思われる。
※	コロナの状況次第です。
※	今回ハイブリッド開催を試みたことは大変素晴らしい。ポスター発表方法に課題が残るが、それでも全体的に良かったと思うし、今後もハイブリッド開催で模索し続けると良いと思う。
※	ポスター発表をハイブリッドにするのはかなり無理があると思った。どちらかに統一するのが良いと思う。シンポジウムなどはオンラインで全く問題ないと思った。広い会場をウロウロして、椅子がない場合には立ったまま聞かなくてはならないオンサイトよりも、常に座れて前の人の頭でスクリーンが隠れることもなく、所要所で調べ物もできるオンラインが圧倒的に楽で理解度が上がったと思う。
※	昨今の事情に加え、予算の観点からもハイブリッド開催が望ましいと思うが、協賛企業などマネタイズの観点からは別の視点も必要だと考えられる。
※	ハイブリッドは厳しい。現地にいとオンラインのポスターなどは見る余裕がない。コロナが終息したら完全オンサイト、終息しなかったら完全オンライン、とした方がよい。

質問17. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表は基本オンサイトとして、オーラルの発表については、オンラインを推奨してはどうだろうか？時差の問題はさておき、海外からの参加もしやすくなると思うので。
※	オンライン開催を含める場合は、ネットワークやサーバーを(今回よりも)強いものにしてもらいたいと思います。
※	オンラインに資料をアップロードすることを拒む発表者がいることは事実なので、オンラインでは結局ポスターや資料が見れていない。やる意味がない。
※	オンデマンドで聴けるようにしてほしい。
※	海外研究者の招待講演についてはオンラインを活用する意義はある
※	コロナの流行の状況に応じて、開催形式が変化すれば良い。全くコロナの不安が無くなれば、オンサイトを基本とするのが
※	オーラルをオンラインで視聴できるのはとても便利だった一方、ポスターはオンラインだといまいちだと感じました。
※	口頭発表はオンライン、ポスター発表はオンサイトのより形式でもいいかもしれません。
※	完全オンラインか、オンサイトどちらかにするべきだと考えられる。
※	現地に来られない遠隔地の人(海外演者も含め)が参加できるようにZoom参加可、また同じ時間帯のセッションを後から見られるように一定期間録画視聴化にするのは重要だと思うのでハイブリッドを希望するが、基本的にはオンサイトメインの設計でよいのではないと思う。特にポスターはオンラインでやる意義を見出しにくい。オンサイト参加者のみでもかなりの数のポスターが集まっていた。例えばオンライン参加者(発表者除く)が口頭発表に質問したい場合は質問時間中に行わなくてもオンラインシステム上で後からやればよいのではないか。オンラインで質問出ていることに気が回っていないチェ
※	本来なら完全オンサイトだが、一部ならオンラインでも良い。但し、オンラインポスターを会場で見られるようにスマホ対応
※	ポスター発表は原則現地の方が発表側も見る側もやりやすいと思います。
※	一概にいえない。
※	分子生物学会のポスター発表は、特に大学院生にとって貴重な経験です。ポスター発表を盛り上げるためにはオンサイトを基本として、盛り上がるポスター会場を作るのが良いと思います。一方、シンポジウムはオンラインとすることで、海外からの演者を多く取り入れるといいと思います。また、海外にいる日本人を積極的にシンポジウム・オーガナイザーに指名して、そのような人達がビジブルになると、若い人たちへのエンゲージメントになると思います。
※	ポスターがオンラインとオンサイトのそれぞれあるのが不便だった。オンサイトの参加者はほとんどオンラインを見る余裕がなかったように思う。
※	様々な理由(身体的な理由や家庭の事情など)で現地参加が難しい人にとっては、学会参加へのハードルが低くなるので、ぜひオンラインの枠を残してほしいと感じた。
※	ポスターは現地のみでも良いのではと思う。オンラインでポスター発表が機能しているのを見たことがないので。一方、ワークショップやシンポジウムはオンラインで見られる意義が大きいように感じた。感染状況が収束しても手間や金銭面で可能であれば続けていたけらとありがたい。
※	留学や感染状況などから、完全オンサイトでの開催は今後も現実的な選択肢ではないと考える。今年の癌学会は、オンサイトを基本としたために大半の演題がオンラインでは見ることができなかったのに参加費はオンサイト・オンラインで同一あり、著しい不公平感を覚えた。オンライン参加の場合、見たい発表が限られている参加者には参加費を廉価とするような配慮をすることによって、従来の研究者のみならず一般の高校生が参加する場合の敷居が低くなるのではないかと考える。
※	オンサイトで参加しましたが、聴きたい講演が満席だった時にオンラインで接続しました。立ち見をせずに済むので、今回のハイブリッド開催は良かったです。
※	オンライン参加は、今となっては感染対策としてよりも「講義や会議で忙しい人が現地に来なくても発表を見られる」という点で利便性を感じている人が多くなっているのではないのでしょうか。しかし現地参加者が増えないとなかなかスポンサーも戻らないのではないかと思います。政府が「ワクチン・検査パッケージ」で無症状者への検査を推奨する方向に事実上方転換したこともあり、分子生物学会らしく「毎日PCR」「全員がPCR」で安全に大規模学会が現地開催できることを実証してみても？(あくまで願望です)
※	シンポジウムやワークショップは海外からも演者を呼び易いので、オンラインが適していると思う。しかし、ポスター発表は対面の方が圧倒的に良いと思う。今回、参加者がオンラインに分散した為に、シンポジウム・ワークショップ・ポスター全てが「適度なサイズ」になったと感じた。(これまでは会場に入れられない事が度々あったが、今回は無かった。また、ポスター会場も広すぎて歩き疲れてしまっていた。)
※	ハイブリッドで皆が満足するように準備するのは相当費用が掛かると感じました。どちらかに重点を置いたり、何年に一回はグローバルなバーチャル開催で会場を借りないような方針でも良いかもしれません。
※	基本的にオンサイトで良いが、ワークショップ、シンポジウムは聞きたいテーマが2会場に跨っていた時に、移動なく二つを聞くことができたのは良かったので、続けて欲しい。
※	新型コロナウイルスは既に未知のものでも「新型」ですらありません。個人的には、同じ感染症でも肺炎球菌よりも重要性は低いと考えます。新型コロナウイルス感染拡大以前に出来るだけ早急に戻すべきだと思います。
※	ポスター発表はオンサイト、もしくはオンラインのどちらかに統一すべき。
※	今後の感染状況にもよりますが、例えば口頭発表は全てオンサイトとオンサイトの併用でもよいですが、ポスター発表は全てどちらかに統一したほうが見やすいと思いました。ポスターが少し密になっていることが気になりました。今回の感染状況ならば問題ありませんが、もし無症状の感染者が混ざっていたらひとたまりもないと感じました。
※	オンサイトでないときできない重要な話がたくさんあるので、完全オンライン開催には反対です。
※	コンテンツ充実やセキュリティ強化は、オンライン・オンサイトにかかわらず充実させるべき
※	不参加
※	ポスターもZoomにせよ。
※	シンポジウムやワークショップは、オンサイトとオンラインの併用が可能だと思います。一方、ポスターはどちらかにすべき。混じっていると、肉声での質疑応答が出来たりできなかつたりなので、不満。
※	オンラインでは学会の意味がありません。
※	どちらかに限定して、一般参加費を5千円以下に抑えて欲しい。オンラインで開催するなら、オンデマンド配信もセットで検討して欲しい。
※	ポスターはオンサイト、オーラス発表はハイブリッドが良い。
※	ポスターは現地が良い。ワークショップシンポジウムはオンラインまたはハイブリッド開催が良い。理由は①会場が満席で入れないということがない②会場間の移動がないため、異なるワークショップ間の移動が容易③午前中はオンラインで参加し、午後から現地に行くことで朝の通勤ラッシュを避けることができる。

質問17. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	オーラル発表はハイブリッドで、ポスター発表は完全に現地だけにするのが良いと感じた。データ管理の都合上難しいかもしれないが、オーラル発表は数日間だけでもアーカイブがあるとよかった。
※	オンサイトのほうが議論が盛り上がる感じがした。しかし、危ない時には無理せずオンラインでいいと思う。ハイブリッドでもいいけれども、非常に大変そうだったので、続けるとなると難しいと思う。
※	オンラインではポスター解像度が悪く、現地は人が混みあってポスターが見えないジレンマがある。たとえば現地からのアクセス限定で高解像度ポスターが閲覧できるようになれば良い。オーラル発表に関してはプロジェクター・スクリーンよりも、Zoom・モニター投影のがデータを見やすいが、これも現地アクセス限定で発表スライドPDFが手元のタブレットで見られると非常に良いので、小規模会場や他の小規模学会では検討の価値があると思った。
※	会場を展示場や体育館などの広いワンフロアのみとし、シンポジウムはオンライン、ワークショップはオーガナイザー一任(オンサイトの場合は、高校生発表のように隣接)、ポスターは間隔をとって一堂に並べる。企業ブースの一部は注力商品の関連するテーマに近いポスターボードに点在させ、特別料金をとったり、学生の旅費補助を負担させたりする。
※	ポスター発表はやはり現地に限ると思いました。
※	ポスターをオンラインとオンサイトでやるのは不可能だと思います。どちらかにしか参加できません。もしやるのであれば、現地で発表する時間と、オンラインで発表する時間はわけたほうが良いと思います。口頭発表はハイブリッドでもいい
※	この選択肢はいろいろ考えさせますね。複数の地方会場で並行して行うこともありうるということでしょうか。試してみたい気がします。
※	「ハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とし、オンサイトの比重が大きめのほうがよい」が、オンラインの会費は安価にしてほしい。
※	シンポジウム・ワークショップはオンラインの方が定員を気にせずに参加で来ること、また途中から会場を移動できるなどメリットが多かった。ポスターセッションについては、ほとんどオンラインは機能していなかったのでは？
※	シンポジウム、ワークショップを聞くのはオンラインのほうが見やすいが、ポスター発表は現地開催のみでよい感じがした。
※	オーラルトークはオンライン視聴によって、立ち見や途中の移動などの必要がなくなるなど利点が多く、ハイブリッド開催がとてもありがたいです。一方、ポスターはオンサイトでないと利点が見出せず、データを盗むことも可能ではないかと危惧されるため、オンラインではあまりやってほしくない。
※	ポスターのハイブリッドは、オンサイト中心になってしまうので、オンライン参加者の労力を台無しにしてしまいます。オンサイトだけ、あるいはオンラインだけに絞った方が良いと思います。
※	養育すべき子供のいる研究者にとっては、オンライン参加はとても助かります。
※	オンラインとのハイブリッドは、会場の人混みが軽減されるという点で、参加の疲労度が軽減され良かったです。
※	ハイブリッド開催の方が良いがポスター発表では現地とオンラインでほとんど意思疎通する余裕がない
※	未就学児がいます。夕方以降のセッションを今後もオンライン参加で聞いていただけると家から視聴でき、とてもありがた
※	オンデマンド配信がないと、オンラインのハイブリッドのメリットが半減すると思う。
※	現地参加者が減少しないように配慮した、ハイブリッド開催が望ましいと思います。
※	今後の感染状況にも依存することで、なかなか判断が難しい。oralは遠隔でも不便を感じないが、ポスター発表は現地が良い。また、交流と言う点では現地がよいし、また学会に集中するという意味でも現地が良いと思う。
※	オンサイトを基本としたい。しかしオンライン化のメリットは大きく海外在住、家庭の事情等でこれなしでは参加不可能な会員がいる。併用の方向でコスト、利便性で最適なバランスを模索していくべきだ。
※	オンラインは便利かもしれないが、やはり人との実際の会話、交流を通して、情報のやりとりをするのが大事だと思う。
※	オンラインはどこにいても参加できる点がメリットだが、実際はオンライン参加しても結局実験でちゃんと聞くことが難しいと感じる。今回は幸いコロナが収まっていたためオンサイト参加したが、やはりポスター会場でいろんな人と会話できるのは勉強になるし、思いがけない情報を入手できるので完全オンラインは望まない。一方、規模が大きい分生では会場に入れないとか会場移動に時間がかかり聞き逃すとか諦めることが多々あったので、オンライン参加できることでオンサイトでも会場にこだわらず聞きたい演題を聞けたのはとても良かった。
※	オンサイトとするかオンラインとするか、完全に分けてほしい。
※	比重はわからないがハイブリッドが良い。
※	ハイブリッドでも良いがオンラインでの開催継続を希望。

質問18. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	わからない
※	本学会は「ばらまかれて困るデータを持ち込む場ではない」と定義し直せばよい(そもそもこんな大きな学会で色々な人が参加するのに、複写されて困るような未発表データを見せる方が個人的には不用心を感じる)。
※	抑止として院生など向けに撮影は禁止であることなどを周知する方がよいかもしれないと思います。
※	近年大学にもURAの整備が進むなど知財保全のシステムがしっかり整備されつつあり、未発表データを開示せずに、個別の先生型をマッチさせクローズドに研究指導や相談、ディスカッションできる場を提供し、学会発表とは分けるのはどうか。
※	発表者ではないので回答できない
※	「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。→その通りですね
※	スクリーンショットやスクリーンレコードなどPC上で記録する場合は認知できるのかもしれませんが、別途スマートフォン等で撮影してしまえばババアに記録できてしまうのでは、という懸念は捨てきれないため、未発表データを長期間見られる形で残すことにはやはり抵抗があります。
※	ポスター会場でスマホで撮影している人を多数見かけましたし、オンラインの録画等も簡単に出来てしまいます。もはや不正コピーを防ぐことはできないでしょう。発表者側で自衛する以外ないのではないかと。
※	ダウンロードできないようにするだけでなく、スクリーンキャプチャもできないようにして欲しい。オンサイトでポスター発表は時間が活用できないので、今回のオンライン発表に比べるとあまり価値がなかった。
※	学会発表は情報漏れることを前提にしています。
※	ポスターのpdfファイルは一度アップロードしたら自分で消せず、そのためには別のデータを上書きしないといけないことに気づいたのは自分の発表が終わった日の夜でした。その事前説明も欲しいし、誰がそれを覗きにきたのか足跡を残せるようなシステムも必要だと思います。
※	全て、事後配信は、許可しないほうが良いと思う。スクリーンショットが可能だと、ポスターに関してダウンロードの有無の議論はあまり意味がないかも。ポスターは、オンサイトのみのほうが良いかも。
※	発表者側の都合で選択すればよいのではと思う。
※	3と4にチェックしましたが、研究分野の競争率の高さによると思います。現在の私の研究は競争相手が少ないですが、もし非常にcompetitiveな研究をしている場合、私でも1もしくは2を選びます。
※	当面、発表者として参加する予定はありません。
※	オンラインでの発表は複写・撮影等が行われる可能性があるため、未発表のデータは発表しないほうがよいのでは。オンサイトでもメモは取れるので、結局は発表すればオープンになることには変わりはないのかも知れません。
※	事後配信そのものは複写、撮影のリスクにそれほど影響ないのではないかと。
※	ケースバイケースです。
※	ポスター発表も、未発表データをPDFファイルでアップするのを極力避ける。現地でのみ、データを公開する。
※	録画してなくても、ダウンロードできなくても、不正な複写・撮影は阻止できません。
※	ダウンロードできなくてもスクリーンショットで保存可能なのでアップロードするのは危険である。
※	基本、学会は会場に足を運んでの方が良いという考えを前提としています。オンラインでの開催ですと、参加費のみでかなりの情報を得ることができるため、今後最新データ等が出しづらくなり、結局つまらない学会になる可能性が大きいと思います。事後配信動画等については、データがどのような形で表に出るかわからないですし、悪意を持った人によって変に加工されかねないので、事後配信はやめた方がよい。
※	シンポジウム・ワークショップ、一般発表に関わらず、未発表データの事後配信は、懸念されます。個人的には事後配信はやめることが前提にあれば、未発表データを入れてもいいのかな、と思います。
※	オンラインポスターを閲覧した人の足跡を残すシステムにする。
※	学会のご努力には敬意を払いますが、オンライン開催を取り入れるかぎり、ここに取り上げられた未発表データの漏洩を防ぐことは、困難であります。そして、そうであるならば、未発表データの発表をすること自体の意義に疑問を持つ人も出てくる気が、私見ですが。
※	セキュリティ対策をどのように行っても、オンラインで公開された情報は複写されるため、その旨を徹底して注意喚起するとともに、未発表データの公開は発表者の裁量にゆだねるのが妥当だと考えられる。また、シンポジウムなど口頭発表はハイブリッドのママが望ましいが、ポスターの現地発表に関しては公開するPDFと現地発表するデータに差異がある(現地のみ未発表データ有のバージョンにする)事を許容すべきだと考える。
※	オンライン、オンサイトに関わらずシンポジウム・ワークショップの発表は、仮に未発表データを発表したとしても、そのほとんどはもう論文にアクセプトされているものだったり、直に論文化されるものという認識でいつも聞いています。
※	ダウンロード出来ない様にしているでも、スクリーンショット等で保存可能であるので、ポスターのpdfに関しては、注意が必要かと思う。ただ、オンサイトでもポスターや発表スライドの写真を撮っている人間は後をたたないので、注意喚起や、学会独自の罰則があっても良いと思う、そもそも著作権法違反に当たらないのであろうか？
※	私は、オンライン上には未発表データを絶対に載せません。学会会場でオンサイト発表のみの場合、または個別に話し合う場では未発表データについても議論したいと思います。
※	そもそもオンライン配信をしている時点で、録画、スクリーンショットにより複写することは容易であるため、その議論は無駄だと思う
※	今の、ポスター発表の方法では、未発表データが複写、撮影されることになると思う。既に、論文にした研究内容しか、安心してオンラインで発表できないと思う。
※	学会のWebサイトをみて、学会後かすぐにポスターデータが削除されると思っていたが、実際は会期後の土日(12/4-5)もデータは削除されておらず、見られる状態であった。学会の意義を踏まえ、すぐに削除すべきであり、非常に残念で
※	分野によって拒絶感が違うと思うが、自分の場合はあまり気にならない。
※	基本的には発表者に任せる。
※	発表する以上、流出は覚悟している。流出が困る方は発表を控えればよいだけのこと。オンライン/オンサイトにかかわらず、どんなに対策しても流出するときは流出すると感じる。
※	公開することが憚られるデータは、初めから発表しないほうがよい。

質問18. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	本質的にクローズドではない学会で発表している以上、オンラインでもオンサイトでも未発表データの流出リスクはゼロにはならないと思われる。写真をこっそりとったりする人はオンサイトでもいるわけなので。一方、オンサイト時よりもリスクを増やすようなことは拒否できるシステムの方が良いのではとも思う。
※	PC視聴の場合、学会サイト側で右クリックをできなくする、あるいはprint screenキーを押せなくする等である程度の防御はできるかもしれないが、スマホ・タブレット視聴でのスクリーンショットをすべての機種で制限するのは現実的ではない。よって演者側が防衛手段をとることはやむを得ない。
※	シンポジウム・ワークショップの事後配信は期間限定ならよいと思う。口頭・ポスターいずれの発表でもある程度の複製対策はしてほしい
※	ダウンロードを禁止しても撮影やスクリーンショットは防げないので気休めにしかならない。
※	ハイブリットを続ける限り、未発表データは議論しない形になってしまっていると思う。
※	電子データをPC上で閲覧可能とした途端にスクリーンショットを取ることが可能です。完全にデータ流出を防げない以上未発表データの議論は難しいです。オンサイトのみでの発表の機会を確保してほしいです。
※	どこかのワークショップの会場で前に座っていた参加者が、ポスターをスクショしてまとめているのを見かけたので、スクショができないような対策をしてほしい。(カメラで撮影されればお手上げだが、、、)
※	オンラインにしたときには、画面録画をされる可能性が有るので、完全に防ぐことは難しいと思うので、発表側として不安に感じる点があった。
※	ダウンロードさせないようにしていても、スクリーンショット撮られたら同じ。せめてスクリーンショットを撮られないような工夫を施すべし。
※	ダウンロードでも録音でも、演者の判断で選択できるようにしたかった。制限したいヒトだけが制限し、Open source, Open Scienceのヒトは、すべて公開できるように。
※	不参加
※	未発表データのオンラインポスター発表には抵抗があった。今回は3日間の公開だったが、公開日を発表日のみとしたり、アクセスした人の所属が分かるようにするなど、安全対策を考えてほしい。
※	ライブ配信のみにした方がよいように思います。
※	システム上ダウンロードできなくとも、実際にはスクリーンショットを取ったり動画録画できるので、その点の議論の意味はあまりないと思います。
※	基本的には発表済みの研究結果を発表するので、今のところ問題は生じていない。
※	データは見せたくないが科研費成果件数を稼ぎたいがために学会参加しているのならば、そもそも参加しなければ良いだけの話である。
※	スクープされて困るデータはそもそも発表しないのではないのでしょうか周知されることを前提に発表資料を作成すればよいと思います
※	自分の発表内容に興味を持って下さる方との交流を目的とするので、飽くまでもポスター前まで脚を運んで下さる方々に説明できれば良いと思います。
※	年会で発表した内容もプレプリントレポジトリのように、盗用された際の証拠になるような仕組みがあれば良いと思う。
※	発表資料を不正に複写・撮影等した人を特定できるようにすれば良い。
※	ダウンロードできない仕様になっていても写真を撮ったり、スクリーンショットができるので、簡易版のみアップロードし、詳細はメール等で直接聞くという形式はどうか。
※	企業研究者としては、複写等されて困るデータはオンサイトでも出しませんので、この設問にはお答えできません。
※	学会が国際化を目指す以上、海外の良識のない人の目にもデータが触れる可能性が高まるため、国際化と未発表データのオンライン発表は相入れないベクトルだと思う。
※	発表することは無いのでどちらでも良い
※	今回はオンデマンド配信が実現しなかったことが残念だ。許可を出したものだけでも配信が可能な方策を考えるべき
※	オンデマンド配信は併用し、その可否は講演者の選択にすればよい(ほとんどの国際会議ではそうやっている)。発表内容をスクリーンショットされるのを防ぐことはできないので、発表内容は積極的にプレプリントサーバー(bioRxivなど)で公開するようにすれば、科学の発展につながると思う。
※	ダウンロードできなくても写真撮影はできるので未発表データを出すことに抵抗がある。口頭発表、ポスターともに未発表データの場合は事後配信や期間中掲示し続けることに関しては発表者に選ばせて欲しい。この懸念が付きまとうので正直発表しづらくなっている。
※	どの発表形式でもパソコンのプリントスクリーン(スクリーンショット)機能で撮影できてしまうのは今後の重要な課題であると思われる。参加費を払っている以上は、会期中オンデマンドで公開されていることが望ましい。一方で、ポスターを事前公開するのは避けたい。
※	発表数が非常に多い学会なので、参加者目線では聞き逃してしまったもの、興味ある発表が重なってしまった場合に備えて、事後配信を希望します。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	オンラインでの視聴は、システムが比較的使いやすく、よかったですと思います。ポスターは、現地発表者の演題も、オンラインで閲覧出来るほうが良いと思いました。このアンケートの問いが誘導的で、適切で無いと感じました。
※	Please allow playback
※	今回は会場とオンライン参加を併用したが、講演者や座長と個人的にネットワーキングするのであれば、シンポジウムやワークショップを会場で視聴する意味を全く見いだせなかった。なので自分の場合、講演は滞在先のホテルから視聴する場面が多かった。また、座長の先生に一言挨拶したいと思会場に出向いたが、オンライン参加でがっかりした、というケースもあった。講演者だけでなく座長も参加形態が分かると便利だと感じた。その一方で、ポスター発表は明らかに会場の方が快適で有意義であったので、利便性向上のため事前にPDFをアップロードする形式は保ちつつも、会場で議論する海外のスピーカーを招待する経費を節約できるから、もっと多くの教育的講演を海外の人に依頼してほしい。地方の研究者にとってはオンライン参加は非常に助かる。講義や会議なども両立できる。
※	長丁場なので、オンラインだと体力的な負担が少なく、助かりました。
※	サブグループでの研究会を活発に行ったり、学生発表賞を充実させたりすると良いと思います。
※	コロナで何処の学会も同じ課題に直面するが、学会数の多すぎる問題など、マクロな課題や、マージ化など、それによる質向上は、学会執行部何きちんと考えた方が良い。
※	今後covidが完全に終息したとしても、オンライン、オンデマンド配信の利便性は高く、完全になしにしない方向にしていきたい。
※	今回はオンサイトで参加しましたが、プログラムの検索機能が今ひとつで自分の興味のある演題を見つけるのに苦労しました。従来のアプリ版ではそのような事がなかったので、残念です。
※	ハイブリッド開催にさせていただき、選択肢が増えて大変有り難く感じました。別件でやむなく視聴できなかった部分もあり、可能な範囲かつ参加登録者限定で、録画を開催後に閲覧できると一層助かります。
※	同じ土俵で切磋琢磨するため、欧米研究者のオンライン(録画でも良い)参加を増やすべき。
※	臨床に役立つアイデアを探しに参加しています。自分は研究より臨床を選んだので、研究畑の先生たちのご講演を非常に楽しませてもらっています。これからも、研究の楽しさを前面に押し出すレクチャーを期待しています。
※	前回のシステムの方が良いと思います。
※	ハイブリッド開催の可能性を追求することを提案する。開催都市や会場の候補を見直し、それらの場所や規模に合わせて自由自在に学会の企画を工夫することを提案したい。学会のマンネリ化の改善に効果的と思う。
※	オンラインの日と、オンサイトの日を、別の期間に設定することはできませんでしょうか。会場が密にならないようにオンサイト参加者数は絞ることもできるかと思います。
※	オンサイトの学会には初めて参加したのですが、3日通して特に大きなストレスもなく、純粋に楽しむことができました。
※	オンライン形式とすることで、学生でも学業に支障を出さずに聴講することが可能となったので良かった。反面午前中の講義を聞くことが出来なかったため、発表者・運営の方々の負担にならなければ会期の延長・時間の短縮、またはフレキシブルな発表時間の仕組みがあればと思う。
※	複数の学会とリレーや並列で開催して、地方から1度の出張で情報を集められるとよい。家族や大学業務のため平日は参加できない会員のため、長期休暇期間や週末を使い、朝や夜も活用して欲しい。大会役員に地方大学の方を加えるなどすれば、配慮するポイントがわかると思います。また、遠方からの参加者には、初日の朝一番、最終日の夕方を避けるような希望が出せるようすと、旅費負担が減るので学生を連れてきやすくなります。今回、学部3年生を参加させましたが、おすすめのセッションを尋ねられました。20年位前に発生生物学会が、夕方に若手にもわかるような、発表者と解説者が前にいて難しい言葉が出ると、解説者が講演者に尋ねながら進める教育色のあるセッション(学部生の知識で理解できるよう方法や内容に配慮)を行なっていました。当時学生だった私はとてもありがたかくよく覚えています。参加を促した学部生を念頭においたセッションでは、オンラインで進路相談やロールモデルになりそうな各世代の会員と接する機会があつて
※	設立当時の趣旨をふまえ、娯楽や無駄な要素を排除し、学会としての使命と実直な運営に立ち返って欲しい。どの学会も模索中と思うが、ライフシステムも視野に会員の意見も十分反映すべき時期と考える。何れにしても、運営側の皆様すべてに感謝いたします。
※	シンポジウムやワークショップのZOOM視聴はとても有難かったです。roomを変えるだけで他のワークショップに移動できるのはとても良いです。現地参加を考えた場合部屋の移動が大変です。
※	発表者によってはスクリーン上の文字がかなり小さく見にくいことがあつたため、Zoom等で配信してもらえることで自身のPCでも見ることができたのは良かったです。Q18の問題との兼ね合いが難しいところではありますが同時視聴可能な形式は残していただきたいと思いました。ポスターセッションの奇数、偶数切り替わりの際に長引いてしまい、後のセッションに食い込んでしまって聞きに回る時間が少なくなってしまうという事がありましたので、5-15分間程度休憩または切り替えの時間を設けていただけるといいなと思いました。
※	全体的にセッションの時間がオーバーしがちだったので、掲示板機能はありがたかった。
※	ポスターは現地参加の方が良いと思いますが、大規模な開催は今後も難しい状況が続くのではないかと思います。ポスター発表のみのオンサイトの地方大会が年2回ぐらいあっても良いと思う。
※	オンラインで、プログラムからのセッション講演会場へのアクセスをもっと良くしてほしい。もっと検索しやすくしてほしい。紙のプログラムはオンライン開催のみになっても今後もいらないと思う。オンサイトでは学会会場が居住地より遠いため、移動時間や出張に伴う培養などの仕事を休止する作業などで大変で、時間が取れず、いつも聞けない講演が多数ある。今回オンラインでかなりよく講演が聞けて、十分有意義だった。メーカー展示はオンサイトでは内容が薄く、弁当やおまけ目当てでしかない。情報提供はもっと企業がオンラインセミナーなどを積極的にすれば良い。オンサイトの感染予防策も頑張っておられることはわかるが不安があり、当方病院勤務であるため当面オンサイト参加は出来ないと思う。
※	遠方なこと、前後が予定で塞がってしまいましたが、オンラインがあつたおかげで聴講することができました。ありがとうございました。
※	オンラインの方が、パラレルセッションであってもセッション間の遷移が楽であり、また快適な状況で参加でき、大変ありがたいです。
※	コロナ禍でここまで充実した学会を経験できたことは本当に貴重でした。様々な準備は大変だったことと推察しますが、ありがとうございました。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会のあり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	各Qの自由記述への記載と重複するが、オンラインのメリットは大きいと、今後はハイブリッド開催を基本に議論されることを期待する。特に論文投稿前のデータの扱いは発表者が考える必要がある。2020年以降COVID-19関係のプレプリントがbioRxivに多く掲載され、情報提供や議論が行われている。分野によって登壇者により考え方も異なると思われる。
※	今回の難しい状況下でオンサイトハイブリッド開催いただいたことに大変感謝しています。オンサイトの良さを再認識するとともに、遠方からオンライン参加できるハイブリッドの良さも感じました。大変おつかれさまでした。
※	シンポジウムやワークショップは現地発表、オンライン発表のハイブリッドであっても問題なく視聴できました。運営に携わっている皆様や座長の先生方、発表者の先生方の事前準備や当日運営がとてもスムーズだったのだと思います。ありがとうございました。
※	オンライン参加者の立場からは、オンデマンド配信がないことに不満を感じた
※	年会費を払わせているにもかかわらず、抄録がないことは、不親切であり評価できない。デジタルでも良かったので抄録は必要であった。運営費が大変なのは理解できるが、web baseのみにすることは、参加者の善意、参加者の所有するガジェットへの依存度が高すぎる。スマートフォンですら小さくて見えない。web baseのみにする判断を行った分子生物学会の運営関係者に大いに疑問を感じる。
※	ポスター展示のスペースについて、幅90 cmまで使えると書かれていたが実際はそれよりも狭かったと思います。隣のポスターと被っているものも多く見受けられたので、事前に知らされていたスペースはしっかり確保してほしいです。
※	オンラインの編成がすごくちゃんとできていて探しやすい聞きやすかった
※	海外からの発表者が参加しやすいので、オンライン開催がよいと思います。また、オンラインの方がスライドが見やすく、発表者の声も良く聞こえました。
※	ポスターが解像度の問題で見づらかったので、改善してほしい。
※	昨年の分子生物学会のオンラインとオンデマンドのサービスが素晴らしかったので、今回は不便を感じた。
※	ポスターを貼るパネルの列と列の間隔は開いていましたが隣とは密接していたので、発表するにも人が近すぎて非常に困りました。私の隣の人は奇偶番号別の時間帯関係なくずっと私のポスター領域に侵入しながら発表説明していたので、私は終始自分のポスターに近寄って発表することが出来ませんでした。感染対策を行いつつポスターオンサイト発表にするならば、その仕様を改善すると良いと思いました。例えば、板状に横並びにするのではなく、3-5ポスターを外向きに独立したスタンドにするとか。ともかく隣のパネルとの間をもっと開けることは必要です。また、ポスター会場で自由に座れるスペースがありましたが、頻りにアルコール消毒してくれた係とそのシステムを設置してくださった方々に感謝します。そうであるだけに上のポスター発表場所とのギャップを不思議に感じました。
※	ポスター発表を真ん中の時間帯に持ってきたのは、良かった。口演がなく、ワークショップに組み込む形が良かった。ただし、いくつかの発表で、他の人(同じラボの学生や研究員?)が発表した内容を、また他の人が数分使って発表したりしてしたが、それは口演時間を使って単なるラボ紹介をしているだけでは?とも思った。ポスター発表に、賞を設けても良いかも。分子生物学会くらい、スーツ?ジャケット?フーマルウェアを禁止くらいにしてほしい。たぶん、普段の服装でやる方が、ざっばらんに話しやすい学会になるかも。正装の有無は、研究内容に関係ないのでは?たぶん、本来の分子生物学会は、そんな会だったような。偉い先生ともラフに話せる会が良い。
※	非会員ですが、オンラインがあったので初めて参加しました。ハイブリッドのご準備お疲れ様でした。有難うございました。
※	オンラインでのポスター発表が非常にやりやすかった。おそらくオンサイト参加者がメジャーだったからかもしれない。同じ参加費を払っているのと思ってしまった。オンサイトとオンラインの参加者予定者がそれぞれの程度からかじめ知ることができればよかった。
※	なんであんなゴミみたいなオンラインシステムにしてしまったのか理解できない。サイト制作会社と癒着でもしてたんか?無駄なアニメーションを入れているのもあってサイトが重い(多人数接続したらなおさら)、ユーザーインターフェースもお気に入りボタンが見つけにくいなどの点からクソ。演題をお気に入りしたところで、自分のダッシュボードからしか見られないのと、リストとしてしか表示されないの、結局お気に入りにする利点が全く分らなかった。アプリでは自分だけのタイムスケジュールを作れた憶えがあるが、あの機能を実装しなかったのが意味不明。結局、オンラインシステムが重すぎて使いつづらざるので、ポスターをオンラインで見ることがはななかった。ただ、zoom上で発表を流すのは、部屋移動せずにきになるワークショップ間を移れるので、今後も続けるべき。手でスライド見れるし。
※	ポスター発表では現地発表者から直接発表を聞くこと、議論することが一切できず、さらには誰一人として交流場になかった。自分含め何人かのオンライン参加者とも話したが、みな発表を聞きに来た人数が現地発表に比べて少なかった。ハイブリッド(実質オンサイトでない)と学会の良さを感ぜられない)のであれば、オンサイトかオンラインのみにするべきである。今回ハイブリッド開催におけるオンライン参加には非常に不満を覚えた。
※	・ポスター発表のオンサイト/オンライン比が偏っており、オンラインでの発表では活発な議論が行えていないと感じた。・ワークショップに関しては質問者を画面に映してもらいたかった。
※	ポスター発表がオンラインから参加しましたが、いつまでもつながらず結局見れませんでした。自分がシステムを使い慣れていないかもしれませんが...
※	タイムテーブル、検索ともに使いやすかったです
※	困難な中、頑張って開催していただき感謝しています。会費がもう少し安価であれば、助かります。オンサイトのキャパを減らすことができれば、もっと安くできるのではと期待していますが、今後の動向次第かと思いますが、アイデアを出して、より良い会にして欲しいと思っています。
※	face to faceのオンサイトは重要だと思うが、いろいろな理由で参加が難しくても、オンラインだと参加しやすい。
※	コロナにより状況が常に流動的な中で、よく開催して頂きました。人と会って話すことは何よりも刺激的で、今後もオンサイトの会合を希望します。紙の冊子はいらないかなと思います。ありがとうございました。
※	一般演題のポスター発表をオンラインで行う場合は、ポスターを見ている人とすぐにコミュニケーションを取れるようにしてほしい。また、オンラインでは現地での発表に参加できないため、ハイブリッド形式を続けるなら、現地とオンラインを繋げるツールが必要だと思う。
※	一案として、同じ系列のセッションで今年英語での発表だったものは翌年は日本語にする、というように隔年で言語を変えるというのはありだと思った。セッション全体で半分から3分の一が日本語だとよいと思う。英語中心だと、とくに若い人にはかなりハードルが高くなっていると思う。英語だけが毎年続くとやはりディスカッションの盛り上がり弱いと感じるので。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	オンライン参加の選択肢が残ることは、大変有難い。今後、コロナが落ち着いても、参加者の多様性を維持するためにも考慮し続けてほしい。
※	いろいろな分野の話が聞けたことは良かった。その分演題数が膨大でしたが、協賛企業も某学会に比べると多かったです。いろいろな分野で分子(核酸、タンパク質)を扱うようになってきているためではないかと思います。離れた分野の学会と共同開催をするのも手かも(これまでも共同開催はありましたね)。
※	webサイト、検索が使いにくかった。口頭発表、ポスター発表が分かれて、参加者と発表者もそれぞれ検索しないといけなくて、使いにくい。プログラムとタイムスケジュールもリンクしていなくて、細かい要旨を見るために別のPDFを開かなければいけないキーワード検索も使いにくい
※	ポスターPDFのアップロード、口頭発表のオンライン配信、ポスターと企業展示のオンサイト発表は今後も続けて欲しい。セッションごとのオンラインオンサイトの参加比や安心ステッカー申込件数、抗原検査数、ショートトーク動画の登録率等、出せるデータは積極的に公表してもらえると議論が深まるのではないかと。
※	オンラインでプログラム等の配信をするのであれば、一か所で時間配分等のすべての情報がみられるようにしたほうが良いと思います。
※	まずは真面目に、真摯に、研究者と学生のために行われることを期待します。ウケ狙い、話題作り、思い作り、は、ほどほどにしてください。応援ソングなんて必要ありません。
※	ポスター発表は良かったと思う。一方、あちこちの学会シンポで話すいつもの人たちのシンポ・ワークショップはイマイチなものもあった。また、老いも若きも話したいのはわかるけど、同じラボの人が別々のセッションで同様の話をするのも含めて、あちこちで同じような話をする人々を制御できないものでしょうか。分生に限っては、教授や室長はポスター発表しかできないくらい、シンポやワークショップは、准教授以下か海外演者のみなんてすると魅力的な改革案になる気がします。司会もプレナリートーク以外はなしにして、院生たちも偉い人に直接会いたいですからね。確か、発生物学会などはそういう試みをしたことがあったように思います。
※	生化学会との合同の方が、盛り上がるし、量も質もよくなるので合同大会が良いのではないかと。
※	久しぶりのオンサイト学会参加で、対面のメリットを再認識しました。一方で、オンラインも併用していることにより、地理的・時間的に現地参加が難しい方々も広く参加していただけて、今までより充実した会になったのではないかと思います。
※	オンライン開催は、現地会場での非公式の交流ができない点が問題だが、それはシステムを開発することで解決できる気がする。それを開発できれば、世界的に大きなインパクトがあるのではないかと。
※	久しぶりのオンサイトはやはり良かったです。オーガナイザーやスタッフの方々、お世話になりました、お疲れさまでした。
※	オンラインでの参加は、ポスター発表に多少の不便や限界があったものの、口頭発表の視聴に関しては、会場を移動する必要がない、満席で座れないことがない、体への負担が少ない、感染症に罹らない、といったメリットを感じました。今後も参加方法を選択できる方が、より多くの人にメリットがあると思います。
※	今回はコロナ感染状況の予想がつかない中での開催で、とても大変だったことと思います。そんな中で対面でも行っていただいて、改めて対面の良さを感じました。また、オンラインでも並行して行って下さったので、会場がそれほど密にならず(ポスター会場を除く)、対面でも安心して参加することができました。私自身は、オンラインと会場とで使い分けて参加し、そのため、いつもより長時間参加することができました。準備が大変かもしれませんが、ハイブリッド開催は良いですね。対面の良さとおオンラインの良さを感じた学会でした。ありがとうございました。
※	昨年度も今年度もオンライン参加したが、昨年度に比べて今年度は不便な点が多かった。今年度はハイブリッド方式での開催であったが年会費が値上がりしていたため、オンライン参加にシワ寄せが来ているように感じた。来年度以降もハイブリッド形式を続けるのであれば、年会費を値上げしてもオンライン機能の充実を図ってほしい。今年度のようなオンライン形式では、プログラムの検索機能やお気に入り登録の不便さ、ポスターの画質の悪さやディスカッション機能の使いにくさなど、あまり年会に参加する意味がないように感じた。
※	コロナ禍で大変な中、準備から開催まで大変なご苦労だったと思いますが、素晴らしい学会でした。参加させていただくことに大変感謝しております。学会参加から遠ざかっていった2年間でしたので、学生たちも大いに刺激をもらったようです。ありがとうございました。組織委員会の皆さま、お疲れ様でした。
※	プログラム冊子を配布しないという点には予算などを考えてやむを得ないと思いますが、せめてこれまで配布していた紙の冊子に相当する統合版のPDFをダウンロードできるようにして頂ければ有り難いです。今年はシンポジウム、ワークショップ、フォーラム、ポスター、1日目、2日目、3日目など、様式及び日にちに別にダウンロードするのは、(検索するためにどうせバラバラのファイルを統合するため)、無駄であると思いました。
※	発表は全部オンラインでも良いですが、ポスターはもっとちゃんとハイブリッドの新しいやり方を考えないといけない。本質的にはオンサイトで重要なのは議論と企業展示なので、ある程度大胆に切り分ける(シンポジウム・ワークショップなどは全部オンラインで、meet the speaker的なオンサイトセッションを作る、など)ことが重要。
※	生化学会と合同で開催してほしい。
※	大変な時期での学会運営、お疲れ様でした。早くコロナ禍を克服して、以前のような学会が開かれることを望みます。
※	全体的に演題が探しにくく、不便な学会でした。
※	日程が短く同じような分野のセッションが重なっていることが多い。夜のセッションは参加者も少なくなる。日程を長くして1日あたりのセッション数を減らした方がよい。そもそも分子生物学が退潮しているなかで多くの研究、セッションが分子生物学の名前にあっていないと感じる。分子生物学会という名前を見直すべきではないか？
※	分子生物学会は、網羅する分野が広いので、例えば、大きな総会は数年に1回にして、各分科会(動物、植物、微生物など)を作って、そちらは年1回とかにしても良いのではないのでしょうか？
※	微妙な状況でハイブリッド開催に踏み切って頂き非常にご苦労があったと思いますが、参加者としてはオンサイトの学会の重要性を噛み締めた会でもありました。オンラインでの口頭発表は非常にスムーズで問題なかったと思いますがポスターのあり方は発表者側、視聴者側、共に難しい面がありました。オンラインのみ、オンサイトのみ、に統一した方がよいと思いますがオンラインに統一すると現地参加の人がすべてインターネットにアクセスすることになるので無理なのかなと思います。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	分野の偏りは必ず起きてしまうと考えます。そのためにワークショップも少なからず偏ってしまうのも仕方無いと思いますが、この改善のための方法を考えた方が良くと思います。コロナをきっかけに、オンラインとのハイブリッドは形を進化させつつ今後続く傾向になるのでは、と思いますので、未発表データの扱いについては今後も議論が必要だと思います。海外の学会もまだ、この点について改善されていないので、グローバルな問題だと思います。ワークショップの内容の選定は選定委員のセンスにも係るかと思いますが、ここのハイセンスは重要かと思えます。
※	両方経験してみてもポスターは(混雑していなければ)現地の方が、オーラルはオンラインの方が見やすかった(立ち見になる苦痛や画面が遠いことなど)。現地の場合は色んな人に会える良さはあった。どちらにも利点があるのでハイブリッドは
※	北海道と仙台と沖縄に行きたいです。
※	初日の朝一のシンポジウムの座長でとてもお世話になりました。運営側も最初は慣れていなくて大変だったかと察します。今回のオンライン開催はいくつかの問題点もみえてきたが、これは実際にオンラインやってみないとわからないことなので、今回の運営の皆様や年会長のご苦勞に敬意を払いたいです。そういう意味でとても貴重な試みで意義のあるハイブリッド開催と思いました。お疲れ様でした。
※	今回は久しぶりにオンサイトの学会に参加し、関係のないと思っていた分野の研究をたまたま聞いて、実は自分の研究と深いところでは繋がっているなどことがわかるなど大変面白く勉強になりました。答えがない中のオンサイトを決断していただきありがとうございます。またいつの間になくなってしまっていた口頭発表の公募が久しぶりにあり、俄然、分生で発表する気になりました。実は口頭の公募が無くなってからしばらく参加していませんでした。これまで偉くなった先生達のお友達同士(新学術/学術変革など)で研究費を出す前(または後)のmeetingと化していた口頭発表が楽しくなりました。今後ぜひ公募の枠を増やし、研究仲間が少ない若手やコミュ障だけけど優れた研究者が発表する機会を作ってほしいと思います。科学は多数決ではないのだし、若手やコミュ障研究者はお友達が指摘しないことを率直に指摘してくれることがあるので。これまで若手が研究に残らないと言いながら、お友達グループの若手だけに発表のチャンスを与えていたのは問題だと思います。是非、フラットに良い研究を口頭発表にする審査方法を作っていただきたいです。
※	ランチョンのランチの廃棄(?)が多そうなのが気になった
※	オンラインでするならばもっと動きの早いアプリでない意味がない。事前のテスト期間で、利用者が少ないにもかかわらず非常に動きが遅かったので、今回はアプリを現地で使わず済むようにして当日を迎えた。
※	ハイブリッド開催は、発表者や参加者の都合でどちらかを選択できるので、多くの参加者が見込める将来性のある学会開催方式だと思う。臨場感のあるオンラインソフトも開発されているようで、ハード面の環境整備(会場のWi-Fiのcapa不足の解消)や、事前の各種案内や説明等サポート体制を充実させれば満足のいくものになると思われる。
※	横浜会場にはまた必ず戻ってきてほしい。分生=パシフィコ横浜、です。
※	一部のエライ人だけが盛り上がっている学会に成り下がった。ポスター発表のプログラム詳細がwedで見れない上、冊子も配らない。メール配信も無い。この点を見てもポスター発表を軽視していることがわかる。実行委員がポスター発表を軽視していると感じていないこと自体が問題。前は、気楽に参加し、いろんな人と個人的に直接話せるのが良い点だったと思います。コロナは関係ないです。規模が大きい学会であるにも関わらず、学会誌のIFが2しかないことを直視すべきでは？
※	どうい議論によりこの形式になったのか議論を開示していただきたいと思いました。参考になると思います。
※	ハイブリッド開催にするからには会場でのwi-fi環境を良くして、どこでもオンラインで使えるようにして欲しい。感染対策を徹底して、オンラインを意識した会場設営を考えて欲しい。オンサイトポスター発表は(偶奇時間を守らない人が多い)一つおきにするか、板で並びにしないで柱にすとか工夫が欲しい。
※	研究不正問題には今後眼をつむるのですか？学会幹部がみんな後ろ暗いから？
※	オンサイトの開催がありよかったです。オンサイトの開催を決断された組織委員会の皆様に敬意を表します。
※	赤字になるのでオンサイトのみでやるべきである
※	・コロナ禍が終わったら、ポスター発表をオンラインでやる必要は無いように思う。・コロナ禍が終わっても、オーラル発表のZoom配信は引き続きしてほしい。・録画の事後配信をデフォルトにすると、斬新な発表や刺激的な質疑応答は減ることになると思う。・市民公開講座は、一般市民にはやや難しい内容だったと思う。また、台本はもっと事前に練った方が良い。研究者としては非常にユニークな人も、芸人として見たら一流ではまずないので、一般人相手のアウトリーチを当日の成り行き任せで行うのは避けた方がいい。
※	正直いうと、この学会は公募のシンポジウム、ワークショップの数が年々増え続けていると思います。その結果、1つ1つのセッションの密度が薄くなり、質疑応答などが充実していない場面を何度も目撃しました。これについて思いますことは、どうもこれらのワークショップを企画する人たちは、自分達をアピールすることに意識が集中しているような印象を受け、現代の世相を反映しているように思えます(逆にこうでもしないと、なかなか研究費獲得や執筆の依頼などにつながらない、という側面もありそうなので、一概に彼らが悪いとまでは、いいませんが)。
※	分子生物学会ほどの大きな学会だと年に1回顔を見たいという人もいられるでしょう。若い人にはオンラインよりもオンサイトの議論の方が刺激になると思います。それぞれの地方に分散させて1回ではなく、年に複数回でオンラインで、その地方の特色あるセッションを組んでも面白いのではないのでしょうか？
※	シンポジウムのオンライン化は続けてほしい。オンラインにすることで、海外の方からも発表しやすくなるのではと思う(時差の問題はあるが)。自分は耳からの情報の聞き取りが苦手なので、個人的にはオンラインの場合は字幕をつけてほしいと思う(日本語でも英語でも)。オンラインでの発表の接続、音声などはほとんどトラブルがなくとも良かった。要旨集(冊子)は別になくても問題ない。オンラインでのポスター発表は別の学会で使っていたgather townのシステムがとても良かった。ポスター発表に関しては、去年のツールのほうが使いやすかった。ポスターのハイブリッドは全然いいところがなかったと思っ
※	日中はオンサイトで参加し、ホテルからオンラインでフォーラムは参加したので、ちょうど良かったです。部分的にオンラインにする場合には移動時間が長いと影響が出るので、現地参加で、宿泊前提であるならば、とても良いと思いました。
※	オンラインの視聴が使いづらい点がある一方で、PC上でセッションの視聴できる便利さも感じた。今後もハイブリッド開催を続けて、より参加者が参加しやすい学会になってほしい。また、学会プログラム冊子の廃止は賛成です。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でもちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	年会の内容は、分子生物学中心というよりは生命科学全般を網羅した感じになってきており、学会名を含めて再検討するべきかと思う。また参加者の多様性に対して、学会内で目立つ人はゲノムエピゲノムなどコトコトの分子生物の人が多く(特定の研究者のキャラによるものかもしれない)、なんか違和感もある。この学会の年会は(良い意味で)お祭りのであり、若者の参加も多く、生命科学の未来を作る会とも思うので、その点は他の年会と違って良い部分であり、その部分は維持(あるいは強化)して行ってもいいかと思う。おっさんおばさん爺さん婆さんのための会でなく、未来志向の会であり続けてほしい(シニアが壇上ではなく、オーディエンスやサポーターとして会を盛り上げるような形式が望ましいのかもしれない)
※	ハイブリッド開催は大変なご苦労だったと思います。組織委員会の皆様に感謝いたします。
※	経費削減や年会費増額をしたとしても、年会のハイブリッドをぜひ続けてほしいです。特に私のように小さい子どもがいて共働き家庭の場合オンサイト参加は難しいので、オンラインでも参加可能なら気軽に参加登録できます。オンライン参加された方の属性調査をされたら、私のような方が多いのではないかと感じます。
※	今回のオンライン形式はやりづらかったです。オンラインで見に来る人も少なかつた。ポスターの拡大がやりにくい
※	オンラインでのポスター発表は交流がしにくく盛り上がりませんでした。
※	分子生物学会にはじめて参加したが、1回目の参加にも関わらず、年会費は2年分支払わなければならないのは納得がいかない。年度の切り替え時期を3月4月に変更していただいて、一回の発表につき一年分の年会費で済むようにしてください
※	例年、シンポジウムやワークショップは立ち見状態で、集中して参加できる環境になかったと感じていましたが、今回はオンライン視聴ができたので、非常に参加しやすかったです。今後、ポスター発表はすべてオンサイトで構わないかと思いますが、口頭発表は可能な限りオンラインを取り入れて頂けたら有難いです。
※	学会スタッフの皆さまの準備のおかげで、久々のオンサイト学会参加はとても楽しいものでした。今後、オンライン上での研究発表の機会はますます増えてくると思います。この実現のためには、(1)オンライン発表を理解してサポートしてくれるスポンサー企業の存在、(2)速い・強いネットワーク回線の確保、(3)オンライン発表でのデータの取り扱い方の基本の周知、(4)使いやすいオンラインプログラム閲覧システムが重要になってくると思います。各点について、現状では十分に準備されていると云い難い状況ではありますが、それらを改善しつつ、発表の機会を継続して作っていただけると
※	シンポジウムのオーガナイザーがマンネリ化しているように感じる
※	今回は現地参加であったが、ハイブリッドは非常によかったのでコロナの状況に関わらず今後も続けてほしい。
※	初めての学会参加であったが、いづどこで何をやっているのかがとてもわかりにくく、見たかった発表を見逃してしまった。もう少しわかりやすいスケジュール表が欲しかった。
※	まず何より、視聴サイトの完全な改変もしくは利便性を重視した改善を希望する。特に検索サイトについては大いに改善すべきである。
※	正直なところ、今回のハイブリッド開催は失敗だと思います。上記のように見たい講演をほとんど見られませんでした。次回も同じ状態ならば年会参加をやめます。英語によるプレゼンについて、今や英語プレゼンがどの学会でも当然になっていますが、学会は他国の大物研究者への諂いよりも、自国の研究者を育てて日本の科学発展に寄与すべきだと思います。英語教育を行う目的ならば、学会などが別に専門の機会を設けることが必要だと思います。
※	応援ソングや、市民公開講座の発表は楽しかった。これからの若い人をこの分野に誘うには、夢や楽しさをアピールできていて良いと思う。一方で、壇上で討論されている方々は、分子生物学分野で成功されている方々ですが、研究や不安定なポジションなどで苦労している研究者や研究をやめた方々も大勢いる現状では、そのような苦労している研究者がこのような発表を聞くと、かえって辛くなったり、しらけてしまったりするように思う。様々な状況の研究者が、ハッピーになれるような、分子生物学会の活動を期待します。
※	ここ数回、「いつもよく見る人たちの、いつもよく見る研究内容を聞かされている」と感じることもあったが、今回は非モデル生物を使った素晴らしい研究例が多く、面白かった。難しいことかもしれないが、新しい面子を取り込めるような工夫があると、毎回参加したいという気持ちが高まりそうです。
※	ポスター発表を現地でもしましたが、オンライン参加の方との交流は全くできませんでした。オンラインのポスターをみることもなかったのでもポスターに関しては現地参加のみにするか、もしくはオンラインのみにするかした方がいいのではないかと思います。もしくはオンラインとオフラインで時間をずらすなど。
※	今回アプリが無くスケジュール管理をするうえで非常に不便だったので今後は是非復活させていただきたいと思います。口頭発表についてはオンラインの方が会場の行き来をせずに済み、かつ聞き取りやすいため、今回オンサイトよりも非常に便利だったと感じました。ポスター発表をオンラインで行うのは資料の見せ方等を含め諸々と改善できる点が多いと感じました。現状オンサイトでの方が良いように思います。
※	視聴サイトの表示に時間がかかり使いにくかったため、アプリ配信を希望したい。ポスター発表で、隣のポスターが奇数番号同士・偶数番号同士の場合、発表者・参加者が密の状態になっていて発表しづらそうなのがあったり、マスクをしているとはいえコロナ禍の状況であまりよくないと感じた。ポスターパネルの配置をさらに検討すべき。
※	データの取り扱いについてはきちんとすべきである。
※	オンサイトがやっぱりいいですね。運営委員の皆様には大変感謝しております。お疲れ様でした。
※	ハイブリッドで問題ないが、オンラインの使い勝手が悪かった。ポスター発表では戻るを押す毎に、一番上まで戻されているためその都度下のセッションまで下りて探す必要がある。また、自分がチャットで質問したポスター発表に返事がついたかどうかの連絡が来ないときがほとんど。自分で確認にいかない質問に対して返事がきたかどうかはわからない。この辺の使い勝手が非常に悪かった。あと、全体的にアクセス数もあってか動作が重かった。
※	オンサイトで参加できる学会に幸せを感じました。自分はオンサイト派なのでハイブリッドでも必ずオンサイトで参加すると思いますが、上述したようにZoomも一部残した方がよいと思います。もしオンラインポスターを継続するのであれば、夏のIIBMP2021で行ったような、オンライン上にポスター会場を作成してしまうという方が議論が活発になってよいと思いますが、「オンラインとオンサイトで別の学会になっているようだ」という意見もあり、ポスターはオンラインを継続する意義もあまりないように思います(ハイブリッドの場合)。
※	コロナ禍という難しい状況の中、年会を開催してくださったことに感謝いたします。オンライン参加においてポスター発表に関しては前述のような問題点を感じたものの、シンポジウム・セッション等では不自由なく視聴でき、むしろオンサイトよりも気軽に視聴・質問を行うことができました。次回の年会のご成功と、学会の益々のご発展をお祈りしております。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	年会参加費について、選択肢があっても良いと思います。オンライン参加のみの参加費、オンライン・現地参加の参加費、現地参加の参加費、プログラム抄録集(有料)など海外の学会では選択肢で選んで合計額を出す参加申し込みもありま
※	久しぶりのオンラインでもとても楽しむことができました。ポスターはやはりオンラインならではの良さがあったようにも思います。開催していただけてありがとうございました！
※	12月頭の学会発表のために日本分子生物学会に入会したが、申請から発表までの期間に期をまたぐため、前期は1か月も所属していないのにも関わらず2回分の会費が必要になるのは不親切だと感じている。運営に予算がかかるのは重々承知しているが、やり方を考えるべきだと思っている。
※	・学会本来の機能はオンラインにある。実際に多くの人と議論したり、疑問を共有することが大切。・オンラインで情報を得るだけでは学会として機能しないことに参加者はきずくべき。・ポスターオンラインだとチラ見ができない。他人の質問に便乗した質問もしいく。見る側の都合でいえば時間の調整が難しい。出来ればポスターはオンラインのみにして欲しい。
※	オンラインの方が直接議論できる分、オンラインで参加した他学会と比べ、新たに得られた情報が多く、共同研究につながるような会話も進み、有意義だったように思います。
※	課題もいくつかあったものの、この規模の学会でのハイブリッド開催は他学会にとっても良い前例となったと思う。何よりまだ一度もオンライン学会を経験できていなかった学生の皆さんに、学会を経験させてあげられたことは本当に良かった。今回のハイブリッド開催が無ければ一度も経験することなく卒業することになっていた学生さんも多くいたと思う。運営の皆様にも心よりお礼申し上げたい。
※	大会長、組織委員の皆様、世の中の状況が読めない中、準備が大変だったと察します。ご苦労様でした。そして、ありがとうございました。
※	楽しかったです。
※	オンラインでの学会などについて初めは慣れでストレスでしたが、慣れるとオンラインでの学会より遥かに費用面や時間面でメリットが多いと感じている。すぐには難しくても将来的には完全オンラインを目指すべきだと思う。
※	歌を歌ってのひと、とんだ学会の私物化だなと思った。やめてほしい。
※	オンライン参加の場合、オンラインのシンポジウムやワークショップに参加しそびれてしまうことが多いです。オンライン会場にもオンライン各発表をリアルタイムで見られる部屋があれば、パソコンのバッテリーやインターネット接続を気にせずにオンラインの発表も聞くことが出来て良いと感じました。
※	先述してありますが、ハイブリッド開催は双方の利点があり、それらが非常によく活かされていたので来年も同じ形のハイブリッド開催を希望します。
※	せっかくビデオ通話システムを設けていただいたのですが、現実にはポスターに来る人の対応が精一杯でした。
※	コロナ禍の中、貴重な対面での発表経験となりましたので、オンラインで発表できる機会を来年以降も頂けたら嬉しいで
※	オンラインで参加しましたが、様々な研究を気軽に見られるし、オンラインだと部屋に入りにくい場合でも、オンラインであれば聴きやすくとても学びが深まりました。
※	「アプリがなく、代替の年会サイトが使いづらい」という意見に尽きる。従来毎年新たに配布していた年会アプリを更新型にして毎年機能を追加する形に変えたほうがよいと考える。現状のまま毎年行い続けるのは適切ではない。オンラインに拘ってウェブ発表の形態を現状のまま蔑ろにするのは悪手である。
※	ハイブリッドはよかったです。今後も続けてほしいです
※	キャリアパスセミナーがとても好きなので今後も続けていただきたいです。
※	やはり、ポスター会場は現地の方が盛り上がるし、実のある議論ができる。講演については、海外の発表者はネット参加可能とし、国内研究者は、現地発表を原則とする。オンライン同時開催はする必要はないと思う。
※	オンラインで参加しましたが、今回は「いい感じに空いていたな」と思います。聴きたい講演の時間が被ってしまうわけでもなく、ポスターが多すぎて全部回れないということもなく、休憩したい時に椅子が空いていないということもなく、...(参加者が少ないというのは、主催する方にとっては頭の痛い問題なのは理解はしますが)良い感じのオンライン:オンライン比率にすることで参加者の分散をはかる、というのが鍵なんじゃないかな。
※	発表内容が充実して日本の生物学を引っ張る学会だと感じました。その反面、ベテラン勢の「完成された」発表が多く、そういうのは遅かれ早かれ論文で発表されるので学生や若手の荒削りで未完成的な発表の場としての学会でもあってほしいと思います。というか本来はシンポジウムとワークショップでそのような使い分けがなされていたのでは？分生は間口が広いのが良いところだと思いますがワークショップはオーガナイザーの設定したテーマに合わないと思えないので、薬学会の「一般口頭発表」のようにテーマを設定せず大まかな分野だけ決まっているセッションがあるといいと思います。
※	徐々に大規模な学会に参加でき大変勉強になりました。オンラインの方が研究者同士の意見交換がしやすく、オンラインの発表は参加がしやすかったです。今後も年会をハイブリッドで続けてほしいです。会場は首都圏が良いです。
※	通常のフォーラムやシンポジウムは参加者がほとんど研究者で、間違っても発表中にカメラを出すようなことはなかったが、市民公開講座の自由な雰囲気写真で撮ってもよいような感じになったのがよくなかったと思う。市民公開講座で斜め前の座席に座っていた50-60代の男性がずっと挙動不審な様子でスマホを操作し、発表者のうちの最も若い女性の先生の写真ばかりを撮っていた。カメラロールは若い女性の写真で埋め尽くされていて、非常に不安を感じた。許可されたカメラ以外での撮影は一律禁止としたほうがよいのではないかな。
※	コロナの状況がどうなるか不明ですが、以前に戻れるならオンラインを中心とし、一部や数年に一度バーチャル開催とするのがわかりやすいと思います。未発表データを入れた活発な討論ができる環境を作ってもらいたいです。オンラインだったので、会場はいつもより空いていて快適でした。ポスターにも近づきやすく、それはありがたかったです。適正人数だったと思いました。年会的あり方というか、学会の在り方を考え直して、若者へのアピールを意識しないとあっという間に会員数が減少するのではないかなと思います。企業やベンチャーをうまく巻き込んで、奨学金や研究費を支給できると人は集まると思います。結局お金がないと実験できず、データが無く、淘汰されます。
※	分子生物学会ならびに生物系は将来的に衰退していくことは避けられない。しかし基本的な学会の存在の意義として、発表して良いディスカッションができて良いアイデアやアドバイスが得られたか、面白い発表が聞けたか、またオンラインの良い点である他者との交流ができた、という事が達成されたら良いかなと思う。良い学会のオーガナイズを期待する。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	オンサイトで発表している際に、発表者はzoomサイトにはログインしていないため(且つ自身のPCを発表デスクに預けているため)、自身の発表に寄せられた質問を、見るできないのが残念でした。せっかく頂いた質問ですが、座長に取り上げて頂けなかった分は、どのようなものがいくつあったのか全く把握できておらず、お答えすることもできず残念です。その場では厳しくとも、後日どのような質疑が寄せられていたか知ることができたらと強く思いました。
※	学会期間中だけでなく、オンライン視聴期間を長めに設けていただければ、じっくりと聴ける機会が増えます。分子生物学会は異分野を知る機会としてとても貴重な学会(希有な学会)といえます。その特色を失わないような運営を期待しています。
※	年会は、横浜と神戸に固定した交代開催が、参加者として色々な面で利便性が高く、予定も立てやすいと思う。
※	ポスター会場で、オンラインを選択した発表者のパネルを省略したために、偶数・偶数・偶数など連続し、密になった。少しばかりの経費削減効果しかなく、全員分のパネルを用意すべきだった。オンライン発表者のポスター発表を聴き討議したかったが、スマホでは出来なかった。あんな人ごみの中をノートPCを片手に参加するの？紙ベースのプログラム(簡易版)すらないのは不便の極みだった。
※	ポスター発表は、オンサイトとオンラインで分断されていたと思います。オンサイトのポスター発表はいつもより通路が広くっており、話も聞きやすかったと思います。例年が多すぎるのかもしれませんが、一方、オンライン発表のほうは全く参加しておらず、オンラインのポスター発表が成り立っていたのか疑問が残ります。
※	現地にてポスター発表を行い、とても良い環境で発表させていただいたと感じております。しかし、現地とオンラインのポスター発表の違いも感じました。ポスターを現地発表時、オンライン参加者とのインタラクションは発表時間後の掲示板へのコメントで行うことができたが、発表時間中スマホでオンラインで見に来ている人がいるか確認するの难道ろろと感じ、結局、オンライン通話を用いた発表まではできませんでした。現地のポスターも多く、対面で話を聞きたかったというのが大きいのですが、大会期間中は、現地のポスター発表のみめぐり、オンラインポスターの発表は聞きませんでした。webサイトでは、後からポスターを確認するなど、オンライン発表のポスターをいくつか見ることがあり、webサイトは大変便利で
※	コロナ禍中、ハイブリッド開催いただいたこと大変感謝しております。複数のオンライン学会に参加しましたが、オンサイトでしかできないコミュニケーションがたくさんあることを再認識しました。是非以降もオンサイトをなくさないように希望いたします。
※	発表者ツールを使った発表ができるようにしてほしい。次のスライドをみて、何を話すべきかを考えて話すことに慣れ過ぎてしまった。無理ならば、個人のパソコンを壇上に載せて発表できる形式にしてほしい。
※	初のオンサイトでの参加だったが、オンラインよりも得られる情報量が多く有意義だったため(短時間で色々なポスターを見ることができる、他の参加者との交流がオンラインよりも楽など)、できる限りオンサイトで開催を続けていただければ嬉し
※	ケチるところを間違っている。過去最低の不便さであった。
※	日本生化学会大会と、時期も内容も企業展示も益々近くなっており、運営や参加は大変になりますが、やはり合同開催を基本としてほしい。若い人や学生からもなぜ分かれてやっているのかを問われて答えられない。
※	年会の運営はオンサイトとオンラインともに良かったと思います。今回は1日目と2日目はオンライン、3日目はオンサイトのポスター発表で参加しましたが、改めてオンサイトの良さに気づかされました。
※	初めての学会で有意義であった。コロナ禍によりヒトと話す機会が無かったため久しぶりに話す事が出来た。プログラムや抄録集はほしいと感じた。
※	現在のオンラインの形式では、ポスター発表は少し難しいように感じました。システムの面では、ポスターのスケジュール画面での操作が少しタイムラグがあるように感じたこともあり、演題を探すのに少し難がありました。また、複数のポスターを大まかにでも1画面でパッと見れるようになっての方がよかったです。オンラインでやるのであれば、“現地で歩き回って、何となくポスターを見る”というような体験をできるだけ再現できるシステムが必要な気がします。また、ポスターを見た後、実際に意見交流画面に入るまでのハードルがかなり高いようにも感じました。さらに、ポスターを見にきていただいた方に説明する際にも、レーザーポインタで示す、などできないのが難点でした。また、なんとなく、現地-現地、オンライン-オンラインでの交流になっているような気もして残念でした。オンラインと現地のポスターの時間は分けてもよかったのでは、とちょっと思いました。一方で、オンラインで各種講演を聞けるのは発表が聴きやすくてよかったです。
※	オンライン参加は学会に集中できない。これは分子生物学会に限らない。
※	分子生物学会に今回初めて参加した。都会「横浜」での開催ということもあり、全体としては楽しめたかなと思う。あまりポスターで議論の輪に入っていけなかったりなど学会の雰囲気になじむのに時間がかかった。しかしながら企業の方や他大学の方の発表などを聞くことができ新鮮であった。特にランチタイムセミナーで文部科学省の方のお話を聞くことができたのは非常に有意義であった。次の学会ではもっと積極的な姿勢で参加し、より活発に議論ができるようにしたい。分子生物学会に携わったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
※	今回初めて本学会に参加したが、オンサイトでは対面でのディスカッションが行いやすいため、現地開催を基本として今後も運営していただけたらと嬉しい。
※	質疑応答の時間が短い。スピーカーを厳選して(減らして)、質疑応答の時間をもっと長くしてほしい。また質問が出ない時は、もっとオーガナイザーが頑張るべき。
※	「現地参加」すると「オンライン」のポスター発表を確認するタイミングが難しく、結局、「オンライン」のポスター発表はほとんど確認できませんでした。また、「現地参加」でポスター発表した場合、対面でのdiscussionに注力し「オンライン」からの反応はほとんど確認できませんでした。「現地参加」と「オンライン」のハイブリッドの場合、「現地参加」者は、「オンライン」の方への意識が薄れるように感じます。個人的には、「現地参加」を基本にし、シンポジウムの一部の「海外招待」の演者の先生のみ、オンライン可にするのが良いように思います。もしオンラインを主軸にする必要がある状況ならば、全面オンラインの方が対応しやすいように思います。
※	かなり厳しい意見を上述しているのでそれを参考にさらなる発展をお祈りします。
※	今回のような感じであればオンラインで参加しようとは思えない。経費が足りないのに安心ステッカーとかドリンクスナック無料配布はいかがなものでしょうか？
※	この状況の中でオンサイト開催を実施していただき感謝しています。2年ぶりに学会の雰囲気を楽しむことができました。随分久しぶりに知人に会うことができ、やはりオンサイトはいいなあと思えました。
※	オンラインへの準備ができておらず、ずさんな感じを受けた。
※	1日のプログラムが多すぎる気がしました、もう少し短くして開催日数を増やした方が、ディスカッションが盛んになる気がし

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	制約の多い中、思い切って開催していただいたのはとても良かったと思います。久しぶりの学会参加は楽しかったです。課題はありますが、今後も続けてほしいと思います。PDFは印刷前提の形式なので、スマホやPCで閲覧するには、いちいちスクロールが必要になり不都合です。Web上に直接情報載せてもらえるより良いです。また、今回のポスターセッションはオンサイトとオンラインが完全分離した形になってしまったので、今後、改善してもらえるとありがたいです。
※	去年の完全オンラインでの学会は演題を効率良く、たくさん聞く分には非常に都合が良い一方で、研究者間での交流の場がなかった点が残念でしたが、今年はオンラインの良さと現地開催のメリットを享受できた点で素晴らしかったです。オンラインのポスター発表システムと要旨検索システムだけは今後改善してもらいたい点ですが、ハイブリッド型の学会は今後も是非続けていただきたいと感じました。言語についてですが、要旨はタイトルのみ日英の併記、アブストラクトは英語でなく日本語に統一してほしいです。
※	2年ぶりのオンサイトで学会は大変楽しかったです。オンサイトで参加していても、後ろの席でスクリーンが見えにくい際や、別のシンポジウム(またはワークショップ)の特定の発表だけ聴きたいなどの場合に、ハイブリッド形式による恩恵を受けることができ大変便利でした。ポスター発表も、帰宅してからゆっくり見逃した分を拝見したり、事前にポスターを見て翌日質問に行ったりすることが出来ました。最終日の最後の市民公開講座は、帰りの新幹線の中で拝聴しました。分子生物学会は日本最大の学会であることもあり、進歩的で、毎年面白い取り組みや議題に出会い刺激をもらえる最高の学会です。B4から毎年参加していますが、もっと早く分生に出会いたかったし、将来もし自分の学生をもったり子供が出来ることがあれば、真っ先に連れて行きたいと思えます。今年もありがとうございました。来年もよろしくお祈りします。「毎日がPCR」
※	年会長および組織委員会の皆様のご尽力に感謝しありがとうございます。ご苦労様でした。
※	オンラインでの視聴において、全体的に音量が低かったということはないでしょうか。特に司会や演者の方がマイクから離れる、顔の向きを変えるなどでかなり聞き取りにくい時がありました。その場合にすでに音量設定が最大になっていたため、音量を調整することができませんでした。
※	しょうもないテーマソングやらステッカー作ってる暇あったらオンラインシステムをなんとかすればよかったのでは？あんな機能不十分なくせに超絶動作が重いシステムを選定した経緯を公開すべき。あと、プログラム集がアップされるのも大会数日前と、あまりにも遅すぎる。もっと早く公開できたのでは？てか、PDFにして配布するなら、題目集だけじゃなくて要旨集も作ればよかったのでは？
※	大変良い年会でした。ハイブリッド開催は画期的で、続けてほしいです。
※	厳しい時勢の中、ハイブリッド開催という英断を取っていただきありがとうございました。多くの不満がAGRI SMILE社Online Confシステムに起因するものだと感じました。ここ数年で発達した業界であるため、なかなか選定も難しいとは思いますが、来年以降のオンラインシステムの改善を願います。
※	オンライン参加の一番の魅力はオンデマンドにて事後に発表を見られることだと思います。今回のような形で、オンデマンドで後日見られないのであれば、恐らく来年からは参加しないと思います。
※	若手参加型のセッションや会を増やしてほしい。また、ポスター賞をお金のかからない(学会負担があまりかからない)上で復活させて欲しい。副賞はいらないけれど、賞をもらえたというモチベーションは本当に嬉しいものだと思います。
※	分子生物学会での口頭発表はほとんどが招待講演に限られるので、新規参入者に易しくない気がする。海外で学位を取り、海外ですべてポストドクをして戻ってファкультーを始めたというような人が会員に知られて多くの人に研究成果を発表できるようにするには時間がかかる。
※	オンライン学会の良さ(交通アクセス面や周りを気にしなくて良い点など)をコロナ禍で認識したが、一周まわってやはり分子生物学会は現地参加が良いと再認識した。手軽な小規模発表会は誰でも国内外からzoomでオーガナイズできる時代になった。したがって異分野に進んだ学者仲間と大勢で集まること、普段は興味が無かったり手が届かなかったりする分野を勉強に行く機会を作ること、これが若手にとっての分子生物学会の存在意義である。「若手は現地ポスター前でおしゃべりしたい」わけではない、こんなことは年齢関係なくzoomのできるものである。小規模学会と分子生物学会の立ち位置の違いについて、議論していただけたらと思うし、今回の現地開催を支えた準備委員会に感謝したい。
※	ハイブリッド開催は大変だったと思います。ご尽力下さった方々、ありがとうございました。
※	学生(若手研究者を含む)の教育・研究、およびディスカッションを重視するのであれば、ポスター発表、小規模な口頭発表ができるような形態に移行し、シンポジウムやワークショップのような大・中規模の口頭発表は、全国および全世界からアクセスできるオンラインをメインにする(この方が多忙なシニア研究者が参加しやすい)。
※	何も変える必要はなく、今まで通りやって欲しいです。
※	大変な中オンサイトでの開催ありがとうございました。2年ぶりに現地での学会に参加し、やはり学会はその場について参加するほうが良いとつくづく思いました。オンラインは便利ですし、交通費もかからないので地方から参加するにはいいですが、やはり人とのコミュニケーションが圧倒的に少ないと感じます。学会は人とひととのつながりの場を提供することが重要だと思いますので、ぜひ現地で開催していただきたいです。出張してしっかりと時間をとって様々な人や、研究分野と出会い学ぶということは大事だと思いました。オンサイト開催で学生もとても楽しんでいました。HPが更新されたらメールでも連絡してもらえたらよかったですと思いました。
※	分子生物学の本筋であるDNA複製やRNAIに関わる研究分野は毎回中心分野として含めるとして、それ以外の分野(例えば細胞生物学に近いもの、癌関連研究など)は、各回ごとに重点化の度合いを変えて特色を出していいと思います。そして4-5年に一度生物系の合同年会を開催して全体を見られる機会があるのが理想です。調整は難しくそうですが。
※	横浜へは東京からの通いだったのが、9時スタートは良かった。フォーラムは遅くなるので出にくかったなるべく多様な発表を聴きたいので、部屋数を増やすよりは期間を長くする方がありがたい。予算の問題もありますが、規模が大きいことでいろいろな企業展示が集まるメリットはあると思うので、ある程度の参加者の規模の確保は必要だと想像します。
※	増加し続ける研究者の業務と、減少傾向の会員数とを考えると、今のまま大規模な年会を開催するよりはハイブリッドを主にするか、改めてオーバーラップする他学会との合同開催を主にするなど、今後の年会は研究者の負担がトータルで少ない形式にされた方がいい気がします。今回の年会は塩見会長の丁寧なメッセージがタイムリーに次々と出されていた点も素晴らしかったです。開催にあたり関係の皆様のご尽力に感謝しています。
※	シンポジウム、ワークショップはオンライン、オンサイトの併用が良いと思う。これまで部屋のキャパに制限されていた点が改善できるのは大きい。さらに、費用面で参加を見送っていた学生などもオンラインで学会に参加できれば学会へ引き込むキッカケ作りとなるように思う。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会のあり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	とてもよく行き届いておりお世話になりました。次回楽しみにしております。引き続きよろしく願いいたします。*ポスター会場付近にクロークを設置いただけますと助かります。
※	プログラムが見にくく、やる気の無さを感じた。
※	毎回の年会でテーマが設定されていますが、意味があるのか。主催する側には思い入れがあるかもしれないが、参加する側としては全く気にしたことがない。
※	シンポジウム等のオンライン配信は画像も見やすくなるため今後も続けてもらいたい。
※	シンポジウムやワークショップが並行してたくさんの演題をやっているの、見たい演題が重なる場合がある。後日オンデマンドで見られるとうれしい(期間限定でよい)。
※	複数の会場での発表・議論を見ていて、日本語のセッションの方が明らかに議論も盛り上がり、大学院生と思いき若手研究者の議論参加率も高かったように思えます。徹底的に議論できる場を提供するのか、海外研究者による最新の知見を聴講する機会を提供するのか、あるいはその両方を目指すのか、学会の立場・役割をもう一度真剣に考える時期にあるの
※	英語のシンポジウム、ワークショップが多すぎた。日本語にしてほしい。
※	旧帝大以外のfacultyもボードに入れて欲しい。分子生物学会は発表内容は優れているが、組織的には凡庸であり、意思決定が上の方で済んでいる印象がある。末端の会員への配慮が足りていない。
※	会員に英語を使わせて国際発信力を高めたい気持ちはわかるのですが、本当にそれが分子生物学会の重視すべきことなのでしょうか。日本人同士のつたない英語のディスカッションを分子生物学会で無理して行う必要はないでしょう。このままでは、シンポジウムなどが、英会話の得意な一部の上位研究者のフィールドに偏ってしまう可能性もあります。むしろ、黎明期のマイナーな分野について、日本語での丁寧な発表や議論をする方が、将来の科学研究の質は高まると思います。参加者にとって、分子生物学会は英会話学習の場ではなく、新たな知識の学びの場としての役割があることを上層部には理解していただきたいと思えます。英語会話力の十分でない研究者であっても、オリジナリティーの高い英語論文を書く研究者はいます。分子生物学会は、日本発のオリジナリティーの高い研究を育てる場として機能してほしいと切に願っています
※	ポスター発表では偶数・奇数番号が隣り合っていたところもあったので、一定の距離を確保して発表することは困難であった。会場面積にゆとりがあったので、間を置いてポスターを配置すると良かったのではないかと。ポスターは現地発表に限ると改めて感じた年会だった。一方、ワークショップやシンポジウムは聴講のみだったが、オンラインで十分できると思った。オンラインだと、海外研究者も気軽によべるのではないかと。(時差の問題はあるが)。分子生物学会はここ数年で国際化が急速に進んでおり、私のような若手研究者が海外を意識する良い機会となっているので、今後も国際化を進めてほしい
※	従来のオンサイト開催だとしても、冊子配布やPDFのベタ打ち物を配布するかどうかなどの議論ではなく、DXを積極的に大胆に取り入れた形を模索するのがいいのではないのでしょうか。どこにどのように取り入れるかなどの議論の方が建設的だと
※	久しぶりのオンサイトの学会で、非常に楽しかったです。ありがとうございました。
※	高校生参加は非常に良かったと思います。高校生や高校の先生と交流できる時間があってもよいのかな、と思いました。
※	特になし。
※	個人的にはオンサイト開催が学会の最大の価値だと思っています。そうでなければ今はやりの単発のwebinarと同じです。ただ、分生規模の学会は決まった場所でしか開催されず、参加希望者それぞれの事情で参加できなかった方々が参加可能になるという点で、ハイブリッドは良かったと思います。
※	会の規模が大きくなり、自分の専門分野のことを王フォローするための会としてはちょっと希薄で効率が悪い会になっているように感じることもあります。ただ、専門外の異分野だけ少し話を聞いてみたい、というようなワークショップにふらっと立ち寄って勉強するには最適な場となっているとも感じます。
※	今回はハイブリッド開催で全体的にとっても良かったと思います。(できれば、オンラインのサイトが使いやすく、従来のアプリ様の形でマイルスケジュールも組めるようになっていたらありがたいと感じました。)。それには費用の面の負担も大きいことと存じます。以前より意見がありますように、(様々な事情で厳しい面もあるようですが)、生化学会と分子生物学会の合同開催(開催日時が近く、一部の分野は発表者も内容も重なっていたこともあり)は再考しても良いのではないかと感じまし
※	写真や動画の撮影はポスター会場を含めて禁止であることを、もっと幅広く頻りに周知してほしい(会場に明記するなど)。
※	参加者としてはオンラインでの参加の方が様々なワークショップに参加することができてよかったと思っています。今後の感染状況がどうなるかわかりませんが、ハイブリッド形式での開催は続けてほしいと思いました。
※	ワークショップのオーガナイザーにもっと情報を送ってほしい。一般からの採択者を選んだあと、その人たちの連絡先も自分で調べないとわからないのは非常に不便だった。また、海外からの一般発表からの採択者に関しても、こちらから問い合わせないとどういう状況なのか教えてもらえず、他の発表者の方々も不安がっていた。
※	今年度開催では特に多くの労力を払われたことに感謝しています。総じていえばよい学会だったと思います。ただ、参加者や出展会社の減少、学会のアプリの改良は必要と感じます。
※	学会は情報収集、勉強のみのものではなく、研究者の交流の場でもあるので、オンサイト中心でよいと思います。
※	コロナ禍で大変な中、現地開催で発表できその点では良かったと思う。その一方でポスターのオンライン化、コメント機能などあまりうまく活用できていなかったの、次回以降は改善すべきである。要旨の検索機能がないなどの不満もあった。
※	オンサイト参加は、怖さがあり見合わせました。一方で、オンライン参加で、例年通りの収穫が得られるか確信が持てず、結局参加自体を取りやめました。昨年、今年のオンライン部分に、参加者が手応えをどの程度感じていらっしゃるか知りたいです。また、実り多いオンライン参加のノウハウを教えてください、次回以降に希望が持てます。
※	感染対策が不十分のように感じた。当日に来る方や来場時には、ワクチン接種証明書の提示の義務付けもしくは抗原検査を行う必要があるのではないかと感じた。また、当日に安心ステッカーを配布時にドリンク交換チケットが配られる予定であったが、数が足りないとのことで、交換チケットをいただくことができなかった。付随する商品等があれば、安心ステッカーが欲しいと思う方がより増えると思うため、もう少しバリエーションを増やしてもよいのではないかと考える。
※	(限りある学会運営資金のなかで)優先順位を明確にすべきだったと思う。オンラインがおおいことを見込むなら、抗原検査は不要であったし、オンサイトで安心して参加してもらうことを目的ならクロークやネット環境をより整備すべきだったと思いました。クロークがいっぱいになり預けられない状況でした。

質問19. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください。分子生物学会は、今後の年会的あり方を見直す過渡期にさしかかっています。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、厳しいご批判の形でももちろん結構ですので、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	パンデミックの状況が直前まで不確定な状況のなかで開催を実現させた組織委員会に感謝します。参加者の立場ではリモートで複数会場の講演を聴講できるハイブリッド方式のメリットは大きい。今回はオンサイト参加者も多く、会場がガラガラということもなかったのは幸이었다。しかし運営側の目で見るとハイブリッド運営のための機材、スタッフの投入量は大きく、コスト面で他のサービス(アプリやオンデマンド配信)を犠牲にした面があったように感じる。
※	アプリは必須オンライン検索サイトの充実冊子はいらない
※	大学院生たちを育てる観点から言えば、オンサイトの利点の方が、オンラインの利点よりも大きいと感じる。過去の大会でのアプリは便利だったので、今回も今後、オンサイトで参加するにあたり、アプリは欲しいと感じた。
※	子育て世代が参加しやすいタイムスケジュールのプログラム(小さい時はもちろん、小学生になると泊まりの出張に連れて行くのは厳しい)にしてください。
※	分生年会最初のハイブリッド開催としては、成功だったと思う。不満はいろいろとあるかもしれないが、塩見美喜子会長以下、全てのスタッフはよく頑張ってくれてサポートしてくれていたと思う。今後、この経験は生かされ、不備なところは、どんどん改善していくと思う。
※	このアンケートを通して感じたことではあるが、国内学会なのか、国際学会なのかを明確に意識した方が良いのではない。そこが曖昧ゆえに、余計な配慮が生じているように思われる。国内学会であるならば、招待講演以外は日本語だけで構わない一方、国際学会であるならば英語だけでは不十分であろう。オンサイトとオンラインを併用したハイブリッド開催が困難なことは理解しているが、オンサイトとオンラインが分断され、年会参加者同士の交流が減っているが、このことが年會に参加する意義を薄れさせているように感じられる。分断の原因には運営側・参加者側双方の配慮が不足であろう。運営側にはより使いやすいツールを採用していただき、参加者側はより積極的にオンサイトとオンラインの垣根を越える姿勢
※	感染状況が落ち着いており久しぶりにオンサイト参加できました。規模が大きいだけに準備は大変だったと思いますが、ハイブリッド開催良かったです。参加方法決定がギリギリまで変更可能だったことも助かりました。早めに決める必要が求められるのであれば、不参加かオンラインにしたと思います。オンサイト限定と比べ聞き逃すとか諦める演題がなく聞きたいものは聞けました。対応は大変だと思いますが、上記項目にも記入した通り、質疑は英語のみに限定せず活発な議論ができる余地を残すとか、事後配信やポスター掲示も内容により発表者に選択の余地を与えるという自由度がある方が良いでしょう。会場ではwifiはほぼ問題なく繋がりましたが、椅子とコンセントがもう少し欲しい。密を避けるため会場内の椅子が減らされていたけれど、会場外の椅子はあまり増えてなくてどこもいっぱいでした。コンセントを充実させてもらえると充電器を持ち歩く必要がなくなり助かります。久しぶりに楽しい学会でした。ありがとうございました。
※	やはりオンサイトでの年会開催の重要性を再認識しました。特に学生さん達にとっては、研究者・科学者コミュニティの幅広い多様性を感じる機会として、大いに刺激を受けて励まされるだろうと思います。研究成果の発表と議論だけに限ればオンラインでも事足りると思いますが、必要最低限以下の情報までしか得られないので、若い世代に希望を与えるにはオンサイトの年会が重要だと思います。オンラインの利点として、(時差の考慮は必要ですが)海外の研究者達からもご講演頂き易いことは大きいので、この利点は今後生かされると良いと思います。
※	パンデミックによりやむを得ずオンライン開催またはハイブリッド開催となったが、パンデミック後も完全オンサイトに戻すのではなく、この経験を活かした新たな学会のあり方に挑戦することが望ましい。塩見年会長および組織委員のみならず、困難な時期にすばらしい学会を企画・運営してくださりありがとうございました。
※	研究室でも発表を聞くことができるのはオンサイトの大きな利点だと感じましたが、ポスター発表はやはりオンサイトの方が意義があると感じました。シンポジウムのライブ配信は是非今後も続けてほしいと思いますが、基本はやはりオンサイトでの開催を希望します。
※	Q8に関連してですが、シンポジウムやワークショップは、まとまった成果を挙げられた研究者の生の声を聴ける面白さがある反面、既に発表済みの「出来合い」や「馴れ合い」のものもあるので、刺激や感銘を受ける割合が少ないように感じます。そういう意味で、ポスター発表にもう少し力点を置くような学会の方が面白くなるように思います。
※	workshopで演者として参加したが、運営スタッフが横柄でとても不快だった。
※	学会配信のメールにて「やはり人と会って話すといいね!!」という意見が多く聞かれたのであれば、オンライン開催についての意見(不満)を年齢層や所属などに分けて統計を取ってみても良いと思われる。場所を選ばず、開催地の確保などに経費を割く必要がなくなるのであれば、オンライン化を推進することが望ましい。上記意見を聞く限り、オンラインでもできることがオンサイトで良かったと感じるのは、運営の中にオンラインを使い慣れている人たちが少ないのではないだろうか。予算について、オンライン化に伴い企業の参画が望めずに先細りが予期されるのであれば、関連する学会で合同の年會を開催した方が一か所に参加者や参加費が集中して都合が良い。できればその延長線上で、学会発表用のアプリケー
※	オンラインでポスターについてコメントできる点が良かったです。オール発表もオンラインで視聴でき、ハイブリッド形式で感染対策をしつつという点で良かったと思います。不満点はonline confです。動きが重く、お気に入りにしてもその発表を探しにくいといった点がありました。来年は改善されることを期待しています。
※	分子生物学会は巨大になっているので、オンサイトの会議は他の学会にまかせて、オンラインのみにしてはどうか(少数意見だとは思いますが)。それによって海外からの参加を容易にして、他の学会とは一味違うものにしていくことも可能なので
※	オンライン併用は地方在住には有り難いです。また、難聴なのでオンサイトで参加中もオンラインの音声のみイヤホンで聞くことができ、非常に聞き取りやすく有り難かったです。